建築と社會

新年號



大正六年九月十四日（第三種郵便物認可）
昭和六年一月一日發行（毎月一回一日發行）（第拾四輯第一號）

第1號

第14輯

昭和六年一月一日

日本建築協會

謹賀新春

平素ハ格別ノ御愛顧ヲ蒙リ厚ク御礼申上ケマス
何卒本年モ倍旧ノ御引立ト御用命ヲ偏ニ御願申上ケマス

昭和六年正月元旦

営業種目

建材第一部
三建工業製スチールサッシ。スチールシャッター。ファイヤーカーテン。三建工業製スチールドアー。スチールパーチション。メールシーウト。ブロンズドアー。
其他鋼板製品一式

建材第二部
モスラー金庫室設備。スチールクリートメッシュ。メタルラス。グラツヂングマクビーン社製各種テラコッタ。リチャードウイルコックス各種ドアーハンガー。建築用大理石材。人造石。富國石。富士スレート。ロバートソンメタル。天窓。通風器。セメント防水劑ハイドロタイト。特許安全吊足場機。

塵芥掛
塵芥燒却及處理裝置、重油使用各種燒却爐

煖房部
煖房、換氣、温濕度調整裝置。

衛生水道部
衛生、給水湯、汚水淨化裝置。
煖房衛生材料販賣掛
煖房、衛生裝置用諸材料、器機、レイ式重油燃燒機、アトラス氣送裝置、トロイ洗濯機械。

製氷冷藏部
製氷、冷藏、冷凍、冷房裝置、冷凍機。

電氣部
變發電所、送電線路、屋内電氣裝置、萬歳コンクリー電柱

販賣設計監督工事請負

三機工業株式會社大阪支店

大阪市東區備後町二の廿一 野村ビル 電本町 五二六一 二五六七

三井物産各地支店ト御取引ノ部機械部

日本建築協會會報

建　議

本會は大阪都市計畫第二次地區指定に關し左の通建議書を大阪府經由當局へ提出したり

大阪都市計畫第二次防火地區指定の件建議

大阪都市計畫第二次防火地區の指定は大阪市の現狀に鑑み之が急務たるを認め當協會に於て調査研究の結果其の指定區域に關し別紙圖面表示の成案を得たるを以て右及建議候也

昭和五年十一月二十日

社團法人日本建築協會會長
工學博士　片岡　安

內務大臣安達謙藏閣下

理由書

都市に於ける災害中最も恐るべきは火災にして其の慘害の悲痛にして且損害の巨額なるは他に其の比を見ざる所なり之を大阪の例に見るも火災に因る損害年額約三百萬圓を算し斯くして常に市民生活は脅威せられ都市の繁榮は著しく阻害せられつゝあるが如き現狀なり之等の不安を除き都市の機能を全からしめん爲には更に防火地區指定の意義を徹底せしめ都市防火の目的を達成することは最も重要にして且緊要なり大阪に於ては大正十二年十月一日以降防火地區指定を實施せられ爾來都市計畫事業の遂行に伴ひ漸次耐火構造の建築物は增加しつゝあるも現行防火地區は其の範圍餘りに狹少なるを以て防火の目的を達成せんには不徹底なるを免れず殊に關東大震災の慘禍に鑑み更正都市計畫事業の決定を見更に第二次都市計畫成りたるを以て此の機會に於て速に第二次防火地區を指定し以て所期の目的を達成せられんことを望む

會　合

第五部（住宅）委員總會

日時　十一月十七日午後五時三十分—同八時三十分

會場　住友俱樂部

出席者　富士岡重一　淺野金藏　佐々木莊一　中山榮太郎　增山　新平　岩崎勇　末澤周次

研究事項一、模範的小住宅平面圖に付、第一分科に於て研究決定したる住宅平面圖に付審議修正を加へ愈々第一案より第三案迄を決定したり

但し本日日高委員長欠席に付委員長の査閱を經決定すること、右は淺野委員に於てトレースをなし書寫眞として委員全部に配布すること

第一部（法制）委員總會

日時　十一月十八日午後五時三十分—同八時

會場　ライオン食堂

出席者　委員長　今林彦太郎　第一分科　小川安一郎　北垣熊之介　椎原　兵市　第二分科　佐藤松太郎　竹中　景一　第三分科　高田利一郎　和田貞治郎

記事一、病院、產院取締規則成案に付審議をなし尙宿題となりし條項に付協議決定をなし會長に報告する手續を委員長に一任即決せり

一、本年度事業報告に付各分科より委員長へ報告書を提出する事を申合す

評議員會

日時　十一月十九日　午後五時—同六時三十分

會場　清交社

出席者　會長片岡　安　副會長日高　胖　監事　波江悌夫　池田　實　岩尾　保衛　小川　陽吉　小川安一郎　大原　芳知　木村　寬一　久保田筆雄　小西　一夏　阪井　米吉　酒井勇三郎　白石登喜男　芝田　知重　須川廉太郎　高田利一郎　高橋　榮治　德政　金吾　本間　乙彥　松本　儀八　森本　藤吉　山田　收平　山田　初次　山中　茂

議事一、昭和六年度收支豫算の件

二、會費　賛助費滯納者處置の件

第三部（資料）委員總會

日時　十一月二十二日午後六時—同九時

會場　清交社別室

出席者　委員長　波江悌夫　谷口　德政（代）　羽原德衛　小山九市　中村　義雄　須川廉太郎　山田　初次　高岡與三吉　松尾　末吉　高田利一郎　森本　藤吉　谷　隆夫　林　好雄　藤村　愛衛　阪井　米吉　志村伊三郎　城口　龜吉　須賀藤五郎　伴　秀雄　芝田　知重　三機工業株式會社　須賀　商會　呼子　正　藤本賢太郎

記事一、會食後委員長より一場の挨拶あり今年中は一身上の都合及經費等の關係に依り所期の成績を擧げ得ざりし事を遺憾と思ふ旨並に來年度の委員諸氏は何卒本年度事業を繼續し成績を擧げられんことを述ぶ

一、須川幹事より過日の評議員會の際白石氏より建築資料陳列戶棚の設置希望を述べられし事を披露す

一、ビルヂングの廊下に陳列場を設置する希望者多く協會事務所前の廊下を其爲に借用し得るや否やを交涉し然る後準備に着手の事

昭和六年度常設委員會委員編成委員總會

日時　十一月二十五日午後五時—同八時

會場　住友俱樂部

出席者　理事　日高　胖　監事　波江　悌夫　光安悌之助　常務　小川　陽吉　小川安一郎　阪井　米吉　村野　藤吾

第一部　池田　實　今林彦太郎　加藤　善吉　竹中　景一　武田　經一　高田利一郎　永田三次郎　八木幸次郎

第二部
岡本新次郎　木村　寛一　澁谷　五郎
芝田　知重　姫野　武　藤枝　良一
山本　春水
第三部
伊東宗太郎　白石登喜男　須川廉太郎
谷　隆夫　高岡與三吉　野村　一郎
三木　來三　山田　初次　山中　茂一
第四部
大野　直平　黒田　茂　中島　智喜
古川　豐三浦　尚史
第五部
淺野　金藏　岩尾　保衛　酒井勇三郎
中山榮太郎　富士岡重一　增山　新平

記事一、午後六時開會、日高副會長より編成委員は昨年度委員會委員長と相談の上依頼せしことを述べ、昭和六年度に於ける各部委員會の豫算に付説明をなし、併せて今後一ケ年間大いに盡力あらん事を希望する旨挨拶ありたり
一、次いで各部に於て委員選定に付協議し大體に於て其の人選を終りたり

監事引繼會

日　時　十一月二十七日午後五時―同六時
會　場　ライオン食堂
出席者　退任監事　池田　實
新任監事　波江　悌夫
光安梶之助
池田舊監事より新監事に口頭引繼を了したり

通常總會

日　時　十一月二十七日
會　場　大同ビル八階集會室
出席者　會長　片岡　安外二十九名
午後六時十分、會長より出席者定數に滿たざるの故を以つて不成立の旨を述べ解散す

緊急常務會

日　時　十一月二十九日午後四時五十分―同六時
會　場　本協會會議室
出席者　理事　片岡會長　日高副會長
監事　光安監事
常務　小川　主記　小川安主記
阪井　主記　松本　主記
大原　主計　德政　主計
小西　編輯　高橋　編輯
本間　編輯
記事一、豆相地方大震災に付實地調査出張の件
二、通俗講演會開催の件

通常總會

日　時　十一月二十九日午後六時―同七時
會　場　大同ビル八階集會室
出席者　片岡會長外十七名
午後六時會長開會を宣し、直ちに報告に入る
報告一、昭和四年度收支決算報告
二、昭和五年度事業報告
議案一、昭和六年度收支豫算の件

十二月例會（見學）

日　時　十二月六日午後二時―四時半
見學先　新築の大阪市中央市場
出席者　今林彦太郎氏外十九名
概記　一、前日の降雨に本日の天氣を案じられしが幸ひ天にて終日したるも寒氣は頗に烈しきを覺ゆ定刻二時といふに會員續々と來會一先づ臨時休憩室に入り休息、午後二時半同室に於て小川陽常務より本日見學順序に付説明ありて後一同別室に設けし會場に入り錢高組に於て準備されし茶果の饗應を受けつゝ施工者錢高組社長錢高久吉氏の挨拶中央市場工事主任大阪市技師兒玉淳一氏の中央市場建設經過及竣工に付説明本協會監事光安悌之助氏の一同を代表して謝辭等ありて全員を五班に分ち見學に移る
辛木大阪市技師外數名の案内により、卸賣人賣場、仲買人店舗、附屬賣場、冷藏庫其他全部を見學終りて五階の事務所を見て解散を告げ各自歸途に着く

第二部（敎化）委員會

日　時　十二月八日午後五時三十分―同八時
會　場　野田屋
出席者　委員長武田五一　幹事小笠原銅
委員　小西　一眞　澁谷　五郎
姫野　武　藤枝　良一
山本　春水
記事一、昭和五年度當委員會の事業報告書を作成し晩餐を共にし委員長より謝辭ありて散會せり

常務會

日　時　十二月十二日午後五時三十分―同八時
會　場　本協會會議室
出席者　理事會　長　片岡　安
理事副會長　日高　胖
監　事　光安梶之助
常務　主記　小川陽吉、小川安一郎、阪井米吉、松本儀八
森本藤吉
常務主計　岡部顯則　德政金吾
常務編輯　村野藤吾
報告
一、十一月分會計報告
一、十二月例會見學報告
一、震火災と建築大講演會報告
一、第四部委員長よりボーリング表完成報告
議事
一、病院、產院取締規則改正建議案の件
（第一部委員會委員長報告）
一、常設各部委員會委員に關する件
一、職員下半期賞與の件
一、會員詮衡
一、雜誌寄贈の件

第一部（法制）委員總會

日　時　十二月十三日午後五時三十分―同八時
會　場　本みやけ

出席者　委員長　今林彦太郎
第一分科　小川安一郎　北垣熊之介
椎原　兵市　永田三次郎
村野　藤吾
第二分科　小川　久市　佐藤松太郎
竹中　景一　武田　經一
第三分科　久保田筆雄　島田　良馨
高田利一郎　和田貞治郎

記事一、本年度に於ける當部各分科の事業報告書を作成し、委員長より謝辭ありて一同會食の後散會せり

第四部（災害）委員會

日時　十二月十五日午後六時半―十時
會場　土佐堀青年會館
出席者　委員長　光安悌之助
委員　秋田喜代治、川口一二
黒田茂、中島智喜、古川豊、三浦尚史、落藤藤吉、加藤善吉

記事
一、夕食後七時光安委員長より本夕は豆相地方震災實地視察者の報告ある旨を告げ開會
一、先づ三浦尚史氏より地圖により豆相地方震災の一般的視察報告あり次て落藤藤吉氏より地震視察に付て感想其他詳細の説明報告あり夫れより意見の交換あり
一、次に委員長より本年度委員會終了に付謝辭ありて散會

第五部（住宅）委員會

日時　十二月十五日午後五時二十分―同八時三十分
會場　住友倶樂部
出席者　委員長　日高　胖
幹事　大原　芳知
第一分科　富士岡重一　淺野　金藏
佐々木莊一　中山榮太郎
丹藤　良雄　南　信
第二分科　南　信　岩尾　保衛
岩崎　勇　酒井勇三郎
第三分科　岩尾　保衛　魚田　常治
酒井勇三郎
第四分科　大原　芳知　篠崎　兼二

記事一、會食後第一分科　富士岡主査、第二分科南主査、第三分科酒井委員各々該分科會に於ける本年度中の事業經過報告をなし同時に事業報告書を委員長に提出せり
一、委員長全委員に對し其の勞を謝し本年度に於ける本委員總會を終り散會せり

講演會

本年十一月二十六日豆相地方に突如大震災勃發に付我協會は第四部災害委員川口一二、落藤藤吉、三浦尚史の三氏に急遽實地調査を依頼し其報告を兼ね大阪市民に對し震火災と建築に付注意を喚起する爲め左の通講演會を開きたり聽衆無慮二千名を算し大盛會裡に閉會を告げたり

震火災と建築大講演會

日時　十二月十日（水）午後六時開會
同九時半閉會
主催　社團法人　日本建築協會
後援　大阪朝日新聞社
大阪毎日新聞社
會場　大阪市中央公會堂
司會者　日本建築協會副會長
工學士　日高　胖氏
伊豆地震に於ける地盤變動に就いて
京都帝國大學教授理學博士　小川　琢治氏
豆相地方震災視察報告
日本建築協會災害委員
大阪市技師工學士　川口　一二氏
架構耐震論の發達
京都帝國大學助教授
工學博士　坂　静雄氏
現在都市に於ける木造建築の不安
京都帝國大學講師
都市計畫大阪地方委員會委員
工學士　池田　實氏
實永、安政兩度の大震と大阪
日本建築協會監事
工學士　波江　悌夫氏
耐震耐火の建築
日本建築協會會長
工學博士　片岡　安氏
豆相大震災實況映寫
會場に震火災に關する參考品陳列

轉勤轉居

會員

田中　光治君　北區澤上江町六丁目四〇ノ一
鈴江　民一君　浪速區稻荷町二丁目櫻川ビル裏大阪工業協會内
馬野　七登君　市外吹田町濱田町二七七〇
國枝　博君　北區堂島大橋南詰三菱ル內國枝工務所
高井　久治君　府下中河內郡英田村大字吉田二六九
木津　孝雄君　市外吹田町片山前二三七九
肥後　一夫君　南區竹屋町（三ツ寺筋角）肥後設計圖案社
角田　吉章君　大阪木村組（電南三〇四一九二）
矢野　義夫君　大阪木村組（電南三〇四一九二）

會員（地方在住）

中川　廣君　東京府下大森入新井町不入斗五三八
西山　銀吉君　東京府下杉並町阿佐ヶ谷五〇六
倉崎寛一郎君　東京市外荏原町戸越九二三

普通贊助員

大野　喜作君　臺北市大正町一丁目三〇
山下政松氣付
高濱　利道君　東京市芝區白金三光町二六〇
遠山　勇吉君　東成區南島町一八〇
石川禎一郎君　東區石町一ノ八

入退會

入會者

會員

柿原廣太郎君　府下三島郡茨木島屋町七二五

川野由太郎君　成區片江町七六今里土地株式會社

山下清太郎君　京都市萬壽寺通東洞院西入

特別賛助員

永島庫三郎君　兵庫縣武庫郡精道村芦屋字岸の下八〇

樅山連治郎君　兵庫縣武庫郡今津町津門六七七

普通賛助員

山崎　敏雄君　北區北同心町一ノ七岸本郁範方

宮後　光三君　天王寺區上綿屋町二〇

退會者

會員（地方在住）

田中豐太郎君　前島浩一君

普通賛助員

籠谷　種次君　若宮松藏君　伊達三郎君

秦　光義君

寄贈雜誌

建築雜誌　每號　建築學會

日本建築士　每號　其會

建築世界　每號　其社

建築新潮　每號　洪洋社

建築學研究　每號　其會

建築土木材料　每號　建築資料協會

建築畫報　每號　其社

建築每號　中央建築會

住宅　每號　住宅改良會

インターナショナル建築　每號　其會

滿州建築協會雜誌　每號　其協會

新建築　每號　其社

朝鮮と建築　每號　朝鮮建築會

國際建築　每號　其社

土木建築　每號　其社

土木建築材料商報　每號　其社

土木建築工事畫報　每號　其社

臺灣建築會誌　每號　其社

都人　每號　其社

大阪工業俱樂部　每號　其協會

建築業協會々報　每號　其協會

大阪土木建業組合報　每號　其組合

庭園と風景　每號　日本庭園協會

工業新聞　每號　其社

東洋建材時報　每號　其會

名古屋工業會々報　每號　其社

日本建材新聞　每號　其社

木材彙報　每號　大阪木材協會

木材新聞　每號　關西木材商報社

網島工業會誌　每號　其社

工事畫報　每號　其社

工業評論　每號　其社

工業と社會　每號　東京工業會

工業　每號　大阪工業會

工業要錄　每號　其發行所

大阪　每號　大阪都市協會

都市問題　每號　東京市政調査會

學士會月報　每號　學士會

工政　每號　其會

國立公園　每號　其社

關西園藝　每號　其社

塗料　每號　日本ペイント株式會社

塗工の魁　每號　其社

駿工　每號　其會

電氣學會雜誌　每號　其會

超科學　每號　大阪網島工業會

電氣評論　每號　其社

帝國鐵道協會報　每號　其會

朝鮮鐵道協會會誌　每號　其協會

鐵道軌道經營資料　每號　鐵道同志會

趣味の園藝　每號　關西園藝會

セメント界彙報　每號　日本ポートランドセメント同業會

エンヂニヤリング　每號　其社

經濟資料　每號　東亞經濟調査局

通俗衛生　每號　大阪府衛生會

京都の實業　每號　京都商工會議所

都市創作　每號　其會

產業　每號　其會

日本美術協會報告　每號　其社

法律時報　每號　日本評論社

役員

會長　理事　評議員　片岡安

副會長　理事　評議員　古宇田實

副會長　理事　評議員　日高胖

監事　波江悌夫

監事　光安梶之助

常務（主記）評議員　小川陽吉

常務（主記）評議員　小川安一郎

常務（主記）評議員　阪井米吉

常務（主記）評議員　松本儀八

常務　主記）評議員　森本藤吉

常務（主計）評議員　大原芳知

常務（主計）評議員　岡部顯則

常務（主計）評議員　德政金吾

常務（編輯）評議員　小西一良

常務（編輯）評議員　高橋榮治

常務（編輯）評議員　本間乙彦

常務（編輯）評議員　村野藤吾

評議員　池田實

評議員　伊東宗太郎

評議員　岩尾保術

評議員　小笠原銅

評議員　岡本新次郎

評議員　加藤誠二

評議員　籠田定憲

評議員　木村寛一

評議員　久保田筆雄

評議員　小寺彌一

評議員　酒井勇三郎

評議員　白石登喜男

評議員　芝田知重

評議員　篠原太郎

評議員　須川廉太郎

評議員　須藤隼人

評議員　武田經一

評議員　高田利一郎

評議員　永田三次郎

評議員　原科準平

評議員　前内文二郎

評議員　三木來三

評議員　村上徹一

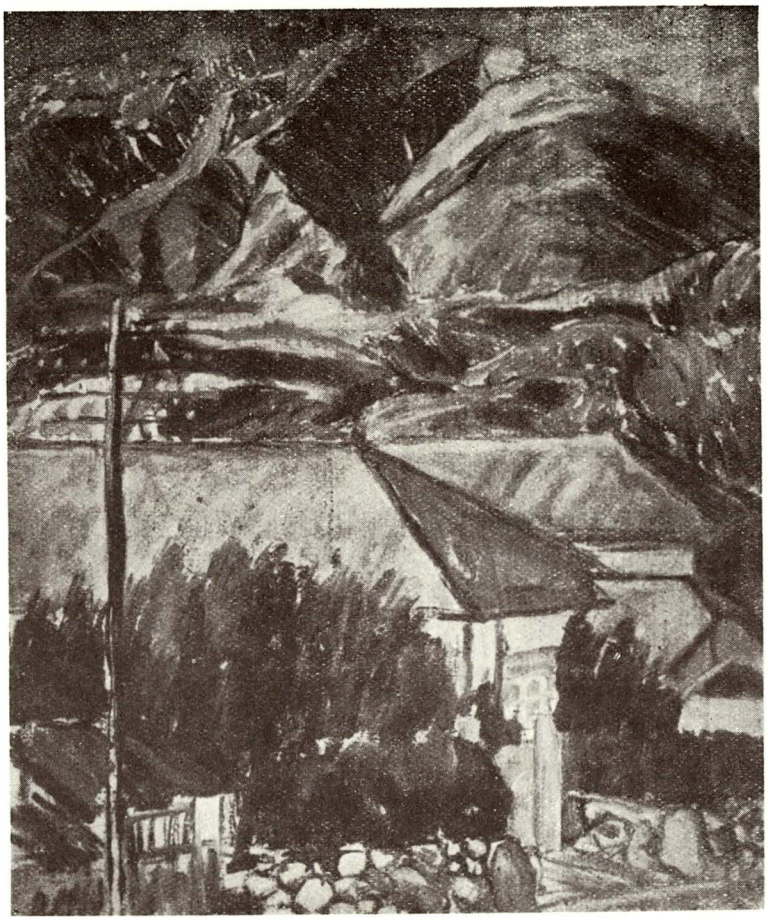
評議員　八木幸次郎

評議員　山田晥平

評議員　山田初次

評議員　山中茂一

評議員　渡部圭吾



山　　安井武雄氏畫

建築と社會　新年號

第十四輯第一號　昭和六年一月發行

目次

卷頭挿畫……安井武雄…（一）
建築界の回顧と展望……片岡安…（三）
科學的建築へ……田邊平學…（五）
住宅と道路―安定のシムボル・轉變のシンボル……藤田進一郎…（六）
充分と必要……本野精吾…（八）
一九三〇年を顧みて……黒田鵬心…（九）
興味深い時代……上野伊三郎…（一一）
動きつゝ見る……武羅野淘語…（一三）
字治上神社本殿と上代住宅……前田松韻…（一七）
豆相地方震災視察報告……川口一二　落藤吉…（三五）　三浦尚史
豆相震災地順禮記……巽純一…（五八）
『建築と社會』昭和六年度特輯計畫……（八八）
國際新建築集……（一）
京阪神新建築集……（一）
全日本新建築紹介……（一）
東京帝室博物館建築設計圖案懸賞募集に就て……（八七）
『建築と社會』昭和五年度總目次……（卷末）

我建築界の回顧と展望

工學博士　片岡安

昭和六年を迎ふるに當り、過去數年間の我國の建築界を回顧しその展望觀を述ぶることは必ずしも無意義ではあるまい。從來新年號には恒例として新年らしき希望むしろ期待を輯集するを常とする。而してそれに關する小品もしくは論文は何れも例年大した變りはないので、讀者の眼に何等の映照なきやの憾が多いのであるが、本年初に於ける過去の回顧は恐らく未だ嘗て見ざりし變調のものであることは十分に想像し得らるゝのである。吾人は我建築界は過去數年來常に進展又進展の一路を辿り來りその量に於て漸次增進し、その質に於て著しき發展を遂げ、又その藝術的取扱に於ても益々複雜多樣に進んで來たのであるが、昭和五年に入りてより世界的經濟難に加ふるに我國特殊の不景況は益々深刻味を帶び來り、一般產業の衰頽、失業者續出の慘狀は遂に我建築界の進路に一大暗雲を投げるこゝとなり、こゝに十數年來嘗て見ざりし大不況を現出するようになつたのである。

◇

建築界の大不況は敢て驚くの價値はないとも考へらる、一般の生產業は蠶絲界を始め纖維工業はもとより、化學工業、機械工業、造船業、製鐵業何れも疲弊困憊見る影もなき慘狀であるから、建築物の建設のみ獨り繁昌する筈はないのであるが、建築界の方面のみから見れば實に悲しむべき現象であつて、漸くその緒に就きかけた我建築界がその活躍の本舞台に上らんとして一頓挫を來たしたようなものである。由來我國の建築は明治維新以來その藝術的取扱に於て非常に六ケしき境遇に立到り、又その社會國家の進運上からは一大改造の急要に迫られ、その兩方面の解決は實に我建築界の直面せる最大最高の責務であつた。詳しく言へば我國の建築は明治維新の開國進取の國是確立以來國際文化の舞台に臨む爲めにはその建築物に一大改造の機運が迫つて來たのである。即ちその建築物の藝術的取扱は過去千年來の木造建築に施こされたる和風建築の樣式を踏襲し得ざることゝなり、更に從來の木造建築は石造不燃燒質の堅牢なるものに改造せねばならぬ破目に立到つたのである。その理由は敢て歐米の文化に追隨模倣するといふ單純なる風潮のみではなく、むしろ社會の進運に實際的の堅實味を加ふる爲めと、堅實不燃質の建造物としての藝術的表現の必要が現實に起つて來たからである。然るに我國のその當時の建築界は到底それ等の大問題を解決し、その對應的活動をなすの實力を持たなかつたのである。そこに歐米の直輸入の貧弱なる建築改造が徐々に展開されて來たのである、即ち明治時代の我國の建築を單純なる模倣時代なりと概評する所以も明白に理解さるゝのである。

◇

明治年間の模倣時代も可なり長い期間であつた。而してその期間も明治十五六年までは全く豫習期であつて、建築らしきものは凡て外人技術家の設計に成つたのである、明治二十年頃より我國の青年建築家はその習得せる技術を以て獨自の設計を試み相當の作品を造り上げた。所謂模倣萬能の時代を現出したのである。由來我國民は外來品模倣の天才であり、更に進んでそれを我國土、國風に調和せしむるの技能を發揮すべく十分なる咀嚼力を有することは過去の歷史がそれを證據立てゝ居るのである。建築の革新期に於ても此模倣は巧妙に展開され可なり適當に咀嚼されたことは事實である。然しながら石造の歐米風の建築は相當にこれを咀嚼したとて容易に我國固

有の建築藝術をそれに織込む譯にはゆかない。その結果之を大局より見れば我國の明治年間の建築界はいつまでも歐米各國の建築を模倣せるものとしか見られないので美學者の所謂建築の暗黒時代を形造つたのである。大正の初より我國の建築界は漸次黎明期に入り、模倣を脫して獨創、西洋風の樣式に東洋藝術を織込ませんとの努力更に進んで國際的分離派の擡頭等愈々その方面も廣汎となり、その努力に參加する建築界の人士も非常に多數となり百華絢爛の狀況を呈する樣になつたのである。而して我國に國際的關係も實質的に大に向上し來り、その文化進展上都市の建築物は凡て改造又改造の時代を現出し、都市計畫の凡る事業の進展に伴ひて建築物は日に月に現代化せんとして來たのである。之を言ひ換ふれば、明治維新の開國進取の國是が樹てられて以來その必要に迫られて居つた都市建築の改造が今やその實現期に入り、着々とその成果を示さんとするようになつたのである。而してその實現に際して特に急要なるはその術に堪能なる人士と豐富なる資金とである。此兩者に欠くるときは折角の此の機運到着すればとて何等好ましき成果を擧げ得ざるは明かである。

◇

大正年間に於ける我國の建築界は大體に於てその人とその資金とに於て必ずしも貧弱ではなかつた過去四五十年に比してむしろ頗る十分であつた。その結果都市建築は着々と改造され、過去の木造建築の都市も漸次堅實なる耐震耐火の都市に變りつゝあつたのである。然しながら改造の難關は一朝一夕に解決すべくもない、少くとも更に五十年百年の歲月と、數百數千の斯道に堪能なる技術家と、及その建設に必要なる資金の供給とが繼續的に、しかも最も順調に運ばれざる限りその所期の目的を達成するに甚しき支障を生ずるは明かである。大正年間に漸く順調に都市改造の機運が醸成され、その實現着々と進行せんとして、彼の大正十二年の大震災に際會し、帝都に於ては一時その歩調を止めたかの觀があつたけれども國民一致の異常の努力により更にその歩調を新たにし、都市改造の實績は各都市と共に緩慢ながら進行しつゝ來たのである。然るに昭和二年の金融動亂を第一の蹉跌として、我國の經濟界は漸次衰頽の一路を辿り、遂に一昨年末より昨年に入りて明治維新以來の一大不況を呈するに立入つた。その理由や狀況は之を論ずるの要はないが、その結果から生ずる我建築界の影響を述べることは悲むべき急要事項たるを免がれぬのである。

◇

一昨年末から昨年に入りての我國經濟界の大不況は都市改造に絶對必要なる要素としての資金難を生じ、建設は急激にその分量を減ずることゝなつた。その結果建築方面に關係ある人士の職業を少くし、同時に折角順調に進み來りし都市改造の機運を挫折し、同時に建築に關係ある數十或は百數十に亘る各方面の生産業を極度に萎縮せしむることゝなつた。大正年間十數年に亘り數百數千の有爲有能の建築家の活動により、藝術的に又建設的に我國の現代文化が正に華麗絢爛の域に入り、漸くその向上進展の途上に就きたるやの觀を呈したる矢先きに、不幸にも上述の如き悲むべき事情に立到りたることは遺憾此上もなき次第である。業に建築界にあるものは學者と云はず、技術者と云はず或は又施工者も、材料供給者も此悲むべき時運に際して、如何に處すべきやの一大難關に直面したのであるから吾人は此難關に善處すべく互に協力し、一致團結以て緩慢ながら過去の建設を有意義に進展せしめつゝ、更に一陽來復の機會を靜かに待つより外に途はないのである。此の意味に於て本年は我建築界に於ける近來稀有の受難期である、此受難期に於て堅忍不拔能く磨き能く備へ更に一段の洗練を專らにすれば『艱難汝を玉にする』の諺の如く却て光輝ある建築界の隆昌を見るのも或は遠き將來でないかも知れぬ。

科學的建築へ！

——豆相大震災を視て——

工學博士　田邊平學

我國の建築は餘りにも非科學的に過ぎる！鐵筋コンクリート構造鐵骨構造等による大都市中心の高屋建築に就て云ふのではない。都鄙を問はず我國に於ける建築物の殆んど全部にも近き數量を占むる木造建築物の特に構造の點に關して斯く云ふのである。自分は昨夏九州地方の建築物の颱風による被害狀況を視察して此の感を深くしたが、續いて又舊冬豆相地方の建築物の地震による被害狀態を調査するに及んで一層此の感を強くした。

迂濶な事ではあるが北但馬並に北丹後の兩震災地を除いては今迄餘り我國の地方に於ける建物の構造を研究する機會を得なかつた自分は圖らずも颱風の襲來を機として九州地方の建築物を詳細に視察するに及び其の構造が學校其他の公共的建築物と云はず又住宅と云はず、餘りにも非科學的にして而も粗雜なるもの丶多きに一驚を喫した。如何に九州地方は近年大なる地震に見舞はれたる事無しとは云へ我國の木造建築物としては第一に缺くべからざる筈の筋違、方杖さへが餘りにも見出さるゝ事の少きを見て唖然とした。

豆相地方は大正十二年の關東大地震以來今回が二度目の震災であるので其の建築物の被害調査に就ては特別に自分の注意が促された。即ち大正十二年の震災によつて被害を蒙りたる舊き建物は既に一應の修理が加へられてあるべく又其後に建てられたる新らしき建物には恐ろしき經驗に懲りて必ずや耐震構造上の手法が施されてあるべき筈である。之等の建物が今回の大地震に對して如何なる成績を示したるかは調査に當つて自分の最も知らんと欲した所である。結果は果して如何であつたか。

豆相地方の大地震による建築物の被害狀況を詳に調査するに及び（調査の結果は近く建築雜誌上に詳細報告する筈であるが）耐震構造に關する知識が此の地方に於て一般人士の間に思ひの外良く普及してゐる事實が確かめられた。例へば多くの木造建築に於て日本瓦に代ふるに鐵板若くは石綿板等を以てして屋根を輕くする事を勵行し、筋違、方杖を壁體に使用して橫力に對する建物の抵抗力の增大を計り、基礎の構造を堅固ならしめんが爲に特別の工夫を施したるもの丶見出されたる如きが之れである。

◇

斯くの如くにして今回の被害地方に於て耐震構造に關する知識が一應普及してをる事は明かに認め得られたが、さて之を科學的に見たる場合に果して耐震構造に關する正しき知識が普及せりや否やの點に至つては疑義無きを保し難い。折角筋違を使用し乍ら仕口脆弱なりし爲に其の端が外れて用を爲さざりしもの丶多く見出されたる如き、又材長に比して材斷面の過小なりし爲、長柱の作用によつて途中より挫折して効を奏せざりしもの丶尠なからざりし如き、或は又仕口、材形共に宜しきを得ながら筋違を配置すべき位置を誤りたる爲に折角の筋違が効果を示さざりし如き何れも其の良き例である。

以上は專ら例を筋違に求めたものであるが、或は屋根を輕くすべき事のみを知つて開放的構造の避くべき事を知らざりし爲に、折角鐵板葺の輕き屋根を有し乍ら遊離して配置せられたる少數の柱が挫折して家屋の倒潰を來し、或は又不良地盤に對する注意に於て缺くる所ありし爲に折角輕き屋根に筋違を用ひたる建物であり乍ら崖崩れの爲に基礎を破壞されて倒潰を

住宅と道路

△安定のシムボル　△轉變のシムボル

藤田進一郎

來す等の結果を見て、至る所に貴重なる人命を失つて悲慘なる數々の哀話を殘した。

關東大震災の苦き經驗を嘗め而も昨春來伊東に頻發せる地震により地震に對しては充分に警戒せる筈の豆相地方に於て猶斯の如しとするなれば其他の地方に至つては知るべきのみである。九州地方の建築物を調査して耐風的にも耐震的にも餘りにも無關心なるもの、多きを見出して自分が唖然としたのも無理ならぬ次第である。我國の建築特に木造建築の現狀を指して自分が餘りにも非科學的なりと論ずる理由は正に此の點に在る。

◇

茲に於て我々は耐震耐火の建築として鐵筋コンクリート構造、鐵骨構造等による理想的建築の普及宣傳に努力を要すると共に、より一層現實的にして而も其の數量に於て殆んど我國に於ける建築物の全部を占むとも云ふべき木造建築物に對しては之を耐震並に耐風の見地よりして、より一層科學的ならしむる爲にあらゆる努力を拂はねばならぬ事を痛感する。殊に現在の地震學に於ては地震の時間的並に位置的の適確なる豫知が不可能であり、而も我國の全土を通じ地震の危險無き所殆んど無しと聞くに及んでは愈々此の感を深くせざるを得ないのである。

建築の學術的方面に關與する者は特に構造上に殘されたる數々の疑問に對し一日も早く之を闡明せんが爲に專心研究に沒頭すべく又建築の實際的方面に活動する者は特に構造上既に定說なりとして認められたる理論に關しては之を實際化せんが爲にあらゆる努力を惜まざるべき筈である。

去年よりは今年、今年よりは來年と建築の科學化に向つて精進すべき事こそ我國の建築家にとり特に年頭に當つて先づ誓はるべきことではあるまいか。

◇

運輸交通の問題は、主として經濟學の對象とされてゐるが、これがもし、社會學の對象として取扱ふならば、人間の移動性（モビリティー）の問題として研究されなければならぬものである。しかして問題が運輸交通から移動性に移つて來ると、それは單なる物理的な運動といふことではなしに、物理的運動以外になほ、ある程度の人間的意義を內包することになるのである。移動性とは、つまり人間がある外物に接觸し、それに應じて反動を起し、必要な空間的準備を整へ、適當の對策を講ずることを意味するのである。

◇

ある外物に衝き當ると、人間はそれに刺戟されて、反應を起し、ある一點から、他の一點へと、多くの場合においては、恐らくより不利なる地點から、より有利なる地點へと移動してゆくものである人間は獨特の想像力を備へてゐるので、外物の刺戟に反應するに當つては、現在よりも多少有利なる他の地點を假定し、それを目標として運動を起すのが常である。それは全然打算的だといつていゝ。生物學上からみて、人間は內部からの迫力で、ひとりでに移動運動を促進させられるといふ理由はないらしい。その心理のうちには、單に移動の喜びの爲に移動するといつた樣ないはゆる Wanderlust なるものは見當らない樣である。外部からの刺戟に引きつけられ、もしくは强制されなければ、なるべくいつまでも固定的にある一點を株守して、行爲の方向にも、思

考の方法にも、少しも變化の形跡を現はすまいとするのが普通である。かうした最小限度の刺戟をもつた安定狀態では、移動性も、隨つてまた變化も最小限度であり、かゝる過程のある段階において、社會は、一定の無風狀態を呈することがある。

◇

しかし、現代生活は、決してそんな無風狀態に甘んじて安定し、靜止してゐるものではない。却つてその反對に、むしろ移動性、それも頗る急激なるスツルム・ウンド・ドランクをその本質としてゐるのだ。しかして、それは都市において最も著しい。都市の發達に伴ふ都市人口の移動性は、人と人との接觸する回數の增加と、運動の變化と、人口集團の連續的交替から生ずる、ある特定の地域の外觀および雰圍氣の變化と、今一つは地價の變動とのうちに反映されてゐる。移動性は、單に運動を意味するのみならず、清新なる刺戟、刺戟の數と强度との增加、並に新らしき刺戟にます〳〵反應しやすくなる傾向を意味する。都市が自己の產んだ子孫や、外來の異分子を吸收し、同化し、協働せしめてゆく過程は、都市生活の新陳代謝作用とも名づくべきものである。移動性は即ちこの新陳代謝作用の指數の一つに外ならぬ。』とは、リウィス・ウイルト氏の言である。

◇

ところがこの移動性を、今少しく詳細に點檢して見ると、人間のそれと、住居のそれとに區別しなければならないことを發見する。即ち人間だけが移動する場合と、住居ぐるみ移動する場合とである。しかして人間の移動性もいろ〳〵だが、大たいつぎの三種とすることができよう。一は毎日事務所や工場に通勤をしたり、下町や市場へ買物に行つたり、劇場や、盛り場や、公園運動場に享樂、慰安を求めたりすること。二は一夜泊りで自分の住居を留守にすること。三は長期に亘つて、自己の屬する共同生活團體を離れ、他の生活團體へと入りこむことである。この三つの場合にありては、共に、移動する個人は、その移動の範圍の廣さに反比例した强度において一定の地方と固定的關係を持續してゐる。短期にせよ、長期にせよ、住み馴れた土地を離れてゆく限りは、行き着く他のどこかにおいて、愉快に住むことのできるやうな準備を整へる必要がある。今まで生活活動を放射する唯一の根據地であつた住居は、幾つもの根據地の一つ、もしくは幾つもの生活中心の一つに過ぎなくなる。恰も隔晩に外泊する鐵道乘務員のやうに、住居の機能のある部分を、他の地點へと移動させてしまふわけである。かういふ人々にとつては、自己の人格の一面を、一つの境遇に、また他の一面を、全然異なつた他の境遇において、別々に表現することになるのである。

◇

個人の移動性は、その住居と、個人の屬する社會とから、當人を分離せしむる傾向をもつてゐるが住居の移動は、否でも應でも根こそぎ絶緣させてしまふ。個人は自己の家族と別居することによつてその住居を變じ、家族はその住居を變ずることによつて、所屬社會との關係を絶つ。しかし大都市にあつては、家族の集團的移住は、本質においては、隣保的集團の移住であるのである。これは舊世界で隣り合つて住んでゐた幾家族かゞ、より有利なる場所を新世界に求めようとして、相携へて移住するやうなものである。一村擧つて、近くは北海道、遠くはブラジル三界までも移住するものゝあるのがその例である。

◇

移動の形式は、右のやうにいろ〳〵だが、詮ずるところこれを導くものは道路に外ならぬ。人間の移動は、貨物や人間が道路に沿うて運ばれてゆく過程に內在した社會的結果といつてもいゝのである。道路は個人または集團が、より有利なる場所から、より有利なる場所へと進出する永久の道づけとして作られ、人間を、群集と刺戟との中心に導いてゆくのである。シカゴの郊外にAとBとの二つの町があつた。A町は貧乏な過群のむさ苦しい外國人町であり、B町は西方四マイルを隔てた中流階級の美しい住宅地であつた。ところがある時このAとBとを結びつける電車が開通したのである。これにはB町のものは最初猛烈に反對したが、地方の有力なボスに妨害されて、その目的を果さなかつた

のだ。するとA町の人々は、新たに開けた交通路線に沿うて、西の方、住み心地のいゝB町の方へと連りにその家庭を移して行つたので、間もなくB町はA町の住民によつて、全部占領されてしまつたといふ話しがある。密集過群の中心から、空地の多い外椽へと、道路の通じた場合は、いつもかうであるが、シカゴ大學の人口移動調査によると、住居や集團の移動は、主として交通路線によることになつてゐる。郊外の土地會社の事業などはいつもこの主義に據つてゐるので、まづ水道幹線が埋設され、續いて下水道ができ上り、街路が開築されると、人口は水の卑きにつくがごとく、流れこんでゆくのである。

交通の形式が變り、交通路線の改まるごとに、個人または集團に對して、必然にある種の新らしい刺戟をもたらし、その反應として、何らかの行動をとらしめねば已まないが、かうして無限に變化する環境のうちに放置されてゐるのが都市の居住者で、かれらの永久的固定關係は稀薄である代りに、一時的な、變化しやすい關係は多岐多様であり、同時に非常に緊張してゐる。永久的固定關係は、目的の安定、行動に對する責任感、目標ある方向轉換等を結果するが、一時的な果敢ない關係は焦燥と、無目的の運動と、無責任なる行動とを喚び起すのである。

◇

住宅は個人の生活における安定の徴象（シムボル）であり、道路は轉變の徴象である。住宅においては、人は固定された耐久關係をもち、道路においては變化と崩壊とをもつて圍繞されてゐる。ある社會またはある社會の一點が、運動の主要路線に開放されてゐるならば、そのうちの人々はいよ〳〵刺戟されて移動性を昂奮させられ、外部からの侵入に對して、その住宅を保護することは、いよ〳〵困難となる。この理由から、交通の中心ほど、見知らぬ人々の侵入をうけやすく環境の變化を急激にする。

◇

安定の徴象である住宅と、轉變の徴象である道路とは、都人士の環境を支配する重要なる二つの社會的要素である。しかしこの二つの要素の何れが最も力強く働いてゐるかというに、無論それは道路である。都市の街路は、都市計畫事業の進捗とともに、その幅員を擴げ、路面を鋪裝して、交通の量と速度とを增大するのみならず近郊及び郊外に亘りて、新築の幹線道路が蜘蛛手のごとく四通八達し、都市生活の移動性を極度に唆りたてゝゐる。この道路の刺戟性と、轉變性とのために、最も深刻なる影響をうけるのは、安定常住の徴象たる住宅でなければならぬ。それがどういふ風に變化するかは、專門の學者の研究に待たなければならないが、しかし、この都市の發達と、道路の普及とに伴ふ現代生活の移動性の昂進は、住宅の形式、構造から進んで、その意義にまでも、何らかの影響を及ぼさずんば已まないことだけは確かである。時代の要求する住宅の建築は、かうした社會現象の根本的考察から出發しなければならないのではなからうか。敢て賢明なる『建築と社會』の讀者にお伺ひするのである。（完）

充分と必要

モトノ・セイゴ

現代を指導する最も重要なる精神は充分と必要との原則であると思ます。此の原則に反する一切の者は時代錯誤的存在として時の經過と共に消滅する運命にあると見る事が正しいと思はれる。尙吾等現代人は此の精神を強調發展して一切の不充分と不必要とを除去する事に最大の努力を拂はねばならぬ。之は即ち文化への協力である。

充分と必要の原則の上に建てられたる言語エスペラントは今世界人類の全部を抱擁し様として居る。飛行機飛行船は最小限度の材料と工作とによる最大の機能と云ふ事に向つて全力が注がれつゝ多面的な發育をなして居る。建築も亦此の原則の上に打ち建てられねばソレは時代錯誤的存在として現代の文化から取り殘されねばならぬ。ソウでなければ有害なる物件として尨大なる體軀を人々の前に曝すに止まるであらう。（終）

一九三〇年を顧みて

黒田鵬心

一

一九三〇年も暮れんとしてゐる。この年私は正月の大阪を振出しに、三月の高岡、四月の富山、五月の札幌、六月の仙臺、九月の京都、十月の京城、十一月の奉天大連と日佛美術展覽會の爲めに文字通りの南船北馬に暮した。その間に地方の建築も多く見たので、東京を中心として見聞したことを漫談的に記してみやう。

東京では議院の高塔が出來上つて其の白い姿を帝都の中央に現はした。議院建築は代議政體の國家では最も意義ある建築で、首府の美觀に役立つべき最も主な建築の一つであらねばならぬ。昔は寺院の建築がそれであつたが、現代に新築されるものは議院建築を隨一とする。今度出來た日本の議院建築も位置は宮城の西南に位し、其の高塔は可なり遠くから又各方面から見える。聞けば東京の港（芝浦）へ入港する船の目標としてもよく役立つさうである。さて其の恰好はといふと、四角張つてゐるのは、圓いドームと比べて威かつい感じがあるが、まづ無難と云ふべきであらう。尤も溜池の方から塔だけをみると餘り感心しない。正面から下の建築と併せ見る方がよい。併し私はまだ遠くから見ただけであまり細い事は云へない。ともかく二十年前、建築界の一大問題となつた我が議院建築が今や竣工に近づいたは慶賀すべきである。

二

議院の塔に關聯して述べたいのは警視廳の塔のことである。始め警視廳の高塔が前の設計だつた時には馬場先門の邊から見ると、この爲めに議院の塔が隱れて見えないので、それがあの高塔を低くせよといふ理由の一つとなつてゐたのであるが、それよりも私は建築そのものとして、あの樣な高塔の必要を認めない。昔は神佛の崇高とか帝王の威嚴を示す爲めに、宗教建築や宮殿建築に高塔とか、その內部の高い天井とを必要としたが現代にはもはやその必要はない。又そんな形式で民衆を威すことは出來ない。軍人の正帽の高い飾や、シルクハットは儀禮の形骸を傳へてゐるのみで、その威嚴はもはや力がない。警視廳だからとて高い塔で、人民を威す必要もなければ、又威す力もない。その上あの地形はやゝ銳角的に建物が突出してゐるので、其の端の高塔はふさはしくない。試に三宅坂の方から見ると、とても塔が飛出てみえる。これが私のあの高塔に對する不贊成の主な理由であつた。而して都市美術會で問題となつた時に、出來るならば高塔を低める事に贊成した。併し相手が日本の警視廳であるだけ、實現の可能性を危ぶんだが、丸山總監のあつさりした考で、鐵骨までも切り下げて低める事になつたのは、丸山氏に敬意を表さゞるを得ない。尤も低くなつた塔がどちらの形になるかは、私は知らないし、まだ圖ひがとれないので心配である。

根本的に云ふと、都市美の上からは、あの櫻田門外は一つの廣場として貰ひたかつた。現在でも廣場風には取扱はれてゐるが、司法省の角をもつととつて、松田法相の銅像を遊離せしめ、警視廳の敷地も角をとり、大きな廣場として、將來其の中央に井伊大老の大きい銅像でも立てれば、立派な廣場となつて大に都市美に役立つ事と思ふ。又警視廳も角をとれば、塔の高さも相當にあつてもよかつたかと思ふ。

三

廣場と云へば日比谷の角にも欲しかつた。あそこなども常盤生命の新築さへ出來なければ、公園の

角をとり、また一方は假建築であるから大きな廣場が出來たのである。その他昭和通と大きな通と交錯する所は、例へば歌舞伎座の角でも、茅場町と日本橋との通の交錯する所でも、本石町の通りの交錯する所でも皆大きな廣場となし得たところで是非さうして欲しかつた。

今度大連に赴いて、有名な大廣場を見て、其のタウン・プランニングが流石に歐羅巴人の設計であると思つたが、日本人がやつた廣場内の取扱方は、それを小公園的にせゝこましくやつてあるので、折角の大廣場の効果は非常に減殺されてゐる事を感じた。尤も自動車の少い時代にやつた事であらうが廣場はよろしくパリのコンコルドのやうに、大きな塔とか噴水とかを中央に置いて、あとは何にも置かず通路とすべきである。

京城の南大門の廣場は、パリで云へばエトワールのやうなやり方であるが、南大門の石壘が大きく、廣場が狹いので、門に壓せられて廣場の効果が少い。これに反して鮮銀前の廣場は、形も不規則であるが、中央に何にもなくノツペラボウで困る。これは是非中央に記念像か噴水か、少くともグリーンを置いて貰ひたい。

大阪にも廣場はないやうである。將來大阪驛前は廣場となるであらうが、その他には所謂御堂筋のところ〳〵に設けたいものである。市廳前などは、もう少し市廳と日本銀行支店とが後ろにさがつて居れば立派な廣場となつたであらう。中之島公園のあることはせめても幸である。

京都驛の前も、廣場としてもう少しどうとかしたいものである。御所の周圍は廣場として最も好適であり、現在でも一種の廣場となつてゐる。これは東京の宮城前も同樣であるが、東京驛前から和田倉門を入つては、現在は眞直にゆき直角に角るのであるが、この外にやゝ曲線的に所謂凱旋道路の方へ直接にゆく廣い自動車道を作つてはどうであらう。將來自動車が益々增加するとすればそれは必要で、又宮城前を廣場として見るときもその方がよいと思ふ。

四

日比谷の角に常盤生命ビルと川信ビルとが並んで竣工した。何れも八階建の堂々たる建築であるが地位は常盤生命の方が日比谷の十字路の一角を占めて優れてゐる。外觀は常盤の方が裝飾が多く三信の方がプレーンである。尤も三信も正面の中央に膨みをつけ、各階の間にも線をつけてゐるので、丸ビルのやうに純然たる箱みたいな感じはない。細い所をよく見てゐないが、兩方とも位置を駈かしめるといふ程の建築ではない。常盤生命の方は少し裝飾が多すぎるかと思はれる位で、近頃の新しい樣式から見ると餘程舊式である。

呉服橋内に第一銀行本店の新築が出來た。これは大きな圓柱を並べて、ずつとクラシカルに出來てゐるが、これも招待された時行けなかつたので、まだよく見てゐない、通りがゝりに車の中から見たところでは、堂々とした上品な建築である。

歌舞伎座の先の東京劇場も一九三〇年の竣工である。これは裝飾の多い舊式の建築であるが、日本風の歌舞伎座に對しては面白いコントラストをなしてゐる。近くには新橋演舞場もあり、少し離れて帝國劇場がありこの邊は劇場の中心地となつた觀がある。但し東京朝日新聞社の隣の日本劇場が鐵骨を組立てたまゝ中止となつてゐるのは見苦しく、都市の美觀上からも、何とか繼續して貰ひたいものである。

東京劇場の先に築地の方へ左側三軒ばかりの建築があまり大きくはないが、同じ茶色の貼付煉瓦を用ひてゐるのは、色彩の上から非常によい感じを與へる。これは街路建築の道德として斯くあるべき事で、都市美の上に非常に都合のよい事である。

五

新宿に出來た三越の支店は、東京では始めての試みである地下三階が注意を惹いてゐる。地下二階は正金銀行東京支店を始めとしてボツ〳〵あるが、地下三階は珍らしい。しかもそれが地下二階までは店舗として使はれてゐる。地下の二階目に入つてみても少しも地下室の感じはせず、照明の工合は中々うまく出來てゐる。此の建築も照明は相當に考へられてゐる。一階の角柱にとりつけられた半球

形のものなどは、パリのラリックの模倣で、型やグラスの質は比べものにならない程劣るが、形は新らしい。一般に照明設備は近來非常に進歩した。日本橋畔の野村ビルでもそれに氣がついた。この野村ビルも一九三〇年の竣工であるが、橋畔ではあり、室町の方から見ると丁度正面に見えるので、もう少し外觀を派手にしてもよかつたと思ふ。恰好もさうであるが、色彩に於いて上の方を眞白にしたのは、下とのコントラストが強すぎてよくない、もう少し近い色にして貰ひたかつた。併し此の建築は内部がすぐれてゐる、細部には中々おもしろい所があり、照明にも新工風がある。又家具はフランス風のさつぱりしたものが多く、上品で且つ美しいものがあつた。

甲子園ホテルも一九三〇年春の竣工である、遠藤新君の設計で、ライト式である。これも寫眞と、實物は車中から見たのに過ぎないが、壁の色が砂土の色と同じなのは非常に損である。松のグリーンだとよい効果を呈ずる。左右の二本の高いものもやゝ目ざはりであるが、細部には帝國ホテルとは違つた面白さがある。内部の洋間と日本風の室との結合は、林愛作氏の新案で、日本のホテルとして面白い試であるが、寫眞でみた丈けでは批評も出來ない。

六

以上一九三〇年の日本の新建築の眼にふれたものを主として述べたが、一年間だけではあまり變つた事もない。かの東京朝日や白木屋や東京齒科醫專などの表現派は小さな商店や活動寫眞館やキヤフエ、バアなどの小建築にも現はれてゐるが、これも西洋の模倣では長く續くまい。京城や大連に行つてみても、朝鮮總督府の商工奬勵館や滿洲日報社などにその流れの建築があらはれてゐるが、これが日本の中心の樣式となるとは思はれない。

建築の『機械化、工業化、商品化』といふことも（世界美術全集第卅五卷田邊泰君所說參照）獨逸やアメリカで叫ばれ、又實行されつゝあるが、我が國は果してそれをどの程度で實現するか、その傾向はやうやく見えてゐるやうであるが、これを徹底的に實現するやうになるには相當の歲月を要するであらう。

元來、土地の上に直接建てらるべき建築は、繪畫や彫刻や文藝や音樂のやうにインターナショナルにはなれない條件を持つてゐる。或る人は建築にはナショナリティがなければならぬと極言する。併し私はおのづからナショナリテイが出るのがよいのではあるまいかと思ふ。しかもこれは繪畫や彫刻や文藝に就ても同樣に云はるべき事である。

（一九三〇・一二・七・東京）

興味深い時代

上野伊三郎

地上の不景氣も、失業者の苦しみも、思想問題も、かまはずに地球は無限の運動を續けてこゝにまた一九三一年を迎へることゝなつた。三百萬の失業者を有するドイツは之からどうなつてゆくだろうか。三十萬とも百餘萬とも云はれる日本の失業者もどういふ風に政治的解決をつけられるだろうか。

日本の人口はまた一年間に百萬を增すことだろう。

支那の排日はどういふ風に展開してゆくか。興味深い時代に生れ合はせたものだと思ふ。

東洋趣味を加味した鐵骨コンクリート造建築。

南歐はベニスの建物を摸したと稱する大阪市ホテル。

等々が續々と日本に建てられて一九三一年の日本文化を後世に傳へることゝなつて、世界建築史に

光輝を殘すことゝなるだろう。

興味深い時代に生れ合はせたものだと思ふ。

建築士法案がいくら議會に提出されても、認められないで、建築代願人が公認される。

警察は泥棒も建築屆も取扱ふ。

興味深い時代に生れ合はせたものだと思ふ。

世界の觀光客を誘引する爲めに觀光局迄出來てゐるが、ダンスホールを許可しない。ダンスホールを許可しても、アルコール飲料をホール內で飲ませない。

お茶屋や席貸しではダンスをやりつゝアルコール飲料も飲める。

觀光外人は晝は神社佛閣を毎日見物し、大阪では南歐はベニス風のホテルに宿泊して大阪運河に映ずる夕べの街の灯を賞し、夜は日本料理で箸の使用法を研究しつゝ美妓の高尙なる舞を賞し或は都會の大通りに出でゝはアメリカ風美術建築の大廈高樓の間に、いとも珍らしい古日本風の低い木造家屋櫛比の光景を見、或は土埃りや泥だらけのアスファルト道路を見て日本文化進歩の狀況に驚嘆し、夏期には赤痢、チブス、コレラ等彼等本國にては珍らしい傳染病の流行狀態を視察し得るの便を得たることを悅び、日本便所に入つては自國數世紀の昔の衛生狀態をしのび等々其他外人に珍らしい事數限りもなかるべく、下水工事の如きは日本の昔になかつた事であるからこういふことを急ぐのは、日本の特殊文化を失はしむる結果をまねく事、日本に洋服や、洋風建築の增加する如くに有害であるから、西洋カブレの人間の主張の爲めに止むを得ず工事を起しても精々永くかゝる程、日本の舊狀を殘し、外人觀光客を誘引するのに好都合である。

不都合にも續々と建つ洋館、然し日本人はお蔭で西洋の文化のウツシと日本文化を同時に見せてもらへて結構至極。

興味深い時代に生れ合はせたものだと思ふ。

思想善導費で學校では生徒に御馳走をする。精々日本風の建築をするように觀光局あたりが建築家に御馳走をしそうだといふ噂はまだ聞かない。

興味深い時代に生れ合はせたものだと思ふ。

日本で時代の尖端でも國際的に時代の後端である事が甚だ多い。否、殆ど全部といつてよい。ドイツのDO・X飛行艇や、アメリカの垂直昇降飛行機等は尖端以上に外れると見えて、尖端とも何んともいはない。ヨク、ケシ飛ぶ日本の地震計の針のように、日本の尖端は大きいものは計れないらしい。レビウの足の動き位な處が今の日本の時代の尖端。

興味深い時代に生れ合はせたものだと思ふ。

自然現象、人間現象、すべて觀察するものにとつては興味津々、宇宙は悠々、人間肉體の壽命は短い。慾も程々、つとめる丈けはつとめてみるのが自己滿足の最良法。

提灯と電燈の可否を論じて一生を過すも五十年の未來を論じて一生を過すも、宇宙の運行には影響なく、眼を開いて山あり、と云ひ、眼を閉じて、山なしと論ずるとも、ある山は關せずしてある。

地球が太陽の圍りをまわつては都合の惡い人があつて、そういふことを世間におしやべりする者を焚き殺すことは出來る。然し太陽をして地球の圍りを、まわらせることは出來ない。

無暗に殺されることの嫌ひな人間は、ヘイヘイ太陽は地球の圍りをまわつてゐるようでございますと申し上げ奉る。

そこで一九三一年、いや、昭和六年の新年はおめでたうございますと申し上げ奉つて擱筆する。

震火災と建築

二月號は『震火災と建築』に就て特輯の豫定です。

一月十八日頃までに御投稿を願ひます。

建築と社會編輯部

動きつゝ見る

武羅野淵語

◇

「我々がドイツに來て見ると、ドイツ人よりもわれ〳〵の方が、ずつとアメリカ人に近いと感ぜざるを得ないのだ。アメリカ風の事物の中に、『故國』を感じる始末だ。殊に、智識的にのみならず、最も深い感情や感覺の領域に於てまでアメリカニズムの濃い浸潤をふりかへつて認めざるを得ない事實は今さらながら、驚くべきほどなのである。……ベルリンの勞働者區域のノイケルンの中央、ヘルマン廣場に、百貨店『カルシタツト』のアメリカ風な巨大な新建築がある。これを見ると我々は、やはり『日本』を感じる。又その『カルシタツト』の中に、やはりアメリカ風の理髪店がある。そこへ行くとまた、日本の理髪店が、すべてアメリカ風だつたのだな、といふことが分つたりもする。

我々はすべて、實務的で、明快で、高速度的で、簡素で、衛生的なものゝ上に、感情の奥、感覺の隅々からして、現在の『日本』を特に『東京』を感じる。——無論、建築などに於けるこれらの『アメリカニズム』は、もとはと云へば、オーストリアやドイツ自身が發祥の地でもあつたために、今ではドイツ人でさへ、それをアメリカ風のものとして感じたり、理解したりしてゐるのだ」。

これはある人のベルリン手記だが、大體に於て私にも同じ感じを有てる。アメリカの資本で運轉してゐるカルシタツトも、ロンドンのセルフリツヂも、同じくアメリカ的である事は勿論であらうが、ドイツの建築、殊に産業的の建築とその組織が次第にアメリカナイズされて行くことは事實であらうかと思ふ。しかしながら私の興味を感じる點は、ドイツの文化が一度アメリカに渡つて、それをアメリカから逆輸入してそして、それを全然アメリカ風だとベルリンの人達が思つて居る點と、それを見てる一日本人が、『日本』を感じること、つまりベルリンに於けるアメリカ風なものを見てると『日本』を感じさせられると云ふことは、如何にも皮肉の様に思われる。

日本の新興建築のうちにはドイツ的影響をうけて居ると、簡單に云つてのける人があつたら、ドイツに於けるアメリカ的影響を考へるがよい。アメリカ的合理主義、唯物主義がどんな形でドイツの建築に影響して居るか、どんな形でドイツの建築家達はアメリカの建築を讃同したかを想像すると、吾々のドイツ讃美は一應考へなほす必要にせまられはしないかと思へる。メンデルゾン、ノイトラなどの所説もそうであらうが、私は其の實例についてのいくつかを擧げ得る。たとへば、ドイツ有數のオフイス、ビルヂング、シレー・ハウスはどうか、先頃皮肉にも日本の新派の建築雜誌が爭つて轉載したと思われた、デパート・ショツケンはどうか、只形を見ての批評ならお話にならぬが、その內容を見るとうなづかれる點があるにちがいない、だが、建築をアメリカ的に取扱ひ、又考へると云ふ點丈けを考へると誰れもが云ふ様に日本はどの國にもまけてはゐない様である。試みにエレベーターを考へても、機械の事を考へても、設備の傾向を考へても、何一つアメリカのご厄介になつて居ないものはない。恥じてもいゝと思われるが、而し、夫故、吾々の眼には如何にもドイツの建築——殊にデパートとか、オフイス、ビルヂングとかになると、實に、けちくさくて、なつて居ないと思ふことがかなりあつた。それを見て居ると、吾々の方が餘程進んだ考へを持つて居ないかと疑つて見たりする。

◇



グラスハウス　向ふに見える硝子張りの建物が寫眞の様に出來るならおなぐさみだ、實際此の建物がどんな風に建てられるか、ミースファンデルローエ氏

斯様な考へ方は獨り私ばかりではない。恐らく專門家と云ふ專門家は口を揃へて、歐洲に於て最早學ぶ可きものがなくなつたと云ふことを耳にするが、今日の日本はどの點に於ても左程外國のいはつを眼を皿の様にしてうけ續ぐ必要のない事は當然であるし、又、そう思つて見たくもなるのである。

なるほどオツトウマイヤー氏はオランダに於ける、デ・シュチール一派の影響を否定して、今はドイツ風の考へ、恐らくグロピウスの考へが反對にオランダの思想に影響しつゝあることを力說したが而し此の考へ方は私に云わせると、實驗室的建築論であると思われた。その證據として、私はバウハウスの建築を擧げる。フエーゲル氏は、ハンブルグの彼れの事務所でその過大な、何の意味だかわからない様な硝子窓を嘲笑して居たが。デッソウの郊外に何の必要あつてあんな建物を建てたか、多少共實際の建築をやつた經驗のある者なら直ぐ、氣附であらうところの欠點が至るところにあるが、就中あの硝子——何の意味だかわからない様なあの窓硝子こそ樣式建築が往々にして陷すところの欠陷とは將に反對の現象ではないか。



夜になると此の美しい建物も眞晝に見るとまるでごみをなすりつけた様である

だから、バウハウスの一教授は私に辨解して言つた。吾々も、此の建物が世間で問題になつた程でなく、かなりの欠陷を認める。これが今日のバウハウスの思想でないことを極言して、彼れはハンネスマイヤー氏の近作として、又バウハウスの今日を代表するものとして、ベルナオ（ベルリン近郊）に於ける勞働組合の學校を見ることを極力提唱した。ハンネスマイヤーと云へば今夏バウハウス內に於ける共產主義的政治行動の故を以て其の責任上遂に校長の地位を追はれたことは已に讀者の知らるゝところであらうが、彼れはこれについて皮肉たつぷりの聲明書を發表して之れを否定して居るとしても、私は今ベルナオに於ける此の學校——寄宿舍を有する此の學校の新築を見るに及んで、種々の意味に於て、彼れが包懷するところの思想を讀むことが出來る様な氣がしてならない。

バウハウスの存在を標すところの傳統的思想として何人もその社會主義的傾向を指すであらうが、而しながら其の作品の傾向は、今、グロピウス時代とマイヤーの時とを比較するに、其の間に非常な隔り、謂はゞ、次第にプロレタリアアートの藝術運動に、其の深度を加へつゝあることを感ずるのは、此の學校を見たゞけでもよく分ることであつた。

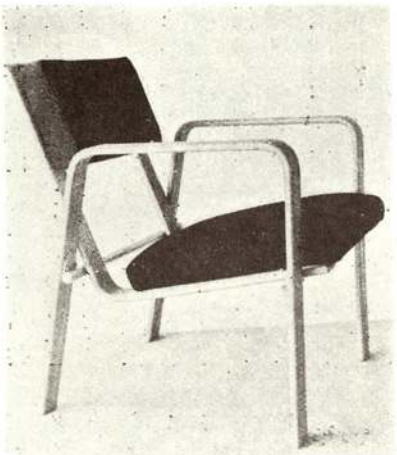
此の建築の意味は勿論平面計畫にある。そして、露出した鐵骨に赤、黃などの原色を塗るかと思へば、グラスブリツクの壁を作り、惜げもなくプレートグラスを用ひるかと思へば、之れと接して鐵筋コンクリートの露出したはだを合せて、天井には滑かに塗つたプラスターの面に淡綠色のペンキを刷くと云ふ様な、例へば工場に花を挿し、清凉な空氣と光線を送つた様な此の建物を私は意味深く眺めた。常に壓迫を受けつゝあるところのバウハウスの活動をして、所期の如く新建築と、工藝の生產組織が、次第に其の完成に努力しつゝあることは認め得らるゝとしても、その努力は今日のドイツのシチュエーションの下に於ては到底望み得らる可くもなく、其の効果は所詮實驗室的勞作であつて、そ

れが大量製産的となるには更らにアメリカ的組織と、巨大なマーケットの必要があることは當然である。建築の工業的生産の態度が、ロシアの構成主義の立場とも一致すると謂われて居るが、私の見るところによれば、勞農ロシアの建築的傾向とは餘程異なつた傾向である様に感ずる。私は一再ならず構成派の曉將、タトリン氏との對話を例に採るが、彼れはよきアメリカニズムの輸入を、ソビエット聯盟が高度の文化を作り、そして先進諸國のブルジョアー文化を追ひ越すところの唯一の方法であることを繰りかへした。そして、現にその實行として私はモスコーに於ける、新興の建築を見たのであるが、今、バウハウスの諸種の作風を想ひ起すに、そこには依然として。ドイツ的理論建築、理屈張つた建築的傾向をマイヤー氏のベルナオに於ける作品に見たのである。

だが、それは兩し、グロピウスの時代に比し徹底して居る點は非常に見ごたへのあるものである。

◇

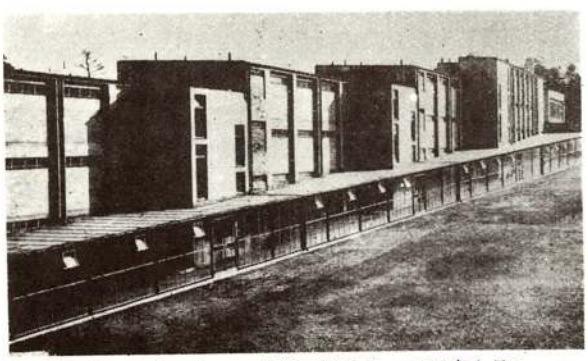
現に、ソビエットの新建築は、初期のロマンチツクな傾向を清算して、次第にリアリズムの傾向を更新しつゝあると謂われた。そして、善きアメリカニズム、實務性、高速度性、大量廉價生産性、合理性等々、人類生活の生産、消費の全幅に涉つて、あくまでも健康なアメリカニズムが其の建築組織の標示であるかに謂われて居るとしても、さて實際の狀態はどうであつたか、發表せられた大建築の計畫は今尙、計畫の儘のものも多いのであるが、ヴエスニーンなどの初期の作品、例へば例の恐ろしく大きな硝子を有する、商業所、所謂デパートなどの建築を、曾て、コルビジエは、硝子のロマンチシズムと笑つたと云ふが事實初期の作品も、また、最近の建築のうちにも多分に此の傾向のぬけ切らないものもかなりに多い。



バウハウスの椅子　考案すると先づ色、かゝる掛具合、などについて醫學上の意見をきゝ次で製作について工場の意見を云ふ順序でそして生産的に作りだすと云ふことが注意せらるゝ、パイプよく、椅子全體をフレキシブルに出して比べて、更らに心地よくするることが



ハンネスマイヤー氏作　ADGB勞働組合學校（其一）伯林郊外ベルナオ所在



同上（其二）　バウハウスの最近に於ける一の提案と見る

而しながら一般的に云へば、唯理主義的建築が次第に其の傾向を染めて行くこと、思はれる。私は今例を二三のアパートに採る。此のアパートの建築が、一體、資本主義的の合理主義建築と其の本質に於て如何に異なるものであつたかを適確に述べることは到底困難である。單に無裝飾の故に、それをソビエット特有の思想と云ふことが出來ないのは無論のこと、配列せられた各室を見ても何等の特性を感ぜぬのみか、それは單に、安建築の

一種に過ぎないと云つてもよい、著し夫れ、共同の食堂を作り、共同の倶樂部に、レーニンの肖像を飾り、淡墨の濃淡を以て外裝せられた以外にソビエツト建築の特性として、何を求めていゝか、婦人を家庭のわざわいから解放して勞働に從事せしむる爲めにアパート内の各戸から、台所を廢すると云ふ計畫は近く實現せらるると、教授ドクチヤエフ氏が説明したが、今のところどのアパートにも台所は家庭圓滿の策源地としてのこされて居たのを見る。だが、限られたる、ソビエツトの財政と、ドクチヤエフ氏の言の如く、過渡期の建築としては止むを得ないものであるかも知れない。

現に、教授は、將來ソビエツトが如何なる生活樣式を採るかと云ふ問題について説明をし、そして、夫れが爲めに必要なる住居の型式として、高層アパートメント建築が行はる可きことを主張して、その計畫の實際について詳細なる説明を試みた位であるが、今日のモスコー市内では依然として、土色によごれたまゝの帝政時代の建築のなかに多數の市民は熊の如く生活して居る樣に思われた。

ロシアと云へば、例の、フランクフルトアムマインの建設的建築として令名あつた、エルンストマイが本年ロシアに招へいせられたことはハンネスマイヤーの事件と共に吾々の注意をひいた。彼れが發表した聲明書の通りだとすればソビエツト同盟は建築家の計畫的良心に對して、將に天國であるらしい。彼れは共産主義者でないとしても、ドイツの反動的時局の影響に對し、又、資本主義のらち内での不充分な建設に見切りをつけた點に於て、吾々に一種の豫感を與へた。モスコー市内に於ける、唯理的な新興建築について、私は多く語る可き必要を感ずる。何となれば、それが、ドイツ——例へばバウハウスの方向と、オランダの、デ・シュチール一派（恐らく今は消滅したと思ふが）の方向との差異について、又、共通の傾向に於て、かなりの興味を感ずるからである。だが、今之れを割愛する代りに、それ等の唯理的傾向と、幾分趣きを異にするところの建築を擧げて見れば、共産黨勞働者倶樂部がそれである。そのロマンチツクな作風に於いて、倶樂部的ふんいきを、ソビエツト特有の異樣な表現を以て建てられた、此の建築は、恐らく、モス市内に於ても注意せらる可き建築であるに相違ないと思ふ。だが、私は、案内の人達と共に最上階の硝子張りの室に昇つた時に、最惡の實例を説明してくれた人は皮肉にも此の建築をほこる建築家であつた。

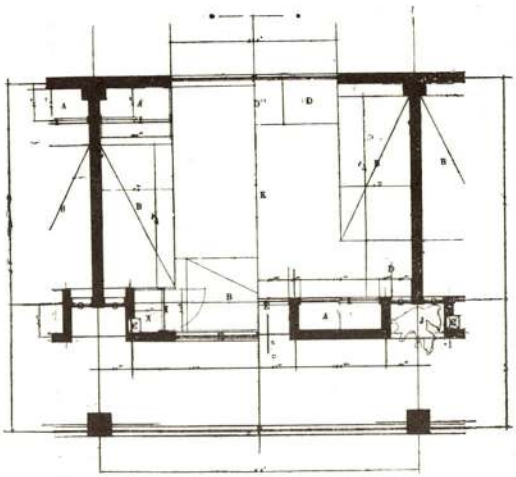
冬になると、とても此の部屋は寒くてゐられないんです。いくら暖房があつたつて寒くて仕樣がないんだと云つた。無論此の見やすい過誤は時として日本の新興建築と稱せらるゝものが侵す處と同じではないか。だが、コルビジエの中央聯盟會館にはパネルヒーチングの方法を以て、あの過大な硝子面、彼れに言はしむれば、不足勝な北國の冬に必要な窓の面積であらうところの窓を通す寒さの侵入は此の方法を以て防がれるとの事であるが、此の事は、吾々の嘲笑、時として、難癖をつけるところの此の嘲笑に對し、遂に辯護の餘地を科學的に説明することゝなるのである。若し建築が、あくまでも環境的、條件に靜的な盲從を續けることが當然であるとすれば吾々は科學を棄つ可きではないか、庇を棄て、硝子を擴げても、吾々の建築上に於ける地的要件はこれが爲めに殺されると思惟する者は遂に唯物論を笠に着る資格なき科學の背信者ではないかと思ふ。

◇

讀者は恐らく、リシツキーのルスランドを見られたであらうが、ソビエツトが、將來如何なる建築文化を打ち建てんとしつゝあるか其の、活氣ある新興文化の躍進的歩度を想像することが出來るとしても、現實に見たところのものはドクチヤエの教授の言の如く、總て、過渡期の作品として、さして、見うる可きものも割合に少なく、表現に於ても、設備に於ても、又細部の取扱ひに於ても、ブルジョアレアリズム的作品と何と選ぶところもなく、又、此の意味では、かなりの欠陷を有するものと斷ぜざるを得ない。勿論これが爲めに私は、モスコーの建築的將來について輕々しく斷定する資格あるものとは思へない、現に、最近竣工したる商業所（デパート）實は市場



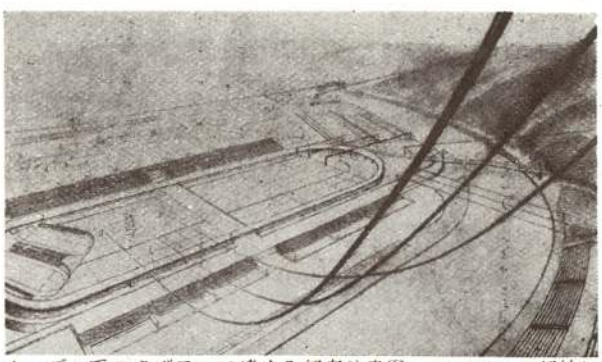
タトリン作　第三インターナショトル記念塔と筆者に贈つた作者のサイン



○氏の提案　女工寄宿舍の平面

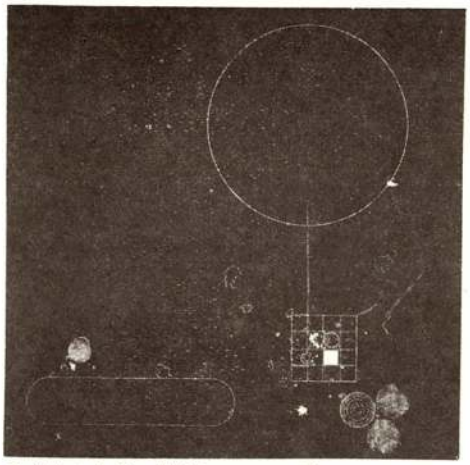


○氏の提案 女工寄宿舍

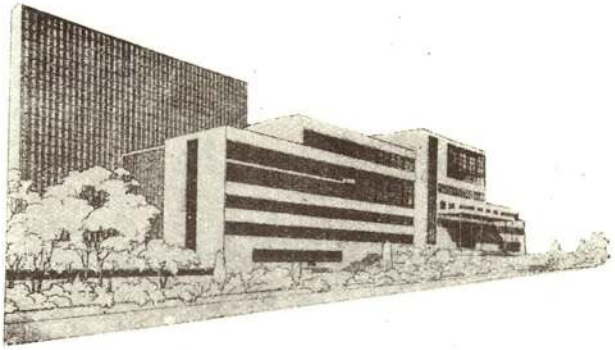


ケーブルでスタヂアムに達する都市計畫案　モスコーの郊外に廣い盆地がある、そこがスタヂアムになると云ふことである郊外の丘からの美しい眺めは旅行者が一度は經驗するところである

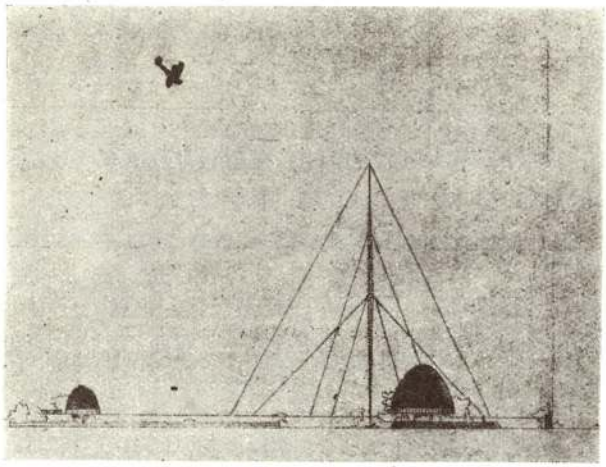
の様な建築、その粗雑にして、低程の安建築こそ、ヴエスニーンなどの如く硝子を亂用せるロマンチツクな建築に比しソビエツトの建築として吾々の注意をひくに充分であつた。是れ迄發表せられ、又、吾々が知り、將た建築計畫中、實施せられたものを見る事は相等困難でもあるし、又、其の多くは、たとへ、吾々の注意を引くに充分であるとしても、建設當初の興奮にかられたる跡、謂はゞ、一種型態上の新奇と、その、ロマンチツクな好尙が、プロレタリアレアリズムの背後から執拗にうかがつて居ることを感ぜられる



社會的タイヴの勞働者クラブ一階平面圖
イー イ・レーオニダフ設計



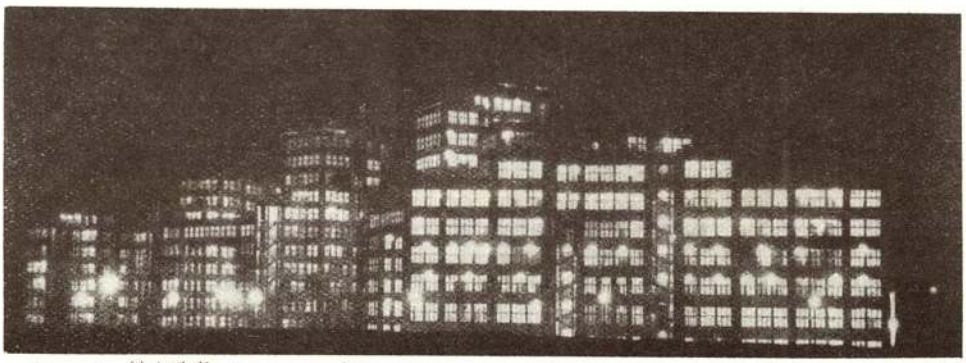
「春の兄弟」……モスコー市に於けるV・I・レーニン紀念のソビイエツトロシヤの公立圖書館聯盟の建築設計圖（1923年）圖書館の基礎的機能は次の如し。（1）讀者への奉仕（2）讀者の供給（3）書籍の保存（4）書籍の完備（5）圖書館の管理



社會的タイプの勞働者クラブ（正面）　イー・イ・レオニダフ設計
現代の學術及び技術をもつて勞働者諸君の新教育館建設の問題を正確に解決せる點に於て建築技師の製作發表中の最も傑出せる收穫の一つなり

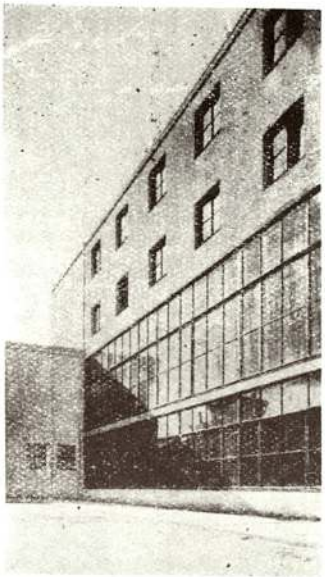
事實　ソビエツトの建築計畫上に於ける各自の理論的型態と稱するものが、如何なる實際を以て表現せらるかは興味ある問題であつて、これは獨りソビエツトの建築家ばかりの困難ではなく形態、色機能、等々、資本國家の合理的新建築に於て、吾々が感ずるところの、價値は、其の儘モスコー市内の建築にも亦同感する事實を讀者は何と讀まるるか、鐵、コンクリート、硝子等を以て主體とする建築が獨り此の國特有のものでないとすれば、今のところ寧ろ、手法、細部、設備等の不完全さを云わなければならぬ。

プロレタリアレアリズムと、ブルジョアレアリズムの兩樣の理論的型態が、建築上如何なる表現上の差異を取るものであらうか。私は此の問題について、友人O氏の提案に興味を有つた。恐らく、氏の時として提唱せらるゝところのものと此の作品を對照する時に、吾々が時として、レアリズムの問題を論議する時、多く、後者の型

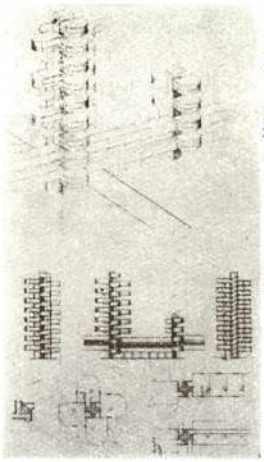


ソビエツトの綜合政廳　ハルコフ所在

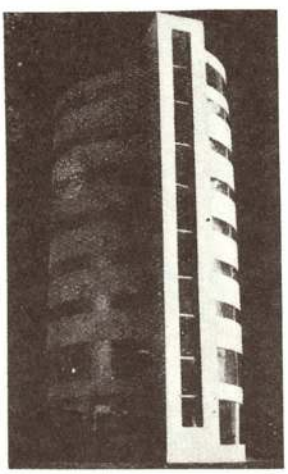
態を豫感して居るのではないか、此の過誤は、現にモスコーのアパートに於て見たところのもの同様であつたことは注意するに足る。私は此の點について、ベルナオに於ける、ハンネマイヤーの作品について興味ある提案が、恐らく將來に於ける問題の楔點を握るものとして注意をひくものであることを特記したい。とまれ、ロシアの建築に於て吾々の注意す可く、又、興味を引く點は、單なる建築上の型態の問題でなく、其の計畫の基礎と提案の骨子である。此の意味で私は各種團體の倶樂部、台所の徹廢共立食堂兼食糧品製作所　パン工場、各種の研究所、高層アパート、工場、都市計畫等に、社會構成の基本を異にする、社會に必要なる之等の諸問題を含む建築に興味を覺ゆるばかりであつて、今のところ問題は寧ろ將來にある。貧窮なるソビエツトの、プロレタリア達が、其の平均收入を增したる將來に於て、建築が、尙、此のレアリズムの提唱を續けるであらうかと云ふことも。



ヴェスニーン作・鑛物學研究所
同氏初期の作、商業所に比べて變化の狀態に注意



ソビエット將來のアパート計畫



アパート・モスコー

◇

建築上の發達に於て、若し、材料が其の主要の役目を持つものだとすれば、私は茲にメツセ、又は、展覽會に於ける速成の建築に注意したい。速成の點に於て、大膽なる點に於て、無條件さに於て、合理的なる點に於て、等々　に於て展覽會は其の都度新建築運動の發祥ともなり、又種々の意味で將來を暗示し、又、其の實驗室でもあつた樣に思われる。



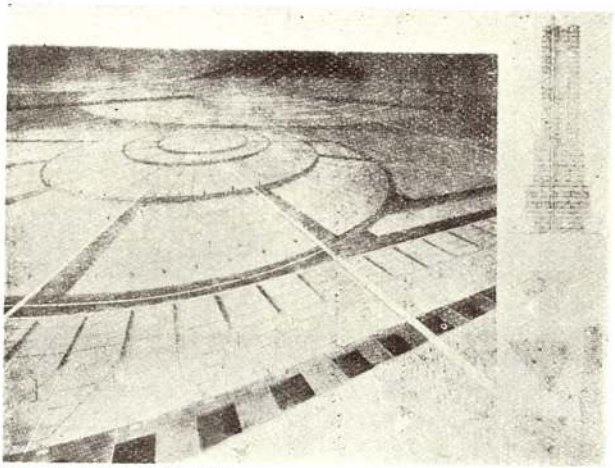
國立商業所・モスコー（ヴェスニーン作）

私は本年度の之等の建築について次の如き場合を擧げる。

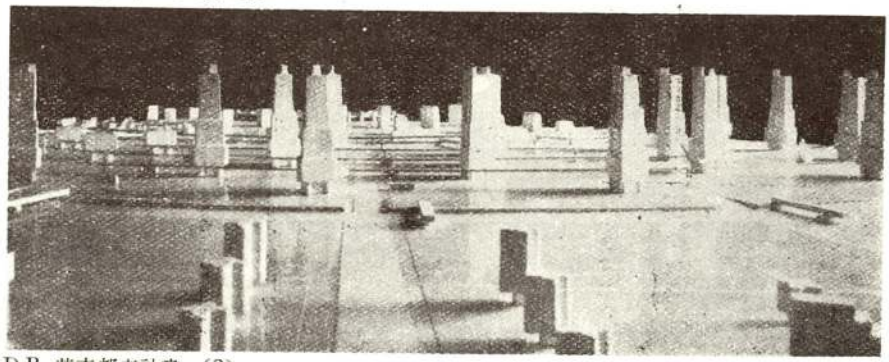
アントワープに於ける世界博覽會、ストツクホルム一九三〇年博覽會、ドレスデン衛生博覽會、パリー裝飾美術展覽會、チユウリツヒ萬國料理法展覽會等。アントワープ博覽會の諸建築については藏川氏のオランダ館の圖集の外はあまり多く傳へられて居ない樣であるが、規模に於ては他に擧げたもののうちで、格段の相違がある。建築として前記オランダ館の大建築の外は僅かに極めて少數の小建築に注意せられた外多くは展覽會建築として私の指摘せんとするが如き問題にふれたものは極めて少數と云つてもよく、其の多くは在來



アパート・モスコー



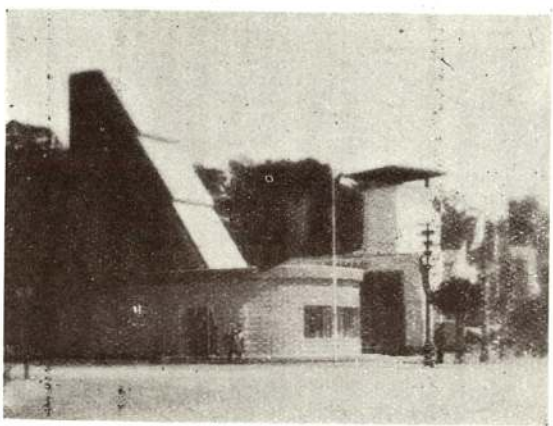
D.B. 基本都市計畫（1）



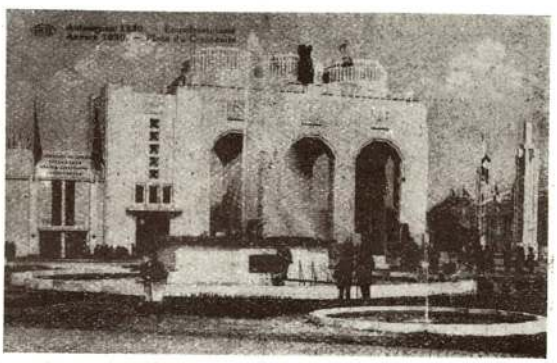
D.B. 基本都市計畫（2）

の手法を踏襲して居た様に思われる。オランダ館については多く語る必要がない、只だ注意をひいた點を記するならば、内部の手法、特にベニヤ板を以て壁を張り、そしてそれに、油繪を畫き、又ペンキを薄くなすりつけて木の味をそのまゝ保存して居ることなど博覽會式に極めて單簡に又無雜作に造り上げたものとしては餘程優れた人の手になつたものとしか思へなかつたのは、特に人の目をひいた様である。

機能主義工藝美術を以て目的とするところのストツクホルムの博覽會が、その通りに出來て居たかどうかは別問題として、さして大規模とも思われなかつた此展覽會の諸建築が賑々しく日本に紹介されたのは勿論、雜誌を通じて宣傳せられたからであつた。型態の美しくして、清新な點に於て將に此の種建築中の白眉と云つてよい、然るに此の建築場で、私の注意をひいた點は、新材料の自由な使用法でなかつたかと思はれる。例へば鐵板を、ベニヤ板を、スレート板を、殊にスレート板を大膽に外裝用として使用して居るところなどは曾て見ない傾向である。更らに總ての使用材料の寸法を極度に小さくして居る點など寫眞を一見した丈けで何人も分るところであらう。夫故、茲の建築は、どれも一様に、飛行機の様に輕くて、細くて、薄い表現となつたのである。新しく強じんな材料の發見の下に於ても、尚、煉瓦時代の寸法を踏襲する様な事は、次第になくなつたとは云へ、此の建築の様に徹底したものは少ない。



アントワープ同博覽會場に於ける一つの小建築



アントワープ世界博覽會の正門

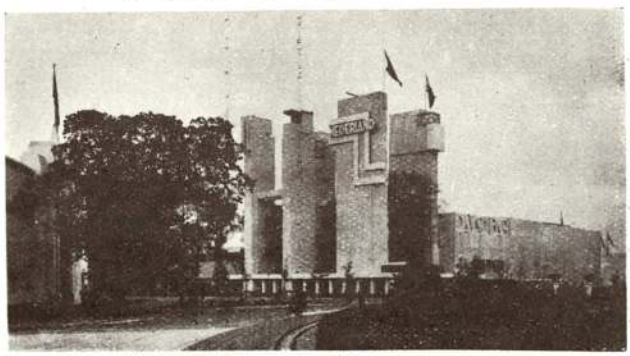


チユウリツヒの萬國料理法展覽會場・色の美しい點で其他の展覽會に優つて居る

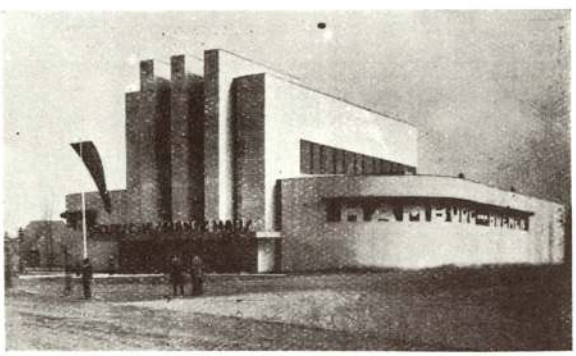


チユウリツヒの萬國料理法展覽會場

新興ドイツにおける展覽會の常設は何人も注意して居る現象であるが、之れが爲めに常設館となる可き建築にして相當立派な建築を建てらることは、都市の郊外に群をなせる住宅建築と共に新興ドイツの特異ある建築的現象として指摘されるっケルン、ベルリン、ライプチヒ、など私の見たすけの範圍としても、かなり高級にして且つ理論的な建築として特に注意をひいたものであつた今私は新らしく出來たもの、一つとしてドレスデンの衛生展覽會場建築を數へる。ドレスデンと云へば、ラフアエルのマドンナを藏し、又美術の都としてドイツ切つての貴重なものを有する美術館の名と共に例のボールハウス、球形建築の試演場として何人も記憶せられて居ること、思ふ、だが、此の球建築、恐らく、作者に取つては興ざめどころの騒ぎでなく、眞に現代都市の行き詰つた建築を打開して將來に實現を期待せられた此の建築は丁度此の會場に在つたにも不拘實に厄介視せられて居た樣に見えたのは聊か氣の毒であつた。事は單に一模型建築に過ぎないとしても、鐵材を以て造られた、かなり大規模の共建築をよくも造らせたし、又、之れを作つた建築の努力などを考へ、そして、それが今は只見せ物の樣に取り扱はれて居た點などを考へ合せると、問題は、更らに深い考察に迄達せなければならぬ樣にも思われる。今夏、神戸の博覽會、恐らくドレスデンの博覽會にも比適せらるゝ程の此の博覽會の諸建築を見た人達は、徒りに雜誌を通じてでもドイツのものと比較せらるゝがいゝ。何が此の建築をそうしたのであらうか。これ以上書く事は無駄であらう。



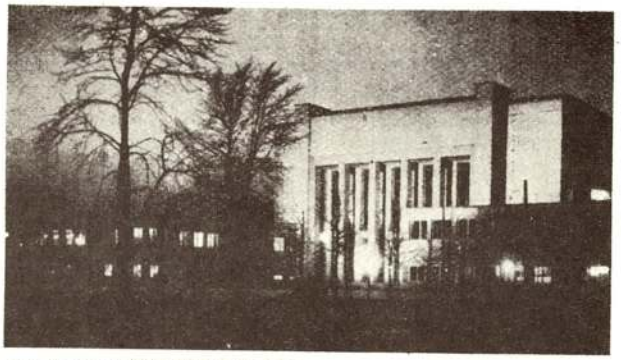
アントワープ世界博覽會・オランダ館



アントワープ世界博覽會・スエーデン館

◇

ル・コルビジエは一頃日本の建築家と云ふ建築家の頭を占領してしまつて居た。我がコルこそ建築の王者であると祭り上げたものもなかにはあつた。たゞコルの建築に難癖をつける者と云へば、建築的ニヒリストか、さもなければ建築的ファシストの群だけであつた樣に思へた。擧げて、我がコルこ



ドレスデンの衛生博覽會場本館

そは世界の建築的思想界を支配する偶像ではなかつたか。

これは僅かに二年前の事である其の頃チュリツヒではサルブラを中心とする一團の壁紙工藝術家達のなかにアンチコルビジエの聲を擧げて居たと聞いた ところが日本ではどうか、其の王者コルに對して無禮者が出だした『ル・コルビジエ檢討』などとやり出すものが出た。吾々は、王者としてのコルに中毒したと同樣に、しかつめらしい、幾多の『ル・コルビジエ檢討論』にも亦中毒しなければならないことを覺悟しなければならぬ豫感が湧いて來る。彼れは建築を貴婦人化し、有閑婦人の背景とし、流行衣裳の廣告に借景的役割をなすものと云ひ、はては『お鬘ぐるみ』式、モダン貴婦人好みとなり終つた彼れの建築がもつところの居住價値も、視覺的樣姿も、今や、高級フランス製化粧水の容器になりおわつたと嘲笑し、失禮にも、敢へて言ふ者が出だした。

そのたんかは何故二年前に云はなかつたか、もう遲い、お蔭で、學校ではフランス語を急にやり出す者が出來、コルの事務所に只働きをする者が增へたのである。だが、偶像コルに幾年かの巡禮を終へた人達の作品を見るがよい。コルは遂にコルの外コルではないことを深く感ずるのである。何の爲めに永い間コルの下に板の樣に平べつたくなつたか。日本の新興建築は斯樣に惱み少なく生れるものであらうかと考へさせられるのである。

これは而しコルビジエの作風が最初の確固性から次第に變質したものであるとは云へない。私は、ワイゼンホフでも亦、パリーに於ける彼れのいくつかの作品を見ても、彼れの有つところの優秀なる作風を認めずには居られない。凡そ吾々の建築批評の基準として、其の批評が單に發生學的のものであるならば資本主義圈内に於ては問題になる餘地は多くあるまい。夫故自然、イデオロギー的批評だけが問題となるのである。凡らく、コルの作風についての幾多の批評は凡て此の意味に於ての論議がなされるのであつて、單に建築として見たるコルの作風は今尚吾々の胸を打つものがあると云つても差支へない。だが、彼れの作風は所詮フランス的資本主義背景が骨格をなして居ると思われる。故に、敎授ドクチアエフ氏は、モスコー大學の敎室で、彼れの作品と吾々の如き思想を有するものとの間には一致しないものがあると云つたのである。

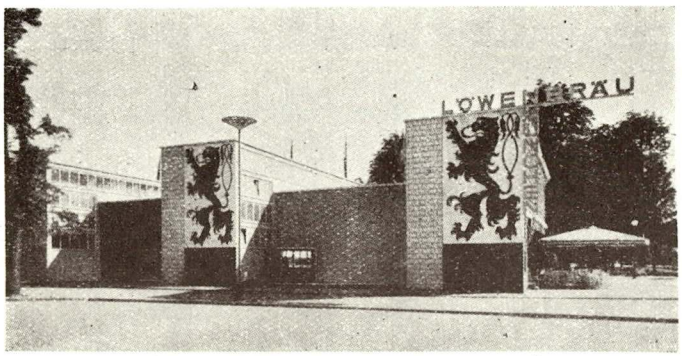
私は今コルの作品を所詮フランス風であると一口に書いたが、若し、之れをアンドレルーサーの作品に比べるなら、そこに斷然越え難いところの二つの美しい固性を見出す。ペレー、コル、ルーサー、マレステバン、等は皆、あまりに日本の建築界におなじみが深い。私が玆にコルと、ルーサーの二人を引例した意圖は同じく、住宅の建築に於て一つはあまりに繪畫的であるのに比し他はあまりに建築的である點を注意したのであつてペレー以下これ等のフランス建築家の一團と群雄割據の觀あるドイツの建築家の一團、今私の頭に浮んで居るところ建築家、例へば、フエーゲル、ファーレンカンプ、オスカーカウフマン、カールシュナイダー、メンデルゾン、エルンストマイ、ペルチツピ、グロピウス、ベーレンス……等々、夫々の作風を以て、



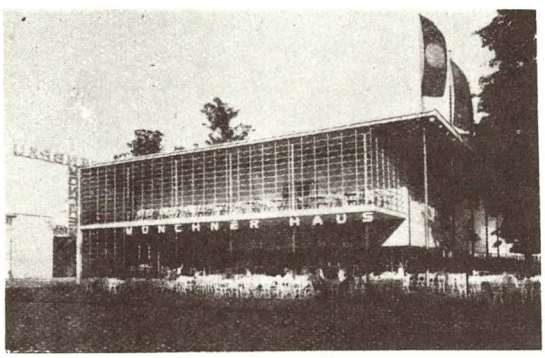
ドレスデンに於ける衛生博覽會建築

夫れ夫れの地方的地盤を持つて居るところの建築家を想像對比してそこに一種の興味を感ずる。

私は今此の興味を、一九三〇年度における、パリーの裝飾美術家協會の主催する、工藝美術展覽會について考へて見たい。此の展覽會にドイツのウェルクブンド、詳く言へばグロピウスの指揮した、ドイツ側の出品が一見バウハウスの作風を聯想することは當然であつて、フランス側の出品に對し斷然その趣を異にして居るのは興味をそそつて居た　此の展覽會のことについては、已に、多くの事が語られて居るが、フランス側の華かな美しいモダーン振りに對してドイツ側の機械的綜合、尖端的新材料のあらゆる作品の綜合との間には斷然異なつた興趣があつた。今和次郎氏はロンドンの宿舍で、此の二つの傾向について、フランスのは美しい、其の華かさは實にすばらしいが、夫れ丈けの意味しか含んで居ない。と云ふ事を云つて居られたのは意味がある。而し私はドイツ側の作品に、一切のブルジョワ趣味が殆んど抹殺されて居たと云ふ日本への報導は必らずしも眞相を傳へたものでなく、そこには新材料殊に、ガラス、鐵、ファイバー、等の亂用が機械の如く冷めたく、光つて居たし、夫れ等の綜合が、コバルトとバーミリオン、を主色として、黒と、銀色とを案配されて、そこに一種のプチブル的趣味のふんいきがかもされ、此の室内に若し暖房がないとしたら住むものは寒さに慄るへるにちがいないと思はれる樣な氣持ちであつた。對比を、單にフランスと、ドイツの作品に限つて見たところの感想が其のまゝ日本に傳へられることは種々の意味に於て危險を釀すものであることを感せざるを得ない。だが、技巧に於てフランスのすばらしい作風を、思想に於て、ウエルクブンドの作風を採ると云ふ事は獨り私のみの感想ではあるまい。そして此の工藝的傾向はひいて獨佛の建築的傾向の一般特長として表はれて居るのではないかと云ふことは興味あることではないかと思ふ。



ドレスデンに於ける衛生博覽會建築



ドレスデンに於ける衛生博覽會建築

概して、歐洲の建築界は淋しく感ぜられた、只、北歐諸國の、地についた樣な諸建築、例へば、ストツクホルムの市廳舍なり、音樂堂なり、圖書館なり、又、フインランドに於ける、サーリネンの作風なりが　獨佛の建築と同じ程度に紹介せられてないことは殘念に思つた　そこに理由があるとしても、これは確かに吾々の損失である。或は之れを紹介するにはあまりに藝術的であるかも知れないからでもあらう。北歐の旅をするものの一度は此の町を訪れて、市役所の高雅な建物を見ることは悦びであらうが、感銘の極、只々頭が下ると云ふ外表はす可き言葉もない。近代の建築的傾向を云爲するなら或は多くの缺點を持つて居るであらうところの此の建築は、藝術的香氣に於て一切の理由を超越して居た。

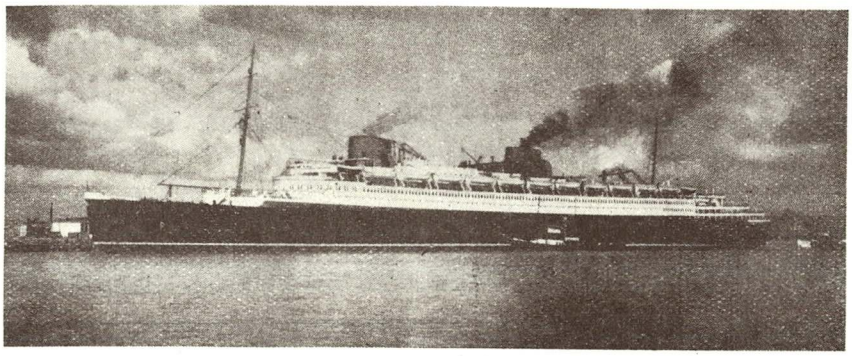
ストツクホルムにと、コペンヘーゲンにも、所謂新興の合理的、國際的の建築が幅頭して居ることは注意するに足ると思ふが、フインランドではまだ、サーリネンの

残した特異な新建築と、平和なネオ古典趣味の建築の新らしいものがある外概して靜かであつた。伊太利、イギリスなど、一日で見物しても時間が惜しい様な氣持ちで過ぎてしまつたと云いたい。

◇

サザンプトンを出帆してから僅か四日と二十時間でブレーメン號は吾々をして平和の女神を見せてくれた。恐ろしいスピード化ではないか。今更ドイツの新興振りを一人だつて賞めないものはなかつた。此の新らしい船の形を見て居る丈けでも吾々は大船に乗つた氣持だつた。イギリスの船會社は之れが爲めに傳統的横柄振りを改め出したそうである。

船がハドソンの河口に近ずくと特有の霞を透して吾々の眼前を塞いで居るものに氣附く頃は、船はずつとマンハツタンの諸建築を指顧するところに來るのである。折り重なつた森林の様な高層建築群の盛觀は足掛け五日の間茫洋たる海原を見つめて來た人達の頭に調和ある象を造り出すことは出來ない位である。將に此の、近代建築のローマの都は名狀す可からざる偉觀であつて、吾々は此の光景を幾度見ても科學と建築との藝術に對し嘆賞の言葉を禁じ得ない。建物の高さと、そゝり立つた大群の建築で、岸壁は海面とすれすれすれに見え、マンハツタンは今にも沈みそうである。銀波が斜陽にきらめいて居て、背光を帶びた建物の群塊が淡黑く海から立ち上つて居る様にも見える。私は幾度となく、アメリカを見ずして近代建築を語る資格がないと思ひ返して見たのである。



ブレーメン號

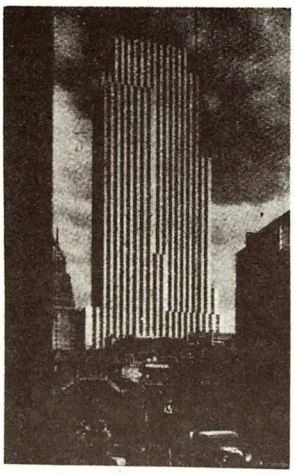
私としては八年前のニユウヨークを印象して居る、而し今、歐洲の建築界を見た記憶を以てアメリカの建築に觸れ、又之れを新らしい眼で見ることは確かに私に取つて一つの悦びでもあり、且つ、新らしい批判の對照を作るものと云ふ意味で期待せられた、或る人は恐らく、此の町を訪れた大多數の建築家達は、アメリカについて多く語る事を好まぬと聞くが、それは恐らく、アメリカニズムの、謂はゞ、ヤンキーを以て代表せらるゝアメリカ臭の爲か、高い建物によつて醸される壓倒的感じと、うるほいのない町の風景か、數へ舉げれば、藝術と、哲學に欠けたふんいきにへきえきした爲めに起る氣持であるかと思われる、それが單に建築上の問題に限つた事とすれば、とまれその人はアメリカを理解し得ないことから起る氣持であらう。若し、アメリカニズムに善惡二つの意味のものがあるとすれば、一つは、スターリンがソビエツト聯盟に、その輸入を促進した様な、實務性、スピード、マツスプロダクション、ファンクショナリズムなどの一面と、他は消費を主題とする映畫的、弗箱的マーカンチリズム、と、コーネーアイランド的ナンセンスの方面であらう、と思はれる。他の一面は、ロシアを含み、又、イギリスを含まざる汎歐洲の建築家達を實務的に又、大量的にリードするところのものであり、次の一面は、成金と、顔と脚とに自信を持てる程の女なら、猫もしやくしも好むところの一面であるかも知れない、ヨーロツパ的敎養から云へば、アメリカは實に、無作法であり、無遠慮であり、無敎育であり、下劣であるが、アメリカから云へば、歐洲は實に、仕末におへぬすね者であり氣取屋であり、實行力を持たぬ學者であり、机上の空論家であり、ペダンチツクであるかも知れない夫れ程の差異が兩洲の建築的傾向を形造つて居る以上、土臺根本に

於て、二つを同一に論ずる事は無理である。アメリカに於ける、新興建築が現にアメリカ特有のものとなつた樣に、歐洲的好尙と、その理論と、敎育と、趣味とを、以て、アメリカを論ずることは無茶である。

◇

アメリカの建築が歐洲の後塵をなめて居るものだと云ふ見解は最早十年前の事に屬すると云つてもよく、新興アメリカの建築の傾向が、既に一個のアメリカ特有のものとなつたことは、而しながら極めて最近の事に屬する。

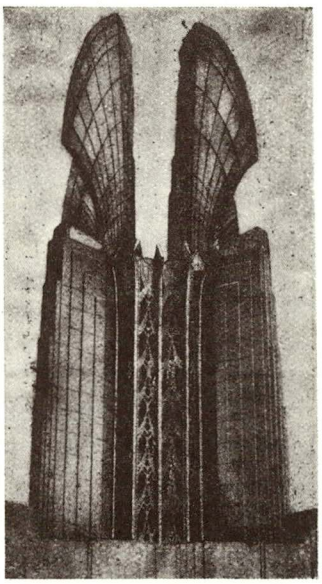
サリバンはニウヨーク市廳舍の設計案に、若しも、ハウエル、ストークス兩氏の案が入選して居たなら眞のアメリカ式高層建築は一九〇八年頃から始まつて居たに違いないと云つて居るがマツキム、ミード、及びホワイト氏等のイタリアン・レネサンス風のものが當選した爲めに、吾々は永い間、アメリカ式高層建築の範を此の市廳舍に求めたと云つてもよいだが、一九二二年シカゴトリビューンの世界的懸賞を轉期として、地域制、所謂ゾーニングローの實施と、歐洲建築家達の移住によつて、アメリカの新興建築は遂に自身の傾向を持つ樣に變つて行つた、フィンランドの有名な建築家、エリエルサーリネンの二等當選案がアメリカに於ける高層建築の代表的傾向となつたのは此の頃からであつた。



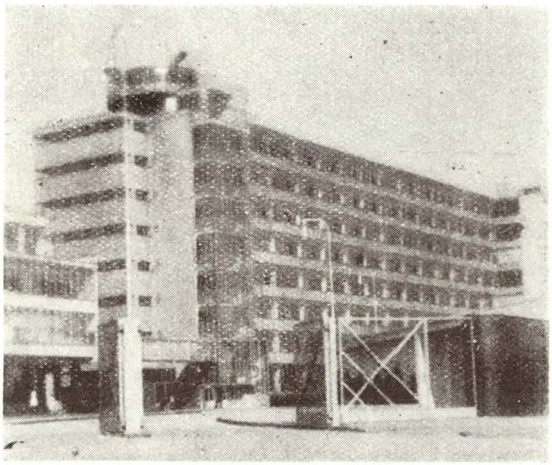
モーレー・ホウ氏及ジョンソン・ビルヂング・ニユウヨークハウエルス氏

◇

而しながら八年前に於けるアメリカの建築の印象を以て、最近の建築を比較するに、おびたゞしき大量の建築は今や中央ステーション附近を中心としてマンハツタンをうづめつゝあるにもかゝわらず、建物の質を通じて見たるアメリカの建築は既して底下して來たことは注意す可き現象である。此の事はあらゆる場合に於て氣附かれるが、特に著しい實例として高價な材料例へばテラカツタの需用が激減したことなどは著しい例である、以て建築の全般を伺ふに足ると思ふ、今茲に多數の本年竣工したる新建築のうちから筆者の好尙に從つて二三の重要なる建築を擧げるとすれば、バンク・マンハツタン・ビルヂング、クライスラー・ビルヂング、ニユウス・ビルヂング等は其の重なるものである。一時中止の形にあつた、高さの競走が再び擡頭し出した事についてはバンク・マンハツタンとクライスラー・ビルに關する論爭、と一千四百尺の高さを有するエムパイヤーステート・ビルヂングの施工中を擧げたい。經濟上採算の限度を七八十階とすれば、夫れ以上は全く廣告塔に同じい。斯樣な建築的傾向が何故に生じ、又、何故に必要であるかと云ふ疑問を理解するには、根本からメリカの新興文化を勉強しなければならぬが、そのうちから吾々は極めて最近の建築的傾向としてクライスラー・ビルヂングの表現の意味を一考したい。此の建築の野蠻な事について吾々は單に普通の考へを以て批評してはならない無論、歐洲的理論とは此の場合恐ろしくかけ離れたものであらうし、又、常識的に判斷することの出來ない位馬鹿化た樣な建築でもある。私は此の建築について一の假想を懷く、ナンセンス的、恐らく、行詰つた唯理思想の窮屈さをけ飛ばして、何かしら、高らかに歌ひ、且つおどるところの濶達にして、秩序を無視する者の姿で



バレートラストコンパニーの塔　何を形どれる此の形な此の樣なカルメンの樣と見る



フアンネレー・ロツテルダム郊外

な塔に敬意を拂ふ必要があるかどうか。

最近のアメリカ雜誌は愈々ニユウス・ビルヂング、詳しく云へばデリー・ニユウスの新聞社の竣工を報じて居るが、作者が青年建築家レーモンドフード氏である事を知れば、此の若き建築家がシカゴ・トリビユーンの一等當選以來一躍有名となり、相次でアメリカン・レラジエーター會社の黑と金との建築を設計して世間をあつと云わせたことを知らるゝであらう。此の作者の作風が一作毎に更まつて、茲にニユウス・ビルヂングを作り上げたのである。私は、高層建築としての範をなした建築として、過去に、市廳舍、シカゴ・トリビユーン二等當選案を擧げるとして、更らに今後の傾向として今一つニユウス・ビルヂングを擧げたい。簡潔にして、著しくドイツ的（此の言葉は適當でないかも知れない）な此の作風はアメリカの如き極端なる高層建築に採りて如何に効果的であるか理論的に批評するなら更らに數頁に渉つて論ず可きであると思ふ、純白と濃きセピアの對照はあたりを拂ふ趣きがあり、パラマウントの屋上から眺めるなら、クライスラーと相並んで實にすばらしいモダーン振りを發揮して居るのである。

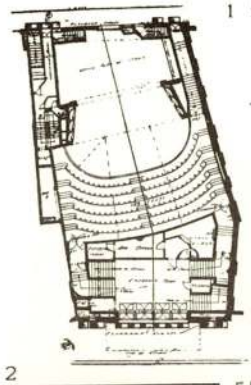
一渉りニウヨークの新建築も終つたらしく、どこの事務所も淋しい。不況氣は大きい丈けにアメリカに於て最惡だと云わるゝが、私の見るところではベルリン、恐らくドイツが最も淋しい樣に思われる、期待したオランダは工事としては稍盛んではあつたが、建築的特に新興の建築的見方としては左程でもなく、只ロツテルダムの郊外にあるファンネレー丈けは、これこそ眞に鐵と硝子と、ベトンの詩であると云つてもよく、此の建築を見た丈けで私は期待をはづした、歐洲の建築旅行に滿足した位である。而しながら、アメリカの盛況に比すれば歐洲は如何にも淋しく、恐らく本年中何が建築上の中心問題として論議せられたか、又その價値があつたであらうか、實際問題としての世界的な建築上の推進力は依然として、アメリカの莫大なる新興建築にあると思ふ筆者はそのうちから、レアリズムの對照をロシアとアメリカに、實驗室的理論と、意味深い新建築の技巧とをドイツ殊にグロピウス、カールシユナイダー、ハンネスマイヤー及び、カウフマン、ファーレンカンプ等を好んで採り、相も變らず、ドイツの出版業者は若き日本の建築家達の心にみ力ある雜誌を送るであろうことを豫記して筆を擱く。

（十二、二十二）

はないか、世間はあまり窮屈であり、きよぎであり、時代の新らしい自然主義が、モダーニズムの形を採つて現われた姿をクライスラーの白銀の塔に見るのである、此の建築がセンセーションを起したことは事實である。自動車の廣告としてもそれはあまりに亂舞に過ぎた形である。クライスラーの傾向は而し、クライスラー丈けで終るものとは思へない私にはその實例として、パレー・トラスト・コムパニーの建築を擧げる。讀者は此のカルメンの髮にさされた櫛の樣



フアンネレー・ロツテルダム郊外

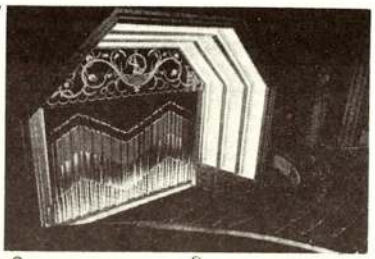

1


3

4




6


7

8



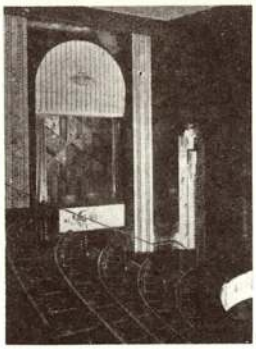
9



2



5



10



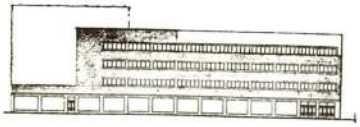
1 平面圖
2 外觀(夜景)
3 斷面圖
4 切符賣場
5 ボツクス
6 ロイセル・ボツクス
7 內部
8 サルーン
9 婦人室
10 舞臺

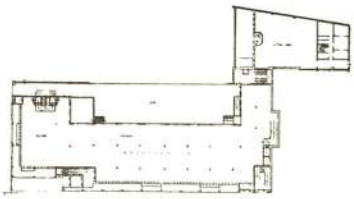
倫敦　ホワイトホール劇場

設計者　ストーン氏

切　取　線



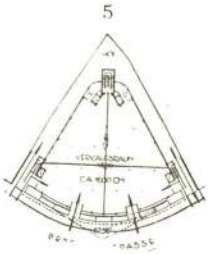

1


2



3


4


5



6


7


8


9

I 在ニユールンベルグ　1 立面圖　2 平面圖　3 外　觀　4 內部賣場
II 在シエムニツツ　5 平面圖　6 內　部　7 外　觀　8 同夜景　9 賣　場

獨乙各地の新百貨店　シヨツケン

設計者　エーリツヒ・メンデルゾーン氏

切　取　線

沼島式完全バランスシヤツター
沼島式ブレーキ付鎖引シヤツター
沼島式高級密閉上下鐵障子
沼島式平衡辷出シ鐵障子

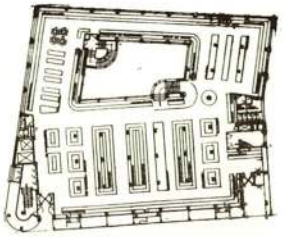
合名會社　汎建製作所

大阪市此花區恩貴島北之町拾壹番地
電話土佐堀４０２０

代理店　佐渡島西店

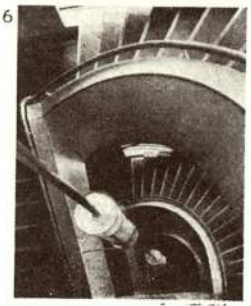

1


2


3


4


5


6


7


8

Ⅲ　在ストットガルト

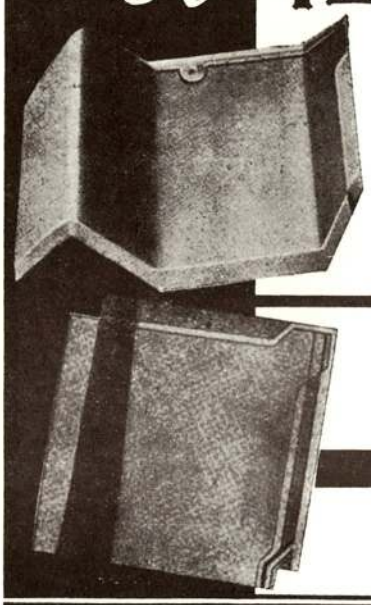
1 階段塔　2 支配人室　3 平面圖
4 外　觀　5 階　段　6 階　段
7 中　庭　8 一階賣場

獨乙各地の新百貨店　ショツケン

設計者　エーリツヒ・メンデルゾーン氏

切　取　線

高松式昭和



營業品目

各國産日本瓦
同　色　瓦
昭　和　瓦
敷瓦壁地張瓦
洋スパニッシュ瓦
伊太利瓦
フレンチ瓦
其の他瓦全般

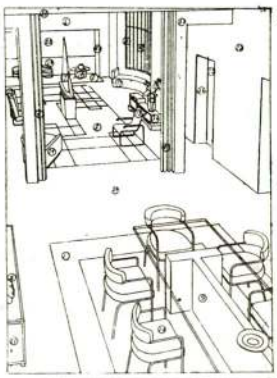
製造販賣施工

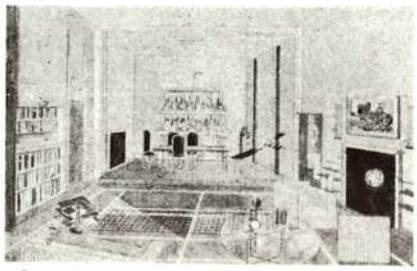
高松菊次郎商店

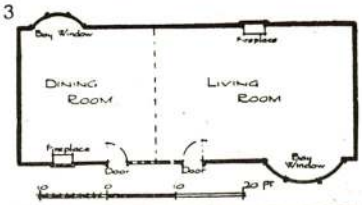
大阪市末吉橋通四丁目三十一番地
電話船場(83)九四一番

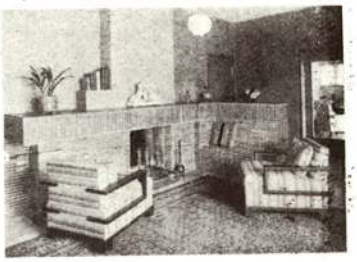
代理店　工材社

大阪市西區京町堀通一丁目十四番地　電話土佐堀(44)五八〇九番





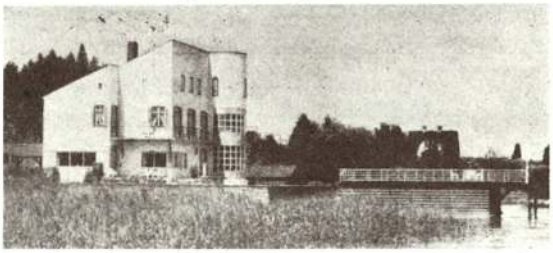












1 一等賞(£100)レーモンド・マックグレース氏　　4 一階平面圖　　5 二階平面圖　　6 住 室
2 二等賞(£50)ポール・ナシュ氏　　3 與へられたる平面圖　　7 煖 爐　　8 外 觀

ロート・ベンボー・アパートメント懸賞室內裝飾（英建築評論）　**瑞西チユーリツヒ湖畔の住宅**（英建築平面圖）
設計者　プアツハ教授・ロースコツテン氏

切取線

最新發明　防水工事界之革命
セメファルトプライマーに就て

防水工事の施工に際し從來**アスファルト**を**コンクリート**に完全に密着せしむる事の困難なるに依りアスファルトプライマー（アスファルトを輕油等にて稀釋したるもの）をコンクリートの表面に塗布し、これによりてコンクリートとアスファルトとの結合を容易ならしむる方法を採用し來りたるもこのアスファルトプライマーには次の如き缺陷あり。

1、コンクリートが完全に乾燥せざる場合はこれに塗布することを得ず、即ち水氣の爲浮上りてその用を爲さざればなり。（施工能率低下）

2、アスファルトプライマーは塗布後猶相當時間の經過を待たざれば防水工事を施工することを得ず。（施工能率低下）

3、アスファルトプライマー塗布後防水工事前に於て降雨等ありたる時は洗ひ流さるゝ虞あり。（膠着性不足、防水能力不備）

4、コンクリートとアスファルトとの密着度弱し。（膠着性小）

セメファルトプライマーは**アスファルト**と最も完全に融合する特性を有し且つ以上の缺陷を補ふべく案出せられたるものにして次の特徴を有す

1、**特性**　**コンクリート**に水氣あるも**アスファルト**を完全に密着せしむ。

2、**施工能率の增進**　塗布後三十分を出でずして防水工事を施工することを得。

3　**防水性**　**セメファルトプライマー**はそのもの自身にて大なる防水能力を有するを以て塗布後降雨等の爲絶對に洗ひ流さるゝことなし。

4、**膠着性**　**セメファルトプライマー**は**コンクリート**內部へ迅速に浸透し、且其上に塗布したる**アスファルト**と强く結合する故に**コンクリート**と防水層とを完全に膠着するものなり。

5、**施工簡易**　**セメファルトプライマー**は淡綉なる液體にして乾燥早きが故に刷毛引きにて施工最も簡易なり。

價格低廉　一回塗手間共約　金五十錢
一坪ニ付　二回塗手間共約　金九十錢

發賣元
工材社

本社　大阪市西區京町堀一丁目四〇番地　電話土佐堀五八〇九番
出張所　東京市芝區南佐久間町二丁目三番地　電話芝二五〇六番

宇治上神社本殿と上代住宅

工學博士　前田松韻

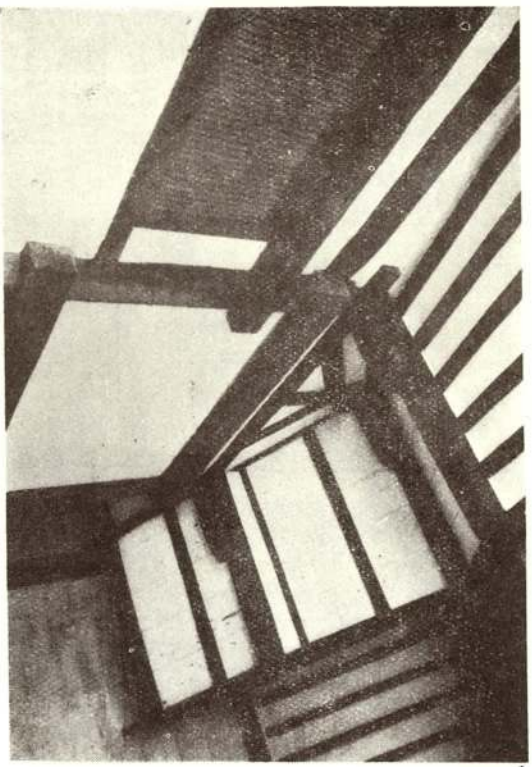
宇治川の邊り近くに聳ゆる旭山を望み、古き宮所を想ひて、初春の幸を祝はんかな。此の地は今の榮へにも增して往古は人跡繁く菟道稚郎子の宮と難波の宮との間には民の貢物を彼方、此方に運び迷ひて、御兄弟の御讓德の御有樣もおもんみ奉るもゆかしき次第である。而も遂に王仁の歌によりて此の御德の極みとなり、世は益々盛んとなつた。

難波津にさくや木の花冬ごもり
今を春べとさくや木の花

現代も亦『今を春べと咲くや木の花』として新年を言祝ぎ申す。

宇治上神社は菟道稚郎子命を祭り、築造は延喜の御時となつて居るが之は明かでは無い。本殿（平安）、覆堂、拜殿、春日神社、（以上三ヶ鎌倉）は何れも神社建築として貴重なるのみならず、また上代住宅の形式を想ひ起するに最も都合の好き建築である。今其の中本殿の形式上に關する事項に就きて思ふ事を記さう。

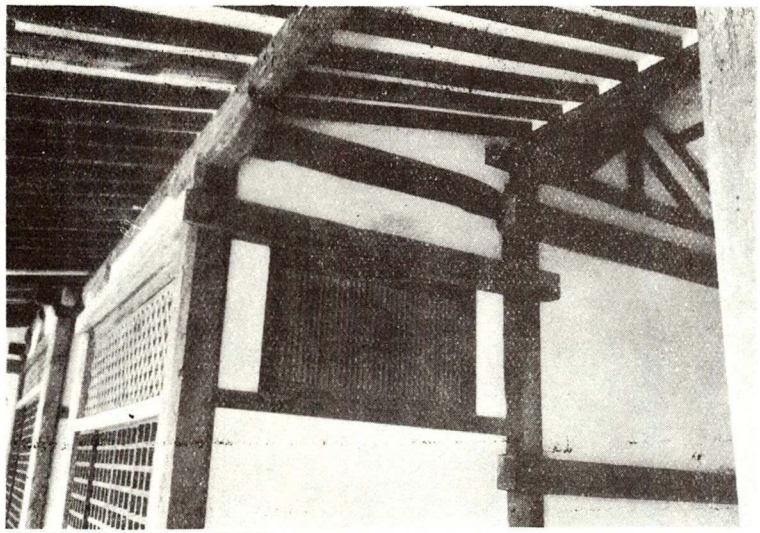
本殿三社の修繕のよく古體を保存して、要を得たるを感謝するものである。三社に就きて中殿は左右二殿と比して多くの異りがあり今之を例擧すれば、舟肘木と三斗組、蟇股の有無、中殿の前後左右の軒の出より大にして、曲線のより優れたること、中殿の舟肘木及桁の曲線及面の形の自然にして雅趣あること、中殿後部のマバラ棰、中殿全體木組の一般に自由にして



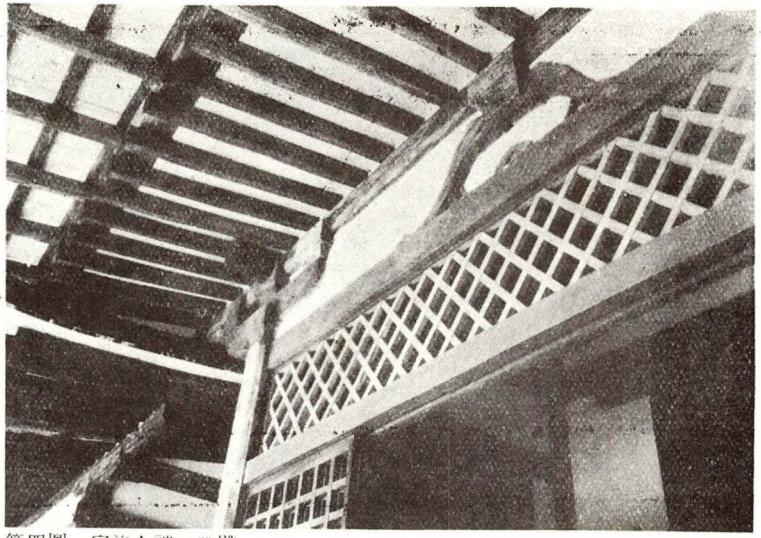
第一圖　宇治上神社中殿妻破風の手法



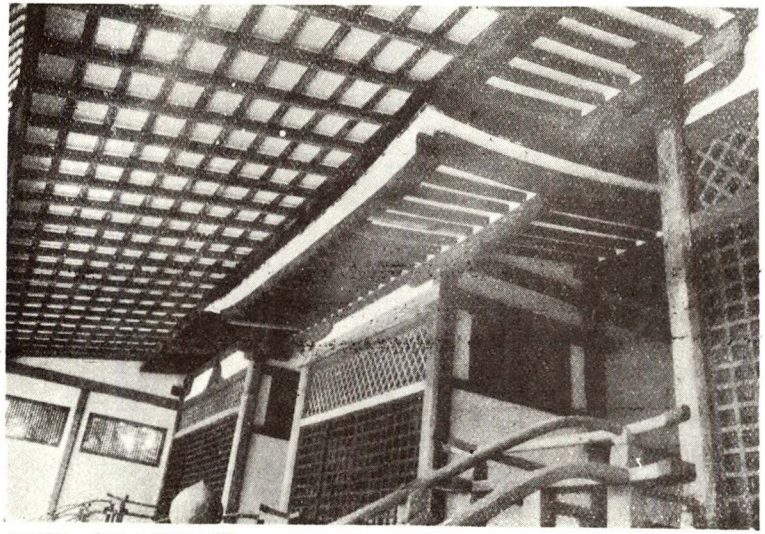
第二圖 A圖　宇治上神社中殿荏肘木、桁、長押、棰、軒



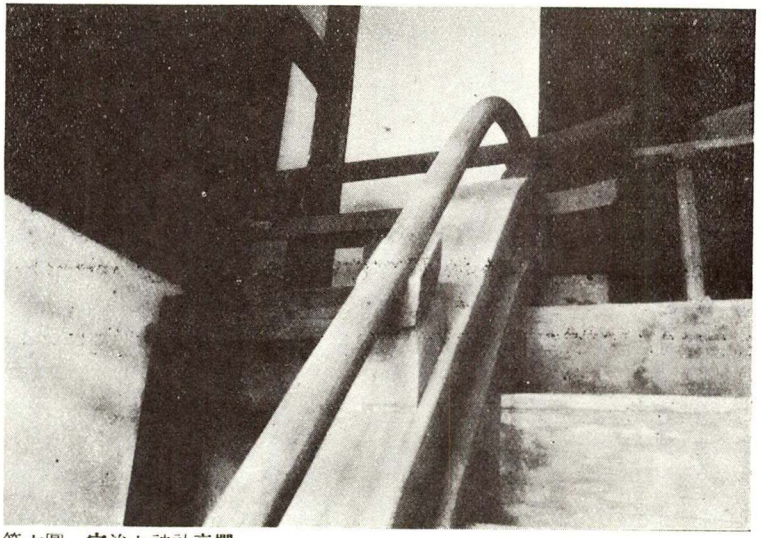
第三圖　宇治上神社中殿側面



第四圖　宇治上神社側殿



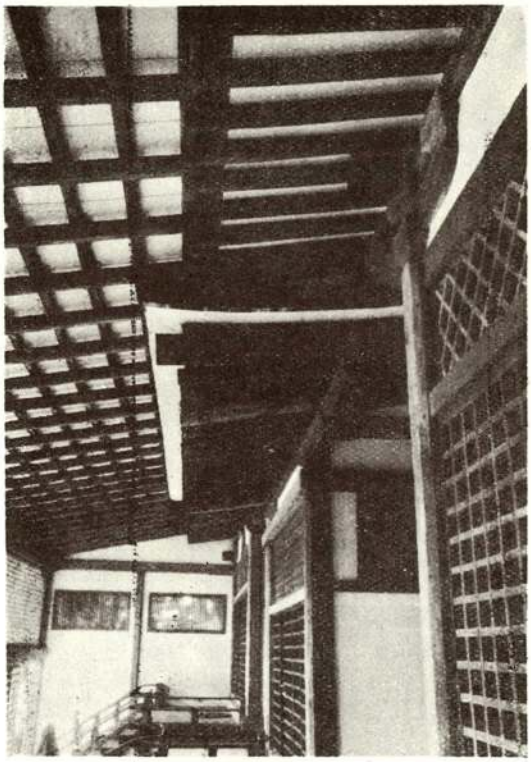
第五圖　宇治上神社三殿



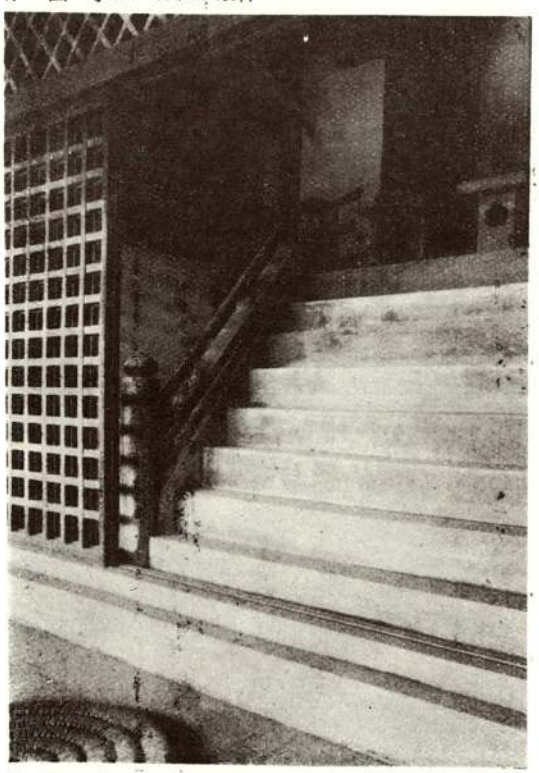
第六圖　宇治上神社高欄

餘裕のあること、等は主要なる異りであつて、但し柱の大面は大なる異りは無い。三社が同時に造られたりとせば中殿は斯様により簡素なる手法の用ひらるる筈は無いのであつて、いづれにしても、中殿は時代のより古きものである。建築時代は平安時代後期ではあるがより細き期は明で無い。左右殿は其の蟇股等より見るときは、他の此の種のものと比較して院宣期の初めと略推察さるゝによりて、従つて中殿は數十年前の藤原盛期である一條帝御時より餘り下らざるものであるこの余の考へは必ずしも、不當でなかろう。其の各部の形式の精神を見てうなづかるゝものがある。されば上代住宅の異常なる力を以て古代型と唐移入型の混化純成されたる期の産物であつて、神社建築であるだけそれだけまた上代住宅建築の有様を知るに此の盛期に於ける他に多く見られざる貴重なるものと考へらるゝのである。

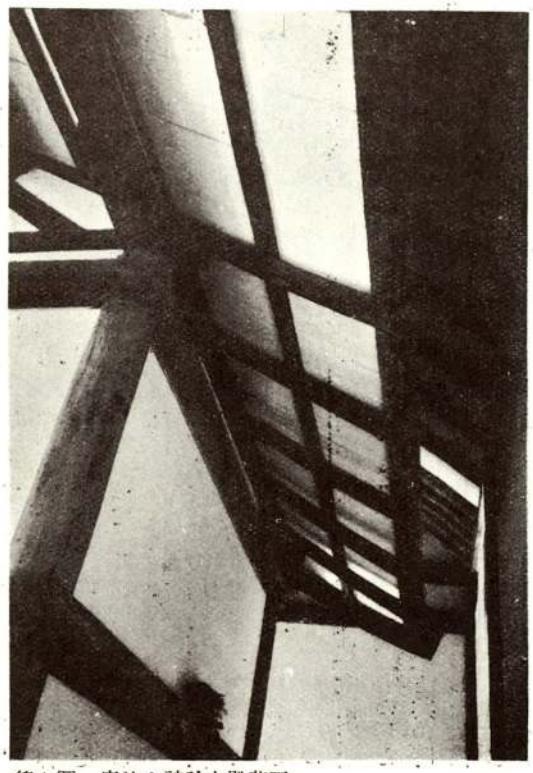
固より當時の住宅は其の形式に於て構法、材料に於て甚だ精美を極めたるものと簡素なるものと



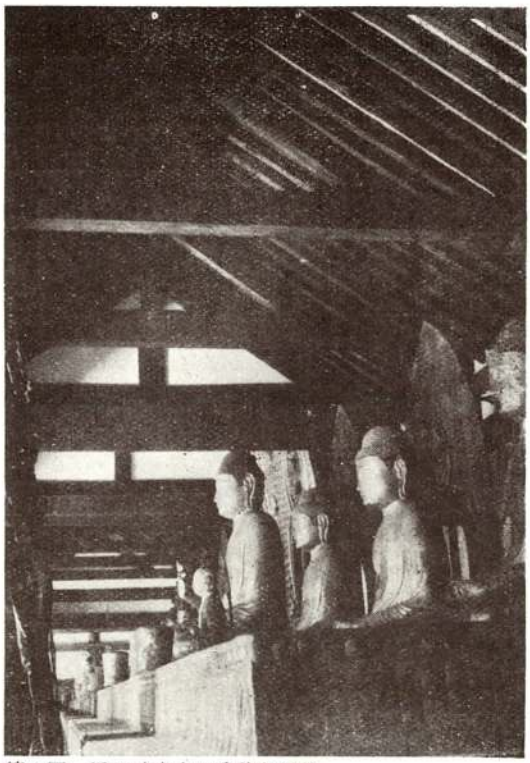
第八圖 宇治上神社中殿軒



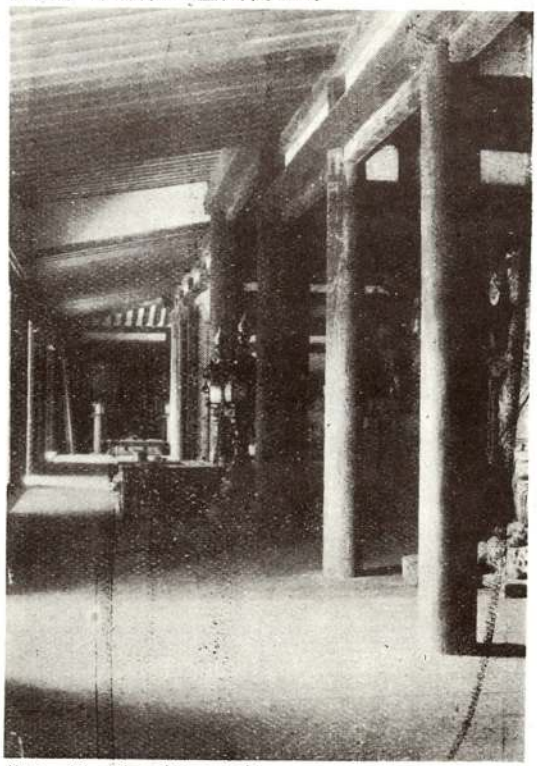
第九圖 宇治上神社高欄



第七圖 宇治上神社中殿背面



第十圖　淨瑠璃寺本堂內陣（母屋）



第十一圖　淨瑠璃寺本堂廂

種々あつたであろうけれども、中殿は其の後者に屬する種類のあるものを示してをるとは確である。左右殿は鳳凰堂、方界寺の系統あり中殿は方界寺廂の手法に似たるものがあるけれども之を精細に見る時は、其精神に於て幾分古雅であつて甚だ強みの多いものであつて、此れは覆堂の爲めに保存の好かつた爲めでもあろうか、簡單なる中に時代の特性である優雅の中に健全なる力を見出すことが出來且つ全部の配構の自由なる點は快趣を感ぜしむる。

A圖に於て桁及舟肘木の結合及反りの巧みにして、いわだかまりなき手法は簡單なる形の中に吾人をみいらせるものがある。また面の形に於て自から丸木より此等の大面取りの自ら發達せしを考へせしむる、特種の味ひがある。

其の他內陣四隅の丸柱、束、長押、マバラ種、軒の曲線等は後來に畫かれたる繪卷物に於ける住宅のそれをまの當り見るが如きである。此時代の實例に於て鳳凰堂、方界寺の廂の部分、三佛寺投入堂は常に住宅風の考へとして例に言はれて居るが、また淨瑠璃寺本堂は更にあるより多き慨念を吾人に與ふるのであつて、其の內陣の天井は母屋、外陣天井は廂に相等し柱、舟肘木の手法も濃厚なる木組の少くして、全體として、住宅の當時のある一種を思はしむるが、そこに宇治上神社のそれと性質の差異を見出すのである。

之を繪卷物の例に就て言つたなれば、隆能源氏物語繪卷中のものは前者に屬し、年中行事繪卷中の例は後者に屬する差異がある。

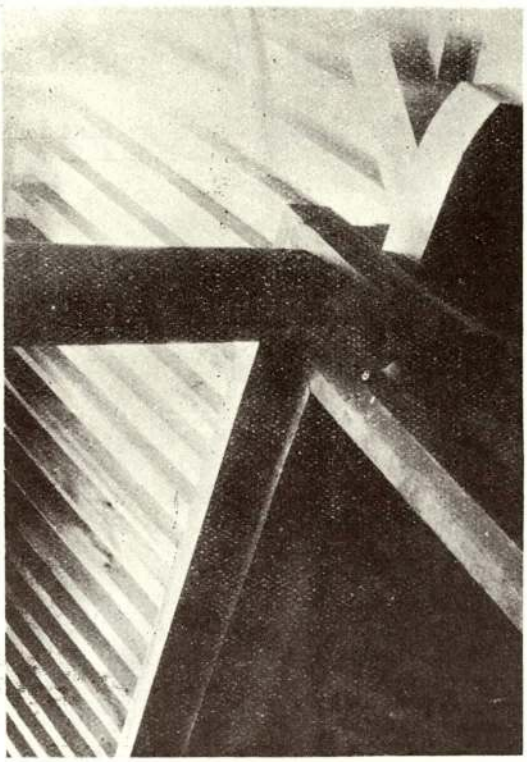
斯樣にして上代住宅に於てもそこに種々の系統があつたが後來平安末、鎌倉を通じて多く見るものは宇治上神社中殿風のものを多く見るのであつて、年中行事繪卷、伴大納言繪卷、春日驗記繪卷、神護寺山水屏風等其の他多くは皆そうであつて、後來普遍的に用ひられたる形の系統である。

斯くて此の種類の吾國後來の住宅形の一般の基底となつたものであつて、宇治上神社中殿は吾人の見る最初の實例であり、而も其の建設期は彼の吾國上代住宅極盛期にあるのである。日本固有の形と新來の形が結合し、國土と其の時代の環境に從て純化成形したる住宅形式のあるものを示すものとして、また中殿は貴重なるものと言

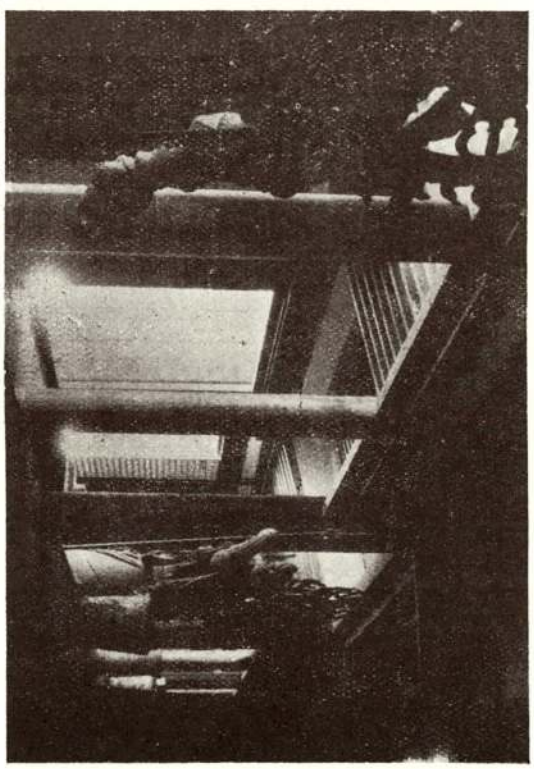
はねばならぬ。

次に上代住宅の感想と其の教訓を述べ様と思ふ。宇治上神社中殿に簡單なる體の實例を知る吾國上代住宅は固より他の材料によりてよりよくに、其の一般は知られて居る。其の規模に於て相等大に、平面及立體の構成に充分なる理智と高尚なる情が表はれて居る。此等のものは何れも此の時代の産物に外ならぬ。當時固より對外的には絶對安全であり、資金は豊であある。風習に於ても何れの國にも有せる上古の風習を遺して尚外來の風習も交へて居つて大なる詩趣の存して居つた。之を現今の道德觀より見るときは異に感ずる所も多いが、當時のものを示せる標本となれる源氏物語も、枕草紙も何れも人に讀ませる爲めに、特に感興の集中を目的としたる爲め、社會の特異の事項を多く記したるものであつて、其の材料は現實より來れるものなるも、今日の奇拔なる小説と同樣であつて、此等を以て一般なりと考ふるこゝは固より誤れるものである。當時は大なる階級制度を以て更に氏の勢力の再び發現したのではあるが、此等の人々は兎に角官、公、私立大學に學び政治と共に道德の經を習得してをつたのである。故に當時亦人心に力ある佛教と共に此等の學問は當時の社會に一定の秩序を存せしめ、稀に見る整然たる上下の關係が存して居り、下人民に於ても罪人が甚だ少なかつたのである。此等の上古の傳統と、風俗、人情、また對外患の無き安穩、高逸なる文學上の趣味、豊富なる木材、等が因を爲せる時代の産物として上代住宅が生じたものであつて、而も其の規模に於て相等に大に、また平面、外觀に於て、著しき理智のひらめきと高雅なる情趣の表れがある。人類中の一種族として高邁なる頭腦を有せざるよりは、如何にして斯かるものが出來やうか。

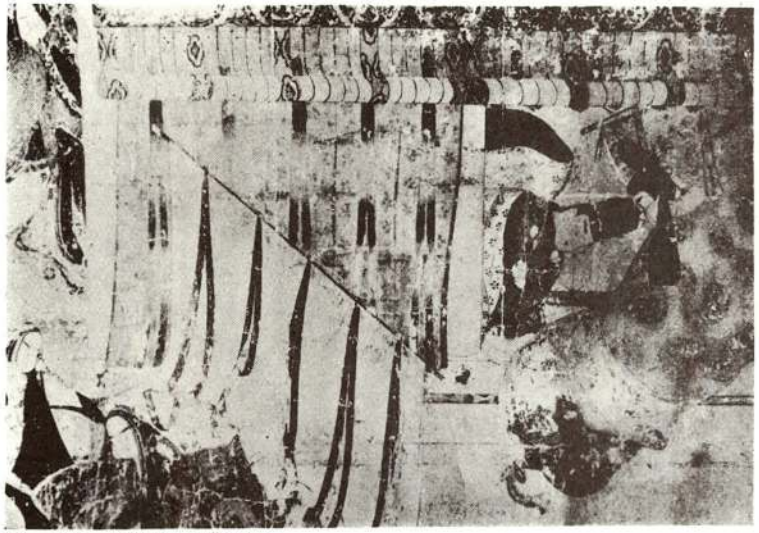
古代アツシリヤ、バビロン及びペルシヤの住宅は其の國の闘爭本意と木材の少きより斯かるものが出で、羅馬の住宅も時の豪華と大理石の豊富により斯かるものが出で、英のチューダー、エリザベタン、住宅、佛のシヤトー、獨の階段屋根住宅、米の『コロニヤル』住



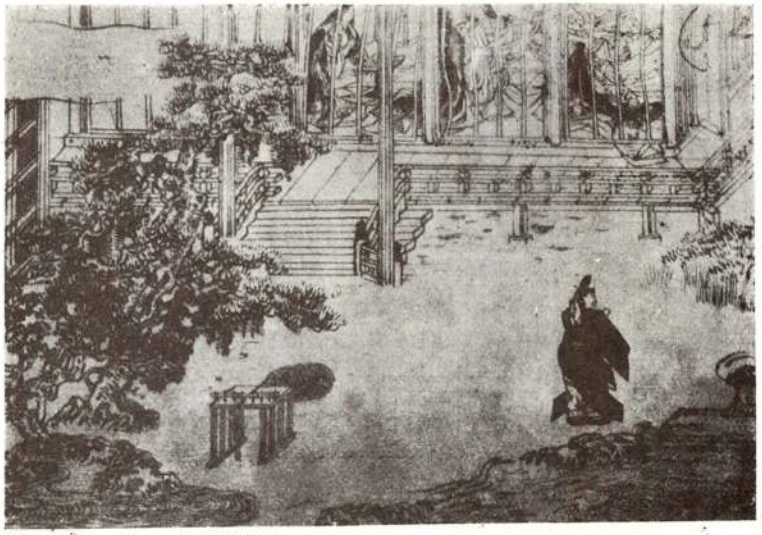
第十二圖　淨瑠璃寺本堂内部四角肘木附近



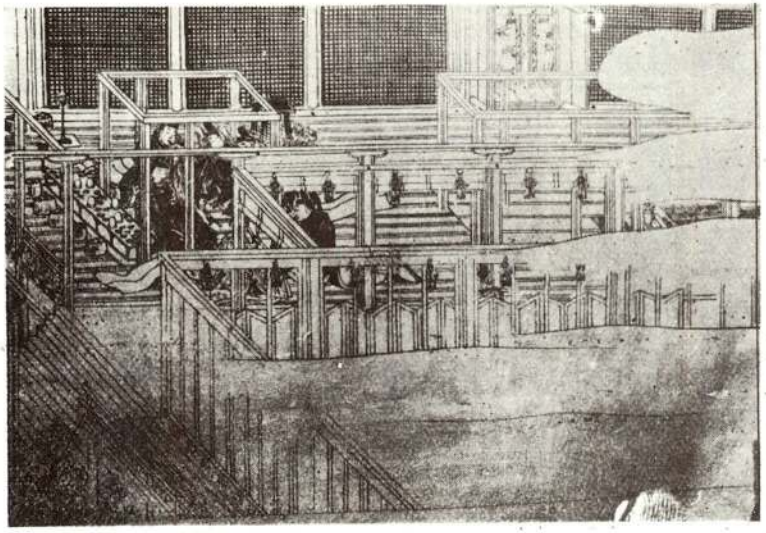
第十三圖　淨瑠璃寺本堂正列



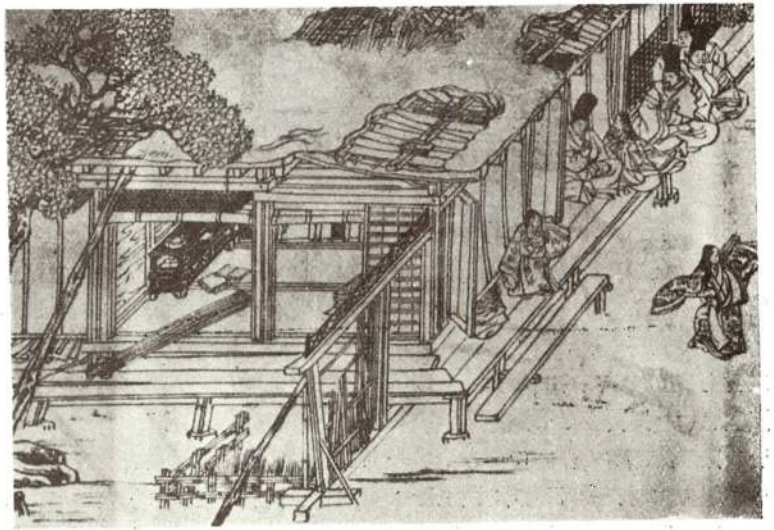
第十四圖　隆能源氏物語繪卷



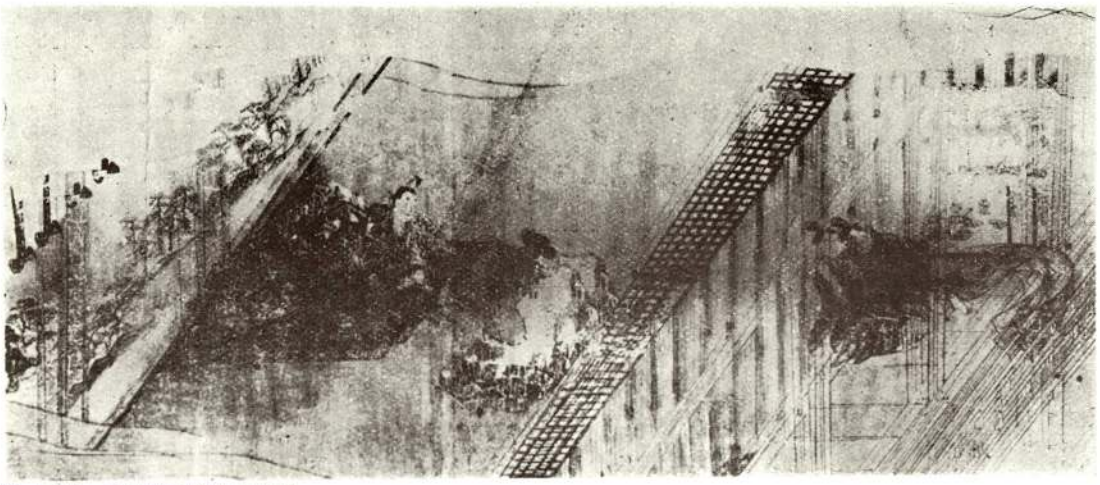
第十五圖　年中行事繪卷寢殿



第十六圖　年中行事繪卷



第十七圖　年中行事繪卷寢殿



第十八圖　伴大納言繪卷清涼殿

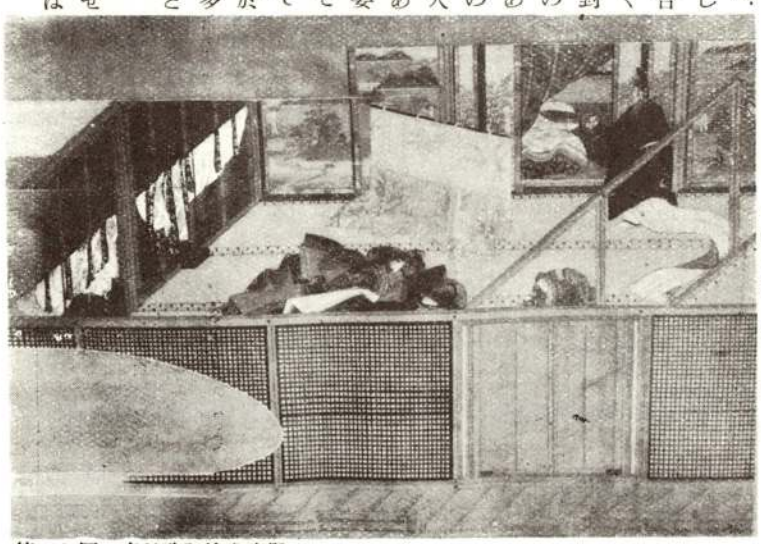
宅、其の他獨、佛、英、西、和、白、露の十七八世期住宅、支那の住宅は何れも特異のものとして、人類中頭腦のより優れたる人種の理智と情の發現したるものとして、注意すべきものであつて、日本上代住宅も亦天孫人種が其の内容を發現したる優れたるものとして、人類の誇りと爲すべきものである。此の上代住宅の他に更に時代の推移と環境の變化によりて次に完成されたものは室町末より桃山を經て江戸の初期に生産したる別體即近世住宅がある。此れ亦同樣理智に於て情に於て優れたるものを有して居ることは同樣である。前者は上代貴族により後者は中世武士により作られたのである。

現代の吾人はまたこゝに、高雅なる情と精透なる理智を以て新住宅を作らざるべからず。然しながら其の完成は恐くは早くも數十年後又は百幾年後にもあるであろう。

現代の日本は登りつゝある、而も忙しき過渡期の大なるものであり、それだけ吾人の任の偉大を感ぜしむる。

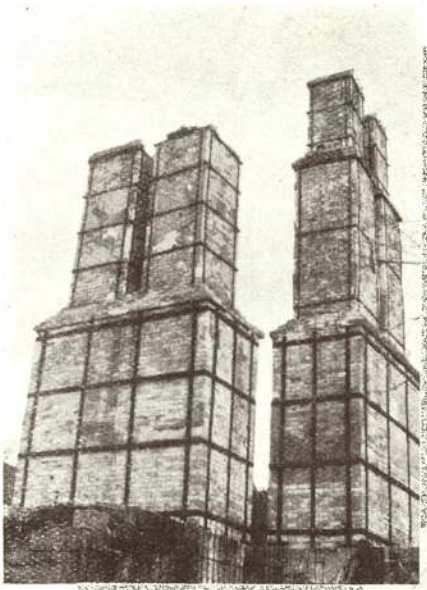
新住宅の要求としては氣候、衛生、經濟、能率、便利、修養、幸感……そして、更に國民性に合致すべきもので無くてはならぬ此等に對する種々の具體的の條件、又は議論もあるであろうが、此の稍混雜狀態にある大過渡期に於ては、ある大要點を知る必要がある。物質的とては立式本位であつて事情の免す範圍に於て住宅の一室でも多く椅子式にすることである。

次に國民性の有せるもの即情としては各住宅に家庭神壇（天孫神）を置くことである。各種の神徒、佛教徒、基督教徒、回教徒も儒者も何れも夫々の祭壇と共に天孫神壇を設置することを要する、前者は現代日本住宅改善の理習の中心であり後者は其の情的構成の基底となるべきものである。家庭神壇設置、椅子式室の增加は大なる過渡的日本住宅改善の中心と考へねばならぬ。（終り）



第十九圖　春日權現驗記繪卷寢殿

豆相大震災



韮山反射爐（前方の煙道二本崩壊）



中郷村大場の慘狀



古奈溫泉場家屋倒壞

豆相地方大震災視察報告

日本建築協會第四部委員會委員　川口一二
同　落藤藤吉
同　三浦尙史

はしがき

昭和五年十一月廿六日午前四時二分四十秒八、突然に襲つて來た地震に大阪人も暖かき夢を破られて何處かに大地震があつた事を豫想して居たのであつたが翌廿七日數回の號外發行によつて、豆相地方未曾有の大激震あり、被害甚大然も震源は伊豆半島を箱根山の北方より天城山迄縱斷する大斷層線なりとの事等を知り得たのである續々として至る報道は曰く丹那トンネル大崩壞、曰く丹那盆地の大地辷り、曰く古奈、長岡溫泉潰滅等々益々被害甚大なる事をもたらすのであるが、今回は田舍の事ではあるし、木造建築のみで、建築物の被害狀況も、關東、奥丹後で充分に見せつけられて居るから、本協會第四部災害委員會で調査する程の事もあるまいと、簡單に片付けて置いた所が廿八日午前中光安委員長から、我々三名に調査に行けとの事、全く周章狼狽の形で準備に取かゝり、早速參謀本部の伊豆地方の地圖を全部揃え、新聞の切抜によつてスケジュールを作る事になつた、到底その夜の汽車で出發する準備は出來ないので翌二十九日の夜行で發つ事にし、同日は終日その準備に忙殺された事であつて、大體の豫備的智識をつめ込んで愈々出發する事になつたのである。

一、行　程

各々山登り、遠道を豫想して、ズックのカバン一ケ、ゲートル着用と云ふ輕裝、廿九日午後十一時四十分大阪驛發、二時頃迄明日いや今日の旅程に付て再協議やら再調査やらで寢もやらず、暫しまどろむ內に靜岡ですつかり夜が明けた富士驛を過ぎる頃左側車窓から見上げると名峰富士は一點の雲をも纏はず、あの雄大な姿の頭に白い冠をつけて横はつて居る、四日前の地震等は全く忘れた如くに……十一月卅日午前七時十二分沼津着驛前には救援作業に行く青年團や學生が大勢居る、沼津では棚の物が落ちる程度の地震を感じたのみとの事、直ちに乘合自動車で三島に向ふ、途中黃瀨川に架せる木橋の床が落ちて應急工事として鐵道の枕木が列べてある上を走つた時は、今度の地震以上の上下動を感じた事であつた、三島町の入口附近で早大の內藤多仲博士、上浪朗氏が學生を數名連られて調査に來られたのに御會した、聞けば今曉午前二時に着かれたとの事、三島町附近を調査中何度も別れては會ひ、會つては別れたのであつた、三島町では全半壞家屋一六〇〇戶と稱するのであるが、全壞は七〇戶位しか見當らなかつた、併しメイン・ストリートに面せる商家が皆間口が廣いため甚しく傾斜して居るのが目に付いた、三島神社に參拜する、御門前の燈籠は倒壞、掛茶屋が一棟つぶれて居るのみであつた、常林寺の本堂は東西に長く觀音堂は之に直角に南北に長い建物であつたが、兩建物の傾斜の樣子及びこの寺の樓門の柱脚の移動狀態で今度の地震の震動方向が凡そ南北であつた事が明瞭に示された、三島第二小學校も大分に荒されてあつた、この地方の塀は石塀が多く而もそのモルタルが粗惡なため、殆ど崩壞して居るのが澤山目に付いた、この町に鐵筋コンクリート造の銀行があつたが被害は殆どない樣であつた。正午近くまで此處を視察して愈々激震地たる中鄕村方面に向つた、途中實務

學校の煉瓦造の太い門柱が根こそぎ轉倒して居るのを見た。

中郷村字大場に入ると既に青年團消防手等によつて盛に取片付の最中、熱海方面と修善寺方面への分岐點には巡査がなれない手付で交通整理をして居るのも哀れにも亦健氣であつた。

此處は三島より餘程ひどいらしく、殆どすべての家が使用に堪えない位に壞れて居た、間宮では運悪く失火して六戸燒失して居たが燒跡を見ると東京の大震災を思ひ出す、今度は時間が早かつたため幸ひに火事は僅かであつたので、震災地に來ても、家屋は倒れてそのまゝ殘つて居るのが多く、東京の時とは大分に感じが異つたのである。

この中郷村では全壞家屋が四百戸以上あり、死者十二名を出して居る、こゝでは若い母親が壓死したが生殘つた頑是ない幼兒はどうしても母と離れず、遂には冷い母親の乳をいぢりながらすや〳〵と寢入つてしまつたのには檢視の警官等も涙をしぼつた等と云ふ慘めなエピソートも殘つて居た又驛豆鐵道大場驛は南方に約壹の傾斜をなして居り、壁の少ない建物の危險を偲ばせた、更に鐵道に沿ふて原木を徑て東にそれ、最激震地韮山に向ふ、途中縣立田方農學校の本校舍平屋建が全壞せるを見るキングポスト小屋組のみが落ちてもそのまゝ原型を留めて居た、天井は水平力を受くる剛節架構と同じ樣な曲線をなし、床は波を打つて居た、すぐ側にある二階建の寄宿舍はガラスが一枚破壞したのみで安全であつた。更に東進すると木造二階建の韮山龍城小學校に着く正面ホールの部分が前方に突出大破して居る、併し之は曲りなりにも殘つて居る棟であるが、他の二棟は地震と同時に全潰したらしい大破殘存せる棟の廊下は丁度大汽船のデツキの樣に彎曲し、殊に二階の方が甚しいのも稀な例であつた、これは柱と梁のコンネクションが極めて粗惡でホールの二階床が大破した關係と思はれた。

この附近所々に地割がある、せまい道路の上の龜裂のため、車の進行甚だ困難であり、部落の民家は全くペチヤンコになつて居る。石垣の崩壞が多く、家屋の被害の比較的少ない和田島を經て有名な反射爐に至る。之は煙突四本の內二本の先端が折れて落ちて居た、明治初年の大偉業家江川太郎左衛門氏の業績も大自然の暴威には敵せないらしい。引返して南條を經て下田街道に出る途中、桑原小學校分教場が丁度積木細工がハンマーで敲きつぶされた樣に潰滅して居るのを見た。

更に下田街道を横ぎつて古奈溫泉に行く、入口の標柱及び送電線の鐵塔は完全に殘つて居たが、溫泉旅館はすべて全壞で見渡す限り粉微塵であり、役場も學校も同樣にやられて居た。

更に南下して長岡溫泉に至る、こゝは被害更に大きく、全戸數二百五十、全壞が約三割との話、こゝに新築の三階建、さかふ屋は安全に殘つて居り、柳屋、甲州屋の比較的入念に施工してあるものは半壞で殘り、余の九軒の旅館は全潰であつた。この土地は山間にある關係上、傾斜面に建築してあり石垣が崩壞して居るのを各所で見た。

川西村役場も全壞、天幕の中で事務を取つて居た、川西小學校は木造平屋建であつたが、傾斜したまゝ殘つて居た。

再び下田街道に出でゝ、守木、田京、田中等の部落を通つたが、この邊の被害は瓦が落ちた位の程度であつた、公園池の堤防崩潰の爲に水害に會つた修善寺は、水害のための倒壞家屋が二〇戸位あつたのみで地震の被害は比較的少ない樣であつた。村社、日枝神社の石鳥居が倒れて一方の柱が折れて居た、獨鈷の湯は溫度が急に上つて今迄の設備では入浴出來ない樣であつた。こゝから南方大見、狩野方面に行きたかつたのであるが時間の都合上惜くも殘して、引返す事にした。下田街道を北上し再び韮山を經て、村道に入り奈古谷に入る、藁屋根が菅笠の樣になつて地を這つて居るのがあつた、畑毛溫泉も全滅、守屋旅館、鈴木旅館等は見る影もない、この附近は山崩れ、道路の龜裂等多し、夕刻降雨中を三島に歸り旅館を探したが皆休業、止むを得ず沼津に引返して漸く投宿した。

十二月一日

氣遣はれた夜來の豪雨は止んでしまつたが、雨のため、山崩れが更に甚だしく、道路は滑り、丹那

を經て熱海へ山越えするのは危險だと云ふので嫌がる運轉手を漸くにして賴み、途中、中央氣象台三島支台を訪問、この建物は本年四月竣工の鐵筋コンクリート二階造で安全であつた、種々參考資料を得て大場を經て熱海街道に入る、大場の東方四粁の函南村平井は文字通りの全滅で藁屋根が全部地に落ちて居た、一農家の落ちた藁屋根の中腹に圓い穴が開て居た、家人に聞くとその穴から這ひ出したのださうである。少さな部落で死者十二名と云ふのであるから激震が想像されやう。村社天地神社の本殿は倒壞、木造鳥居は破壞、高さ八尺の石の標柱は基礎毎根こそぎになつて倒れて居た。更に上つて函南村蟇澤に至れば被害更に甚しく十數戶位の藁屋根の小部落全滅し、而も大場附近の如くに救護隊は來らず、震災そのまゝの狀態であつた、この附近の道路に崩壞多く、泥濘のため自動車の車輪は滑り何度かヒヤ〳〵させられつゝ昇る內に我々の自動車は遂に泥濘の內に車輪を沒してしまつた、助手と力を合せて自働車の後押をして漸く通過、丹那盆地の入口で自働車を棄て約四粁程を下る、道路の龜裂、崖崩れ等多く、泥で滑る道を踏しめつゝ進む、左側の谷間に『丹那大斷層地域』の立札を見る、これこそ、今回の激震の原因をなしたる斷層にして延々として畑を越え、崖を越え、至る所暴威を逞しうして居る斷層である、丹那尊常高等小學校は多小の傾斜と、瓦の離落位のもので思つたより被害少なく、この部落も一般に被害が僅少で死者二名との事である、小學校の校長の談によれば、前日夕方にも大きな地震があつたが上下動のみで、電燈線は少しも動搖しなかつたとの事、こんな關係も、被害が少ない事の一原因かとも思はれた、前に見た大斷層は小學校から北方約百米の點を通つて居るが、この斷層上に一小稻荷神社があつたが之は非常に輕い建物であつたゝめに多少の移動のみであつた、更に奥に進むと斷層の西に接して農家、東に接してその納屋があり、之が平行して建てゝあつたものが、斷層のため、主屋は南へ納屋は北にずれて共にその方向に別々に倒れて居る面白い例があつた、又之と同じ樣な例が下狩野村佐野にあり、それは二階建家屋の下を斷層が通つたため、半分は隆起し、半分は陷沒して中間で家屋の喰違を生じたとの事であつたが時間なく到底行く事が出來なかつた。

盆地を一周して畑部落に着く、此處は比較的被害多く、二階屋の倒壞、青年會館の全壞等があつた再び熱海街道に上り、惡道路を自動車の後押をして進む事數回、熱海峠の頂上近くで故障を生じ、遂に動かず、苦心慘憺の應急修理も効を奏せず、人影皆無の雨後泥濘の山上に取殘されては如何んせんと氣をもむ事一方ならず、約一時間の後修理されて動き出した時の嬉しさ、暮近く熱海町に着く、大きな町で約三十戶位の半倒壞と全壞があつた、この土地は海に面した傾斜面にあるため崖崩れが多い樣であつた。熱海一泊。

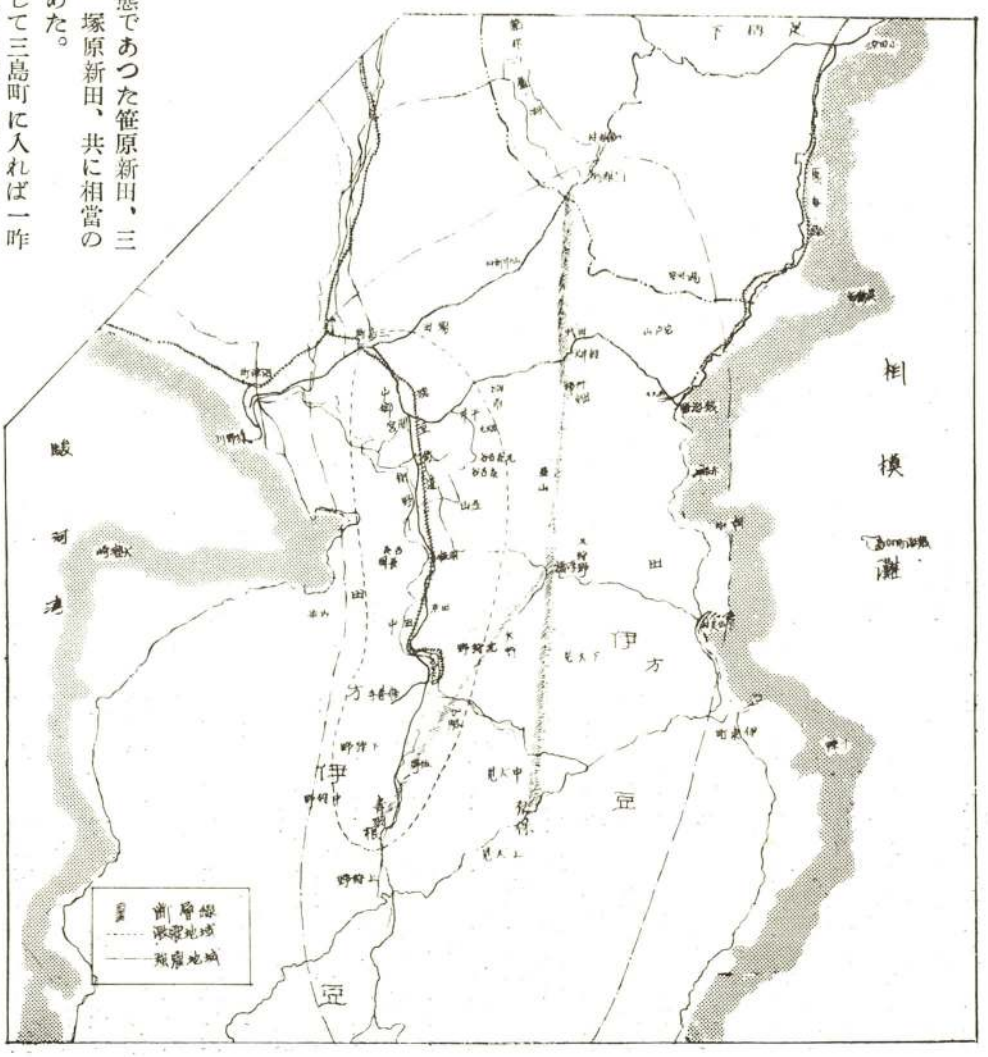
十二月二日

落藤君は早朝から神奈川縣廳、及び靜岡縣廳を訪問して種々參考資料を得べく出發、川口君と三浦は更に熱海町の被害調査として熱海小學校に向ふ、停車場附近の丘陵上にある校舍は瓦が落離する程度であつたが、崖崩れのため便所が半壞した、又後方の土留壁が崩壞して教員住宅四戶を押壓し、即死二名、重傷二名を出した、被害の跡を見るとその擁壁の構造が全く不合理であり、且土は盛土で軟かであつたらしい。尚驛前の休憩所は間口五間で中に柱一本と云ふ構造に加ふるに後の崖崩れのために半壞となつて居た黃金色の蜜柑畑を左側に見つゝ汽車で小田原に向ふ、箱根を調査せん爲である、小田原附近は震害殆どなく、湯本、塔ノ澤の溫泉旅館も、大正十二年の震災後屋根をトタン葺としたためか被害は少ない樣であつた。只湯本町下宿で貯水池に龜裂あり、廿戶程泥水に押流され、湯本町畑宿にて守源寺住職夫妻、來客二名壓死との事であつた。小湧谷地方も棚の物が落ちる位の地震との事であつた、此處から再び自動車で箱根街道を登る、前日の降雨で道路更に惡るく、幾度か下車して後押をさせられる、宮の下附近で土台が腐朽して移動した建物が一戶あつた。沿道の曾我兄弟の墓は上部が落ちたまゝ淋しく立つて居た、この邊東側の二子山、西側

の駒ヶ岳の上の方から三間四方もある大岩石が轉落し道路上にあるもの、更に池中に落ちるもの等、全く激震を想像させられる、元箱根村に入ると此處は三島より少し輕い程度の被害である、處が僅か一粁距たつた箱根町は非常なる被害を受けて居る事は注目に價する元箱根村と箱根町の途中にある箱根離宮の日本御殿は倒壊し、官舍は芦の湖中に辷り込んだ樣子である、道路から窺ふと築山の中腹が一直線に崩れて居る、芦の湖畔の箱根町は一體に湖水側に陷沒して居る樣子で、殆どすべての住家が滅茶苦茶な方向に倒壊して居る。又箱根ホテルは大正十二年の震災で殘存した鐵筋コンクリート壁の上に第二階を木造としたものであるが、鐵筋コンクリートの部分は其儘殘り、木造部の腰が折れて約一米西側に移動してコンクリート壁に乘つて居た、崩れかゝつた階段を這ふ樣にして二階に登ると、廊下は約二十度傾斜をなし、所々床板を割り、又は凸起せるものもあり、慘狀目も當られぬ狀態である。郵便局も全壞して居た。

更に箱根街道を三島に向ふ、途中山中新田附近の山腹に丹那より續く大斷層が現れて居るのを見る更にこの附近の山腹に別の大斷層と山崩れあり部落の人家は殆ど倒壞、小學校も半壞の狀態であつた笹原新田、三ツ谷新田、塚原新田、共に相當の被害を認めた。

第一圖　震災地方略圖



漸くにして三島町に入れば一昨日よりも更に整頓されバラックも立並ぶを見て、復興力の盛なるを喜ぶ、斯くして沼津より靜岡に至り、落藤君と落合ひ共に歸阪の豫定の所、同君が横濱の時間の都合惡しく、止むを得ず靜岡に殘して二人の歸阪せしは十二月三日午前

七時十八分であつた、落藤君は三日午前中靜岡縣廳に至り調査の後同夜歸阪したのであつた。

二、被害概要

此處には靜岡縣下に就て主として述べ神奈川縣下は箱根附近のみなる故詳說の部に述ぶ。

一、震動日時及震度

一、十一月二十六日午前四時二分四十秒八發震

一、最大震幅　六八糎五、周期二十八秒

一、震源地　沼津南東十五粁

一、震動時間　約五分

一、震災區域

沼津市

駿東郡　靜浦村、淸水村、長泉村　大岡村、金岡村、鷹根村　大平村、泉村、深良村

田方郡　郡下全般（三島を始め狩野川沿岸各町村最も激甚にして東西海岸方面の各町村は部分的なり）

賀茂郡　城東村（其の他被害多少あり）

一、被害の狀況

死者　二六〇名

負傷者　五六四名

全壞家屋　二七七一戸

半壞家屋　六四六一戸

燒失家屋　九〇戸

重なる公共建築物の被害狀況

教育機關

全壞

中等學校

縣立田方農學校、三島商業、三島實務學校（以上三校）

小學校

丹那、桑村、韮山、中大見、北狩野第一、三島第一、三島第二、德倉、坂、中野、大場　江間、寢弘、函南、中狩野（以上十五校）

半壞

中等學校、四校

小學校

大平、宇佐美、北狩野、南錦田、修善寺（其他十一校）

以上三十七校の損害額約百萬圓との事である。

郵便局（全壞或は半壞）

三島郵便局、三島大中島郵便局　中郷村大塲郵便局、韮山郵便局　青羽根郵便局、修善寺郵便局、古奈郵便局

警察署又は駐在所

三島警察署、韮山、江間、北狩野村大野、上大見、中大見村八幡、各巡査派出所中郷村部長派出所

役塲

江間村役塲　川西村役塲

三島町役塲　中郷村役塲

韮山村役塲

工塲

全壞

山十製紙（沼津）

片倉蠶絲倉庫（大岡村）

三島製紙工塲一棟（三島町）

森永煉乳倉庫（錦田村）

石井製絲（田中村）

半壞

林組製糸（沼津市）

沼津毛織（沼津市）

特種製糸（長泉村）

日本金錢登錄器會社（田中村）

以上各工塲の損害概算約四十六萬餘圓との事である。

被害狀況內譯

區分	町村名	死者	傷者	全倒壞 半倒壞	世帶數	備考
賀茂郡	城東村	五				
田部	三島町	七	重四住五三住一、四三輕二八非住五九非住二七三		三五九	役塲全壞、警察署半壞、三島下田間道路龜裂橋梁墜落
田部	北上村	二	四〇	一三	二四八	
田部	錦田村	七	六	六九 一四三	一六七	山崩の爲め一家七名埋沒
田部	中郷村	一二	六六	二五六 一四九	一八八 二四〇	三八〇燒失六戸
田部	函南村	四〇	九五	二七八 一四三	七三三 一三〇	燒失十戸
田部	韮山村	七六	四五 四二 一〇七	四四〇 四三	七三	燒失二戸にて三棟、韮山、田方間道路龜裂相當あり
田部	江間村	三	二 六	三〇 一〇	五三	
西海岸	川西村	二六	二四	四七	三六六	古奈、長岡溫泉湧出量に大なる異狀なきも家屋倒壞甚しきため全部休業
西海岸	內浦村				六六	燒失九戸
西海岸	西浦村			七	六	四
東熱海町		三	三	七	六 三	熱海、輕井澤間縣道交通杜絕、小同原、伊東、沼津間交通杜絕

方						
海岸	網代村		三	一	五	熱見町に於ては急施町會を開き調査委員復査委員を設け實行に着手
	多賀村	一		二	五〇	四〇
中村	下狩野村	二	二	二七	一三七	一八
	中狩野村	一五	四	七三	一六六	一四 死一 鍛冶山約四十五町歩山崩馬
	上狩野村	四			一五	五 二十七日午前中修善寺より下田に至る道路開通せり
部	上大見村	一	六	四五	二九	三三
	中大見村	七	三	三三	一八二	三六三 戸埋沒、焼失一
	下大見村	三	三	二七	一一〇	二九
	北狩野村	三三	七〇	二〇九	二九一	四九八
西海岸	戸田村			一		公園池堤防、欠潰、池水氾濫、流出家屋數戸、溫泉大量湧出

郡						
中部	修善寺町	三	二九	三	一二五	公園池堤防、欠潰、池水氾濫、流出家屋數戸、溫泉大量湧出
	田中村	八	二一	二三	五〇五	三六 死一 東京電燈田京變電所倒壊馬
東海岸	伊東町	一	一三			焼失六十戸、半焼十二戸、潰害二十三萬圓
	對島村					
	小室村	一	一			
	宇佐美村	一				

駿						
	沼津市	一	六	六	二九	三六 山十製糸工場八棟倒潰の爲使用職工五二〇名一時歸宅
	靜岡村	一	三	八	一三	五八
	清水村	六	一四	一三	二四	五〇
	泉村	三			二〇	二八
	長泉村	二				三
	大平村	一	一		四五	三九 亡 病人一名幼兒を抱き出し死

東郡						
	大岡村				二〇	三四
	金岡村	三			一五	二三
	深良村	二	五	五	三三	
	鷹根村	一	六	五		
	富岡村	一			一八	二〇
	浮島村	一				
	原町	三			一	
	片濱村				三	
	小泉村	一			五	
計	市一町五村三	二二〇	五四	二七二	六四六一	五九五三

清水市及附近

一、清水港築港八千噸縣營繫船岸壁長さ約二百米崩壊

二、鐵道省專用岸壁全部に亘り龜裂

三、鐵道省專用岸壁接續の荷場岸壁長さ百五十米中約百米を除く外全部崩壊

四、三保本村漁港岸壁約百米崩壊

五、巴川河口物揚場岸壁約百五十米龜裂約六糎沈下

六、其の他縣營上屋倉庫内に多くの龜裂あり

七、庵原郡興津小學校講堂梁一本折損（清水築港被害見積約百萬圓）

以上の如く大震害を受けたるに對する損害高は大體次の如き數字に達した由である。（單位千圓）

家屋	八一三九
家財	一三一〇
商品	二九五
工場	四六〇
公共營業物	三八一〇
耕地	一〇〇〇
鐵道	六三〇
水產、山林、農產物	二六五七
其他	一〇〇〇
合計	一九三〇一

即ち約千九百三十萬圓の被害があつた事になる。

之に對する復興費として町村より支出に決定のもの約二百八十萬圓、其他、各種産業組合、財團法人等にて要する復興費約四百六十萬圓、合計約七百萬圓との事である。

町村費負擔復舊費概要（靜岡縣發表）　（單位千圓）

町村名	土木費	建築費	其他	合計
三島	四〇	五〇〇	二〇	六六〇
北上	二〇	三	四四	六七
錦田	五〇	六五	三〇	一四五
中郷	六	二一・八	二〇	四七・八
函南	一〇〇	八〇	四〇	二二〇
江間	三〇	二五	一五	七〇
韮山	二〇〇	二〇〇	一〇〇	五〇〇
川西	二〇〇	一五〇	一〇〇	四五〇
内浦	三〇	一〇	一〇	五〇
西浦	二〇	一〇	一〇	四〇
田中	一六	五	三	一四
北狩野	九	四八・四		五七・四
下狩野	七	一一	一	一八
中狩野	四	二八	一	三二
上狩野	五	二二		二七
大見	七	二三		三四
中大見	四	三〇		三四
下大見	二	一四		一六
修善寺	一一	三二		四三
大仁學校組合	六・	四		一〇
綱代	一・五	一・七		三・二
多賀	三・三	・六		三・九
熱海	二五	六二・五		八七・五
伊東	八九・五	二六		一一五・五
小室	三	二・三五		五・三五
對島	三・一	三・四		三・四
宇佐美	・二	五		五・二
計	九二・三	一、三六・〇五	四九二	二、七四・三五

建築費が最高額なのは勿論の事である。

他に産業組合、畜産組合、養蠶組合の各種團體、並に財團法人等より支出する復興費約四百六十萬圓で合計約七百萬圓となるのである。

被害を受けたる各町村は、在鄉軍人、青年團等の活躍により、後片付を急ぎ、急造バラックを建築して居つた、靜岡縣當局では二ケ年を標準とした集團バラックを急造して要救護者を收容する事に決定したとの事であつた。

三、被害詳說

三島町附近

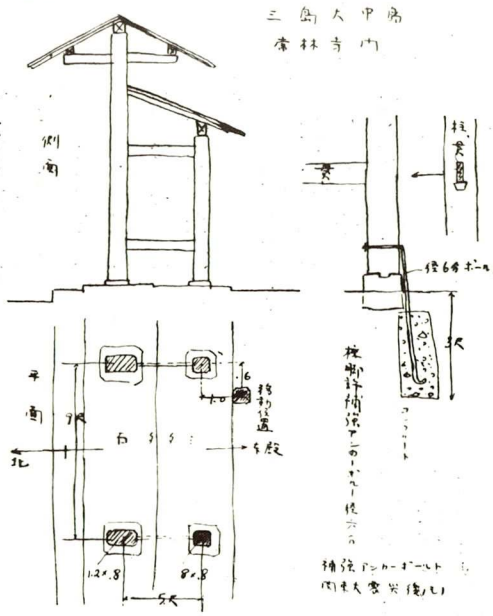
一、向富山常林寺（大中島所在）

樓門——屋根銅板葺、北面　張間九尺、控柱間四、五尺　本柱、斷面一、二尺・〇、八尺

本樓門は關東震災後柱脚をボールトにて補強せるものである。

被害狀況は南北の震動のため補強ボールトを曲げて柱脚は兩方共南方一尺、西方六寸の移動をなす補強ボールトの完全で

第二圖A



第二圖B　常林寺樓門の柱脚移動

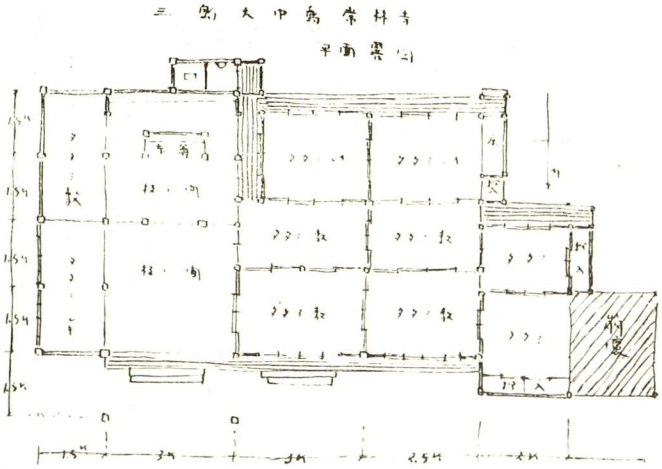


あつたに拘はらずこの移動は震力の甚大を偲ばせるものである。

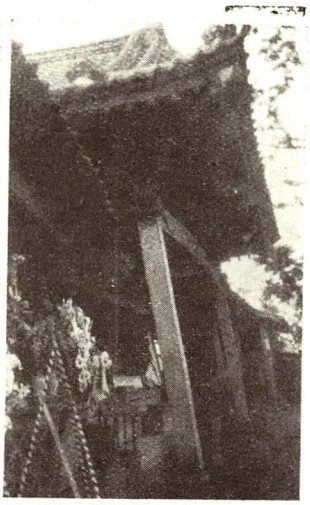
本堂――北面、瓦葺向拜付四注造、平面第三圖の如し。

之は安政以後大名屋敷の千疊敷の半分を當寺に移管し、現住持に至り、內部の改造を行つたものである。

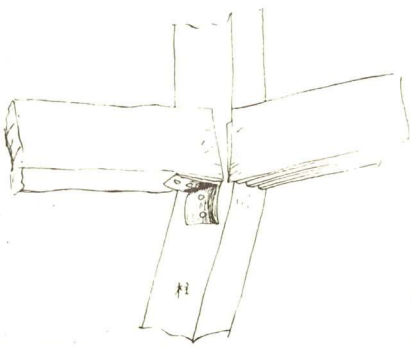
本堂全體として南方に傾斜、向拜柱は第四圖の如く南に倒れ、虹梁と本屋柱の接合はアングル型の帶鐵で辛じて支へらるゝ如何に補強金物の効果の偉大なるかを痛感せしむ。（第五圖參照）



第三圖　常林寺本堂平面略圖


第四圖　常林寺本堂向拜

住職の居間の床壁は板張の上に壁紙を張つたものであるが壁紙は約四十五度の方向に破れて居る、關東震災後居間の鴨居にボールトを差込んであつた。金



第五圖　常林寺本堂・柱、梁接合部狀態

庫は約五寸北方に移動して居た庫裡は地震と同時に全壞との事であつた。之は東西に長い建物であつた爲に被害が甚しかつたのであらう。

觀音堂――本堂と直角に東面して建つ、瓦葺、四注屋根、後年繼足したる部分がある。

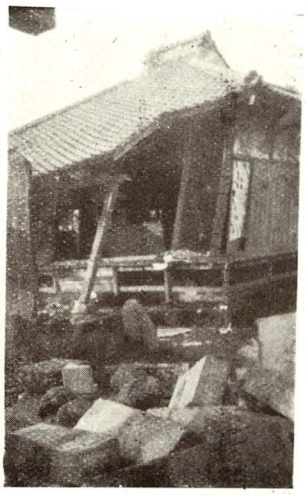
全體として北方に約十分の一傾斜（第六圖參照）

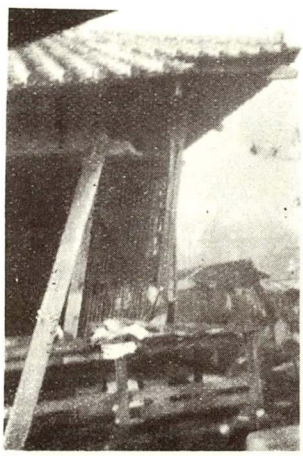
向拜柱は西北方に傾斜して居る（第七圖參照）

入口兩側の小壁には關東震災後入れた大貫の筋違が入つて居るが之は北側の下部の一本は折れ、南側のは釘がはずれて居る筋違が相當に抵抗力を發揮せるものと認められる。

石塀――高さ四尺六、五寸伊豆石積バツトレスなし震動方面に直角の部分即ち東西方向の塀は第九圖の如く崩れ落ちて居る使用モル


第六圖　常林寺觀音堂・東南側より展望


第七圖　常林寺觀音堂・東北側より展望


第八圖　常林寺觀音堂筋違部詳細



第九圖　常林寺石塀破損狀況

盤惡く、建物は古く、且床が高い構造であつた爲であらうが關東震災後の補强により潰滅を免がれたものと考へられる。

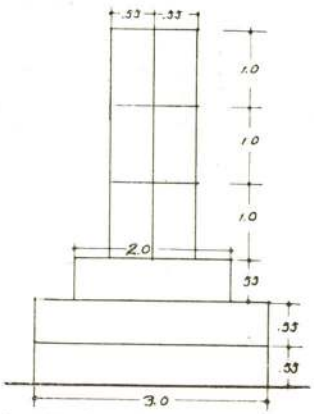
二、三島第二尋常高等小學校

木造瓦葺二階建、明治四十一年建築、關東震災の時は被害が少なかつたが筋違を入れて補强した。第十一圖で見る樣に中庭を挾み東西方向に五教室宛二棟、中央に渡廊下によつて講堂に聯なる、教室北側の一棟半壞使用に堪えず此棟は北の廊下の方に中央部が膨れて居た。（第十二圖參照）

壁面の關東震災後補强した五寸に三寸の筋違が全部はずれて居た、筋違の取付が五寸釘二本では緊結度が不足と思はれた。

上階は比較的被害少なく、廊下東端の壁面の筋違のみはずれて居た。

講堂　八間に十間の一階建の瓦葺であるが、教室との渡廊下倒壞のため東側壁が倒れて居る他、被害は比較的少ない。



第十圖　常林寺石塀斷面略圖

タルは相當よいが、附着面が少なく、扶壁のない事と芋目地である事が倒壞の原因と認められた。

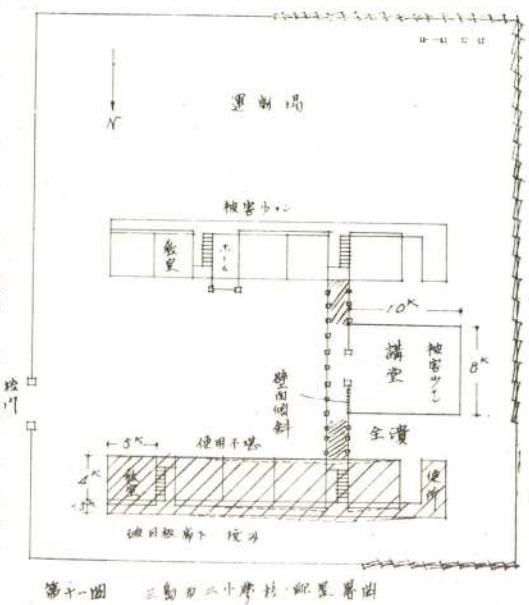
本寺院の被害甚大なりし事は地



第十二圖　三島第二小學校廊下の曲彎



第十三圖　三島第二小學校講堂壁の傾斜



第十四圖　三島第二小學校配置略圖

塀。運動場の周圍の塀は高さ三尺の石塀でバツトレスは十五尺間に一尺と五、五寸の石材を用ひてあるが、灰トロを使用してあるために、東西方向にあるものは勿論南北方面のもの迄倒壞、一部は道路に、一部は運動場側に轉落して居た、屋根瓦は波型を呈して剝離して居た、土居葺の危險さを思はせる。此校舍は一般に耐震的構造法が完全に行はれて居なかつた事建築年齡古く、且東西に長かつた

爲に比較的地盤がよいのに拘らず被害が大となつたのであらう。

學校建築の如き棟の長い建物では耐震構造上特に注意する必要を感ずる。又瓦は引掛桟瓦の如き屋根地に緊結されるものを使用する必要がある。

三、官幣大社三島神社

御本殿は被害なし、改築中の樓門も被害を認めず、南北方向にある社務所は鴨居の下にて傾斜、障子の破れを認めた。

社前の茶亭は柱が折れて屋根を殘して倒壊。（第十四圖參照）

燈籠は臺を殘して倒壊して居た

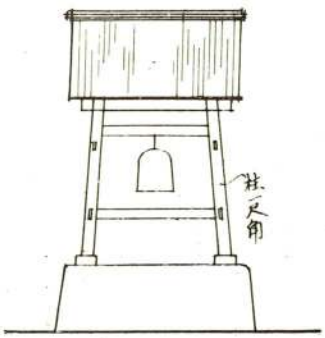


第十四圖　三島神社前の茶亭の倒壊

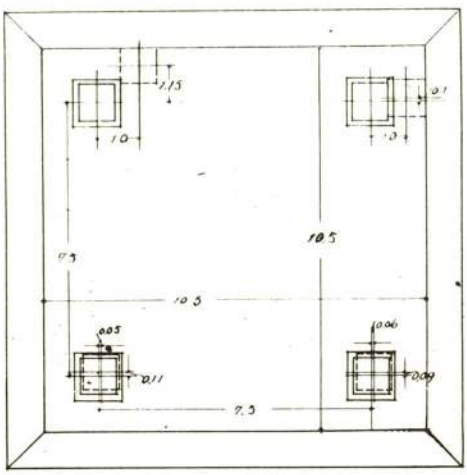
四、淨　巖　寺

本殿は屋根がトタン葺のため被害殆ざなし。

鐘樓　上部異常なく、柱脚滑動（第十五圖AB參照）



第十五圖A　淨巖寺鐘樓略圖



第十五圖B　淨巖寺鐘樓柱脚移動圖

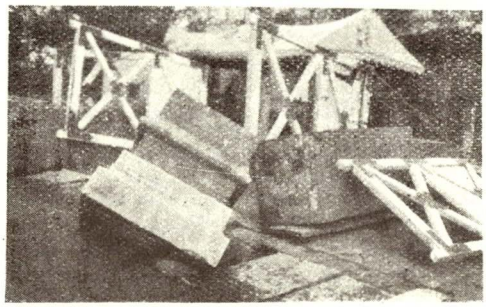
五、一般商、住家

南北道路に沿ふものは一般に傾斜し路次の兩端にある家の被害一般に多く、何れも南或は北に約十分の一傾斜して居る、東西方向の道路に面するものは倒壊或は半壊の家屋を各所に見る、且柱の材料は多く三寸角を用ひてあり、燧梁筋違の使用が普及されて居ないのが被害を大ならしめた一原因と思はれ、又商店建築で間口が廣く、柱間二間以上あり又間仕切壁の少ないものは殆ど傾斜或は倒壊して居る。

酒庫も棟高大に且張間が大きい關係で倒壊した例が多い。土藏造りは一般に腰積を石造にしてある爲、腰積倒壊、從つて壁剝離、傾斜して居た、又土臺なしか或は玉石上に直接に土臺を置ける爲柱脚の腐朽により被害を蒙つたのもあつた。



第十六圖　三島町某酒倉の倒壊



第十八圖　三島實務學校校門倒壞

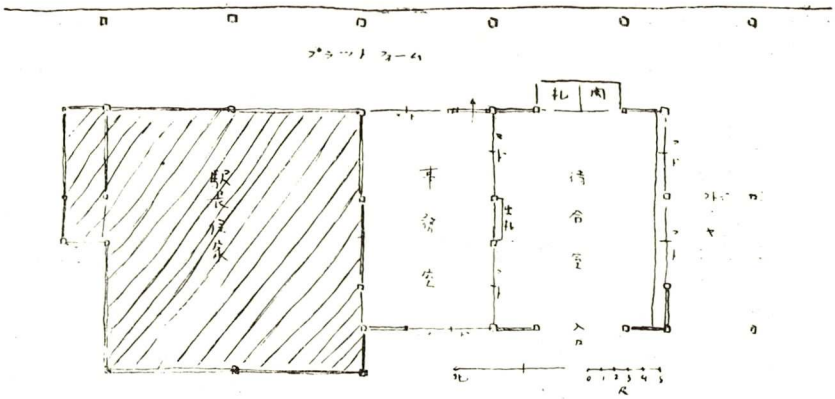


第十七圖　三島町商家の傾斜（もの）（南北道路に沿ふもの）

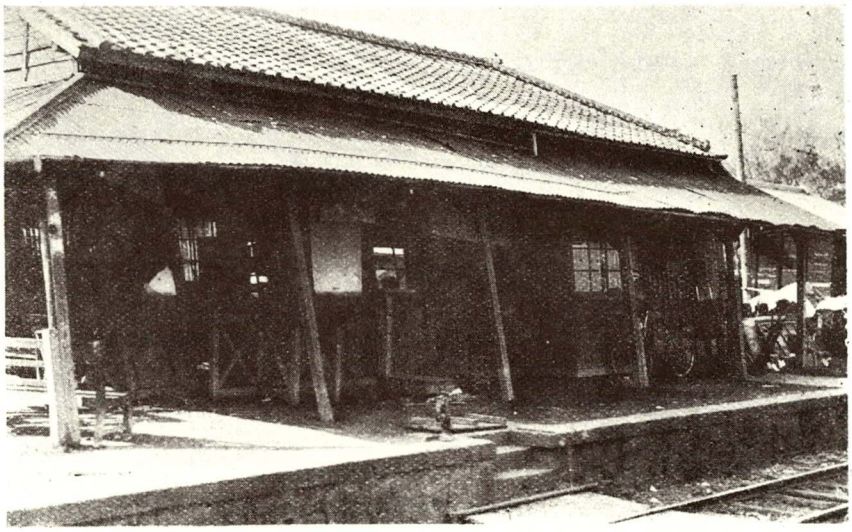
石造藏並に石垣は殆どすべて大龜裂を生じこの種構造の危險さを思はしめた。

三島町内に鐵筋コンクリート造の二階建銀行があつたが被害はなかつた。

尙三島町外の中央氣象臺三島支臺も本年四月の竣工で地震に際して地震計臺が傾斜し爲に地震計の用をなさざる程の激震であつたに拘らず壁に龜裂すら認めず毅然として立てるは鐵筋コンクリート構造の耐震的効果の大なる事を如實に物語るものである。三島實務學校、三島町外にある同校は本校舍も多少傾斜して被害はあつたが校門の門柱煉瓦造約二尺角が倒壞して居た。（第十八圖參照）



第十九圖



第二十圖　大場停車場の傾斜

中鄕村方面

一、大場附近

駿豆鐵道大場停車場　第十九圖に示す如く長さ五間奥行二間に庇一間の平面を有して居るが、第二十圖の如く北側に傾斜して居る、之は壁に筋違を有するも、腐朽のため抵抗力なく　南端の柱は腰にて打れて居る。平屋建瓦葺であるが屋根瓦には被害がない。尚酒倉は平家建瓦葺であつたが屋根を残して全壊して居た。（第二十一圖）之は古い建物で材料腐朽のためと思はれる。



第二十一圖　大場某酒倉の全壊

其米商にてアングルの方杖を使用して居たが、柱から離脱し、且柱は方杖の下端で折れて居た、之は比較的新しく構造も耐震上注意せられてあつたが隣家の倒壊のための被害である。

二、間宮附近

字間宮では地震と同時に火を失し十棟が全焼した、今回の地震は時間が早かつた爲比較的火災は少なかつたのである。この附近の商家で平屋建瓦葺で土臺腐朽のため甚しく傾斜した例があつた。（第二十二圖）



第二十二圖　間宮の商家の傾斜

韮山村方面

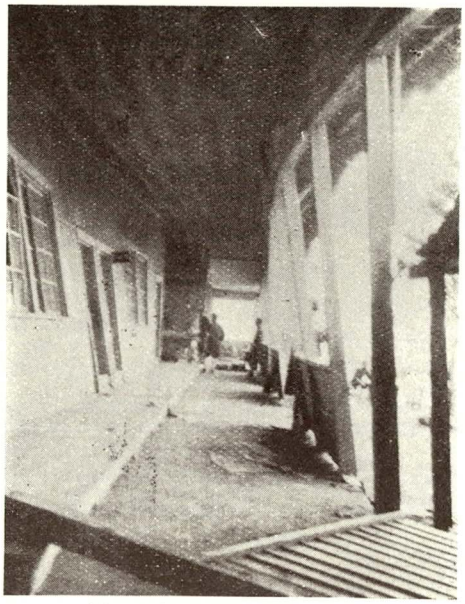
韮山村は今回最激震を受けた地方の事とて被害甚しく殆ど總ての家屋は粉微塵に倒壊して居た。この邊の震度は實に〇・五位に達したと云ふ説もある程で木造平屋建が約七十糎も移動して居るのがあつた。又田中村に通ずる道路には大龜裂が生じて居た。

一、韮山龍城小學校

韮山驛東北約三丁にあり、大正二年の建築で校舎は南面して東西方向に四棟あり、内北側の二棟は昨年増築の一教室を除いて全壊、南端の一棟は半壊ではあるが使用に堪えない程度である。第一階廊下中央部で南方に突出し、廊下の彎曲甚し。（第二十三圖參照）又この校舎は二階の方が被害多く、廊下は勿論彎曲し、床面は波形を呈し、黒板は落脱し、机、椅子は轉倒する等激震を想像させられる。之は校舎一般に筋違は申譯的に使用されて居るが締金物なくコンネクションが頗る粗悪である、而して二階中央のポーチの部分の根太がはずれ、床板は墜落し、際根太の束が脱落したゝめこの部分が突出したものと考へられる、之は二階床構造が悪いためで、梁、胴差の配置も悪く金物もない、若し充分な



第二十二圖　韮山村倒壊家屋



第二十三圖　韮山小學校一階廊下の彎曲

三、韮山中學校

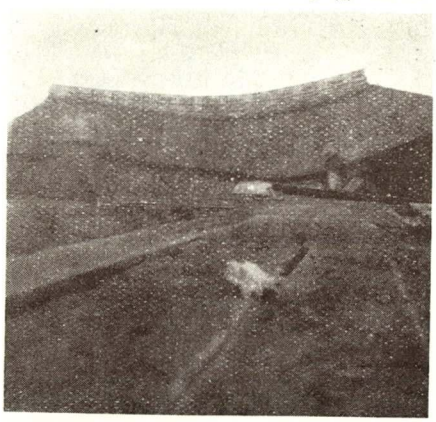
木造瓦葺二階建、構造法宜きを得た爲か被害殆ごなし

四、反射爐

安政元年江川太郎左衛門の建設で高さ五十二尺、巾十尺六尺四寸、縦十八尺五寸、使用煉瓦は天城山麓と韮山附近のものを用ひ、耐火煉瓦としたもので、近年の試験によつて現今の耐火煉瓦より有力なりとの事も判明した。煙突四本の内北側の二本の最上部が脫落して居た帶鐵で補強してあつた爲に比較的被害が少なかつたものと認めた。

五、奈古谷温泉

全壞、こゝにも二階建が二階のみを殘して倒壞した例があつた。第廿五圖は某農家の藁屋根の倒壞である。



第廿五圖　奈古谷農家

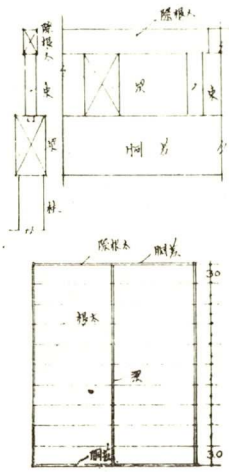
川西村方面

一、古奈温泉

本温泉は山麓に位置する部落であるが、山間部にある建物は半壞程度で原形を留めて居るものが多いが、平地部道路に沿える建築物は殆ど全壞して居る。之の原因としては瓦葺の家多く、又腰積及び石垣に伊豆石を使用して居るが、之の崩壞によるものも認められた。且一般に柱は三寸角を用ひて居たが之



第二十六圖　古奈温泉入口



第二十四圖　韮山小學校二階床構造略圖

二、韮山郵便局

木造二階建であつて半壞の狀態で多少の傾斜をして居た。耐震的手法が施してあれば之程の損害はなかつた事と思はれた。之は又裸柱のポーチの崩壞のため更に被害を大ならしめたものと考へられた。

も被害を増した一因であらう。

古奈溫泉入口第二十六圖は入口部の慘狀を示したものである。鐵骨造の警鐘樓は忽然として建つて居るが木造建築物は全壞である。

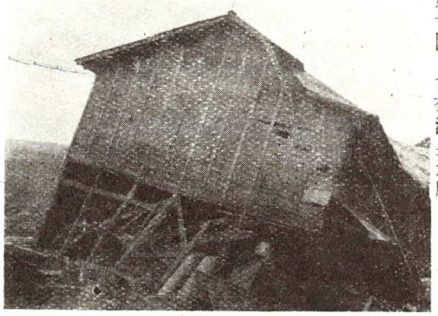
古奈郵便局腰積の崩壞によつて小屋組が前にのめり出して居る。(第廿七圖參照)

溫泉入口附近の洋式二階建屋根は鐵板葺、柱の接手部分にて切斷は二階が一階の如くなつて居る。(第廿八圖參照)

之は寫眞に向て右側は約二尺低く石積があり、基礎を支えて居たが、石積の崩壞の爲、斯の如き被害を受けたものである。



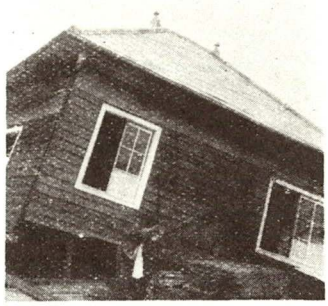
第廿七圖　古奈郵便局



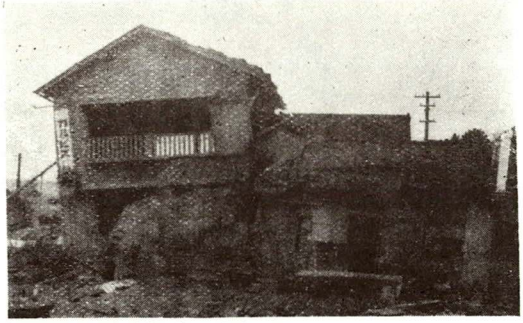
第廿圖　古奈溫泉倉庫

古奈溫泉某商家表側は道路に面し平屋建、裏側に二階建あり、裏側の石積崩壞したが間仕切壁が多くあつた爲柱は折れず其儘傾斜して居る。(第廿九圖參照)

古奈溫泉某倉庫石垣の崩壞のため傾斜半壞した例である。(第卅圖參照)



第廿八圖　古奈溫泉



第廿九圖　古奈溫泉、商家

彌勒山西琳寺山門瓦葺東面巾九尺、奥行七尺五寸、圖示の如く西南方に柱脚が移動して居る屋根は傾斜の儘原形を留めて居た。(第三十一圖參照)

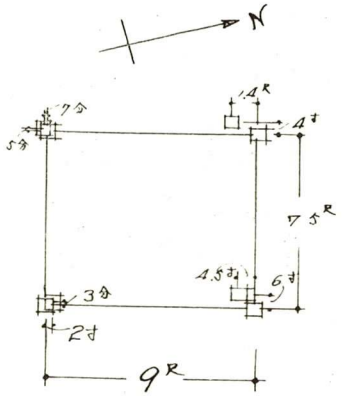
本堂は東面して南北に長い建物の關係上被害はなかつた。

二、長岡溫泉

戸數約二百五十戸中全壞は六十戸、他は半壞である。溫泉旅舘は殊に甚し、三階建の旅舘榮屋は新築であつた爲に被害は少なかつた、柳屋、甲州屋の二軒は半壞で其地は總て全壞である。こゝも柱斷面の小さい事と、平面を繼足したものが多く、平面的に無理があり、且傾斜地に建築してある爲に滅茶苦茶に破壞したものと考へられる。第三十三、第三十四兩圖は同溫泉場倒壞の慘狀である。



第廿二圖　西琳寺山門



第廿一圖　西琳寺山門柱脚移動

木骨石造商家

二階建にして屋根は瓦葺である が危く倒壊を免かる、之は木造軸部が非常に堅固であつて、通し柱が多き爲と思ふ、但し前面の間仕切壁なき部分の通し柱の枘入の部分から折れて傾斜せるもの多く、使用に堪えずと認められた（第三十五圖參照）尙二階の石壁には龜裂はなかつた。

尙ほ之れに接する石造の一棟では東側の石壁は全く崩壊して居た。



第卅三圖　長岡温泉場



第卅四圖　長岡温泉場

木造二階建商家

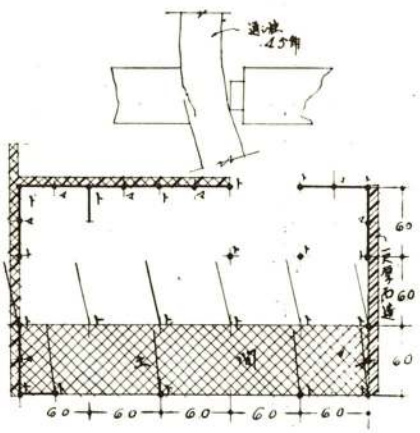
通し柱の枘部分にて折れ、二階部分が一階の如くなり而もその一階は安全である。（第三十六圖參照）

之は屋根が鐵板張りで比較的輕かつた事にも起因するものと考へられる。

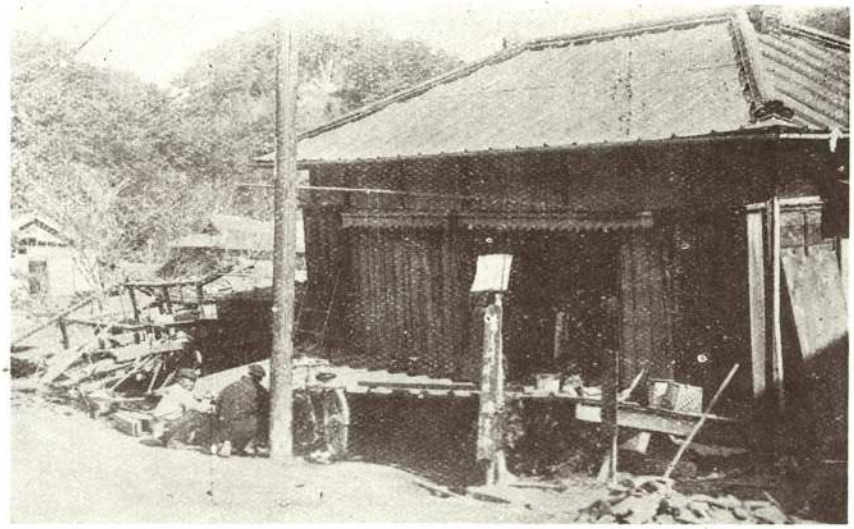
石造土藏

東側の石垣崩壊のため土藏の妻壁が全然剝離して居り、妻入口の六寸に二寸五分の柱で僅かに支へられて居た。

本温泉場の特徴として石材の使用非常に多く、而もそのモルタル粗惡のため被害を大ならしめたものが相當にあつた、之は火災を恐れての石材使用と思はれるが、緊着材料に注意を要すると考へられる。



第卅五圖　長岡温泉木骨石造商家平面圖



第六圖　倒壞家屋二階建（長岡溫泉）

修善寺方面

田中村附近

全壞六十五戸小學校は安全で屋根瓦が落ちた程度である。

修善寺溫泉

一驛の附近被害多し、貨物集散所に當り之を折つて居る本殿は被害少なし。

函南村方面

一、縣立田方農學校

函南村仁田にあり、二階建の寄宿舍、平屋建　五間に四間の五教室であるが、關東震災後補强筋違を入れたる間仕切壁によつて西端の二教室が倒壞を免かれて居る本校舍の屋根の構造は眞束小屋組で、鐵、金物を用ひ相當堅固になされてあつの講堂は比較的新しき建築のため倒壞を免かる　教員室は倒壞した教室と同時の建築なるも柱太く且補强多き關係上殘存す。

倒壞した教室は平

修善寺日枝神社

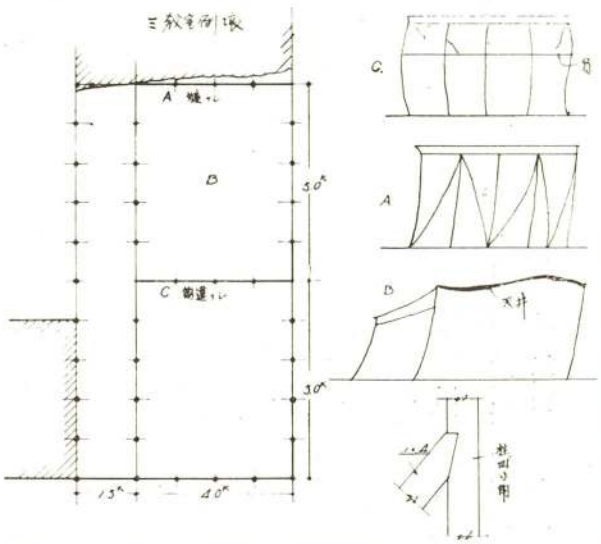
石造鳥居の貫落徑一尺の石柱



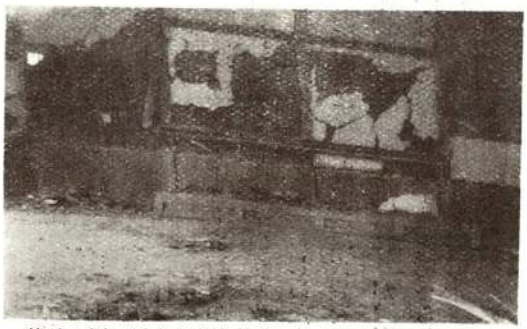
第廿仁圖　修善寺水害跡



第廿八圖　田方農學校教室倒壞



第四十圖　田方農學校殘存教室被害狀況



第廿九圖　田方農學校筋違なき間仕切壁の被害

たが、柱との結合に方杖がなかつたから軸部の傾斜と共に倒壊、小屋組は地に墜ちたまゝ原形を留めて居たのであらう(第卅八圖參照)

軸組も相當構造に意を用ひてある樣であつたが、腰積の伊豆石、巾八寸、成五、五寸のもの三段積が崩壞し、腰積と土臺との結合にボールトを使用せず、且火打梁かなかつた爲に全體の倒壞を來したものと考へられた、傾斜殘存せる教室の筋違のなき間仕切壁は壁土が滅茶苦茶に剝離して居た。(第卅九圖參照)

二、畑毛部落

畑毛本村は道路上の龜裂は多いが、土藏一棟壁崩壞位にて被害少なし。

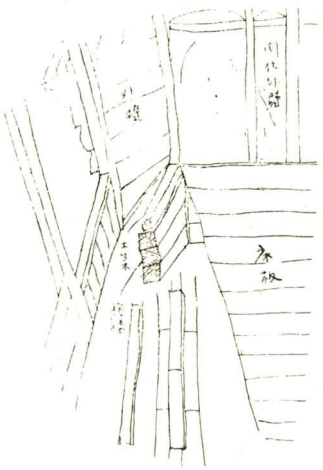
畑毛溫泉

畑毛本村よりの道路上巾約一米の大龜裂あり、小山崩れ各所に發見さる、溫泉旅館、榮屋、鈴木屋其他全壞。

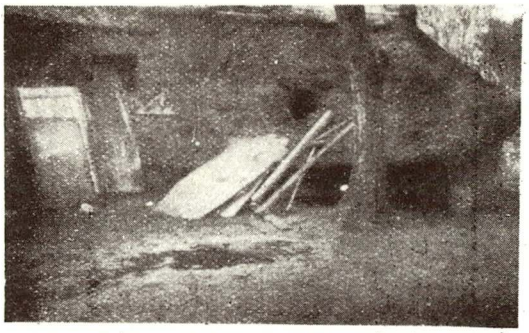
三、平井部落

全部落中僅かに三軒を殘して、他は全壞、死者十二名。

この部落は大部分藁葺屋根にて屋根は地に落ち屋根の中腹に圓き穴をあけ、こゝから這出したるもの多し、間柱に竹を使用せるもの多く、建築も非常に古い樣であつた。



第四十一圖　田方農學校殘存教室基礎部略圖



第四十二圖　平井部落藁屋根被害狀況

殘存家屋中瓦葺の平屋あり之は最近の建築にて、使川材料相當に大きく、土臺構造も堅固であつた、この家の門も完全であつた。

村社天地神社

鳥居(木造)倒壞(第四十五圖參照)

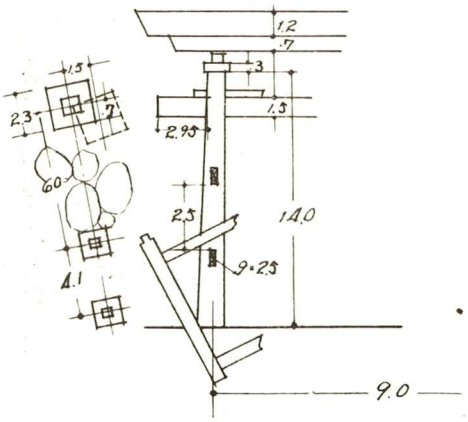
石標　高さ八、一尺　二尺角の石の基礎、根入僅かに五寸、之も根こそぎ倒壞して居た。(第四十六圖參照)

四、愛の澤部落

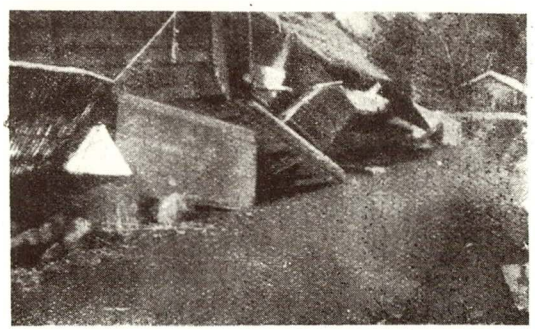
戶數僅かに十戶、全部倒壞藁屋根で構造法不完全なるも



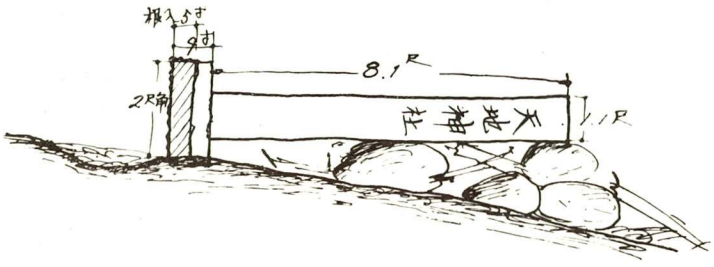
第四十三圖　平井部落被害



第四十五圖　天地神社鳥居略圖



第四十四圖　平井部落被害



第四十六圖　幽南村平井天地神社石燈籠倒壞

のが多い、この附近山崩れ、道路龜裂甚し。

丹那盆地方面

一、大斷層

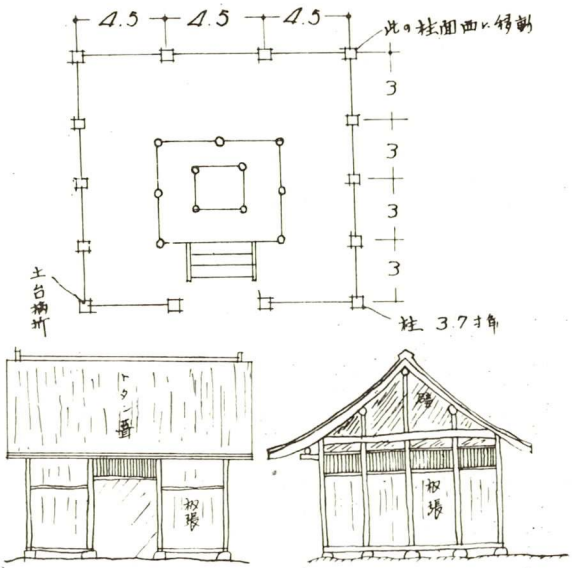
この盆地の凡中央を南北に走り震源をなせりと稱せらるゝ大斷層がある。南は玄岳の西方の谷を通り原保迄、北は芦の湖迄延長す、小學校から東方約百米の道路上の斷層は上下の喰違ひ約三十糎、南北の喰違ひ約百二〇糎であつた。

この斷層の縱走する所、その暴威をあらはし、山崩となり、或は樹木を裂き、或は人家を埋めて居るのである。

二、丹那尋常高等小學校

比較的被害は多く、柄折れがあり、半壞の程度である。

運動場周圍の石垣は崩壞して居た。震動は上下動のみしか感ぜず、その關係か部落中藁屋根三棟が倒壞したのみであつた、死者二名との事、學校は敷地陷落の爲め大きな被害があつたものと考へられる。



第四十二圖　丹那斷層上にある小祠の神社　畧圖

三、稻荷神社

斷層上に南面して小丘上にあり、二間四面、屋根トタン葺、流れ造り、四面板圍ひにて輕きため倒壞は免れたが、土臺の柄は折れ、社殿全體が土臺石から突飛ばされ西方に移動して居る。（第四十七圖）

四、某　農　家

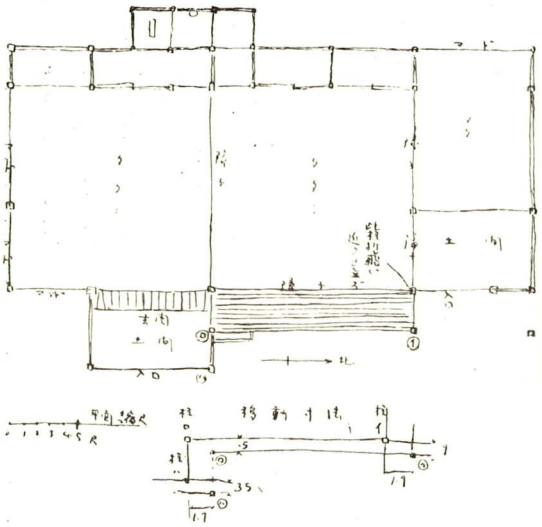
大斷層が主家と納家の中間を走つた爲に、東側の納家は北に倒壞し、西側の主家は南に倒壞した。（第四十八圖は納屋が既に起された所）



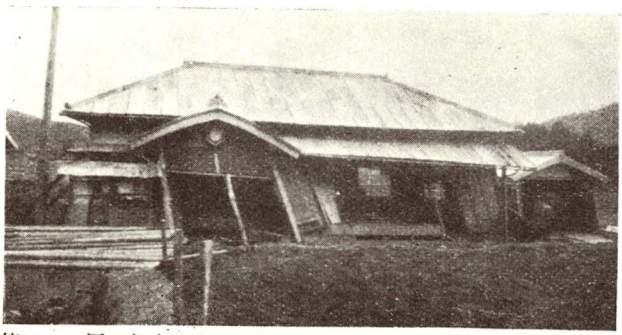
第四十八圖　丹那大斷層上の農家

五、畑部落

この部落は斷層線から僅かに東方にあるが被害は比較的に多い、石材の使用多く、納家を穴藏として石垣で圍んであるが、この石垣の崩壞のため上部の藁屋根が倒壞した例が多い。



第五十圖　畑青年會館平面略圖



第五十一圖　畑青年會館被害狀況

畑青年會館、木造屋根鐵板葺平屋建、南方に甚しく傾斜移動して居る、土臺ボールト締なく火打梁もなき爲被害を增大したものと思はれる。柱は敷居或は鴨居下にて折れたるもの多く、一本は折れて二間程飛び出して居た。

熱海峠方面

一、輕井澤部落

この部落は斷層上にあり、且傾斜地に建築してあるため



第四十九圖　畑部落石垣倒壞の例

に石垣の崩壞あり被害多く全滅、熱海街道の南方丹那側被害多く、北方田代側比較的少なし。

二、田代盆地

丹那盆地に比し落差大なる大斷層が縱走して居るが建物の被害は比較的に少ない。

三、熱海峠

大岩石が道路上に横はり道路に龜裂甚し。

日金山に大山崩れあり、有史以來の事の由である。

熱海町方面

熱海町は概して住家の被害少なく、驛前の休憩所其他が半壞位のものである。



第五十二圖　熱海小學校瓦の剝落

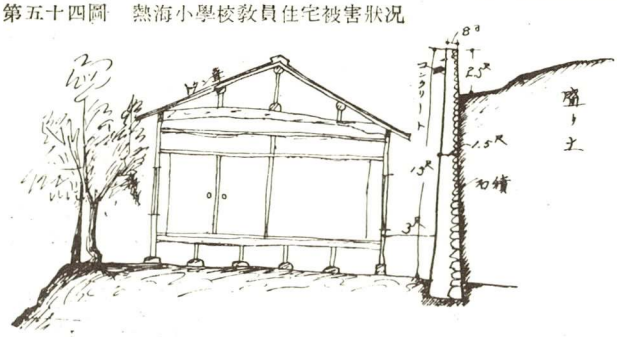
一、熱海尋常高等小學校

熱海驛前の高臺にあり、木造二階建校舍の舊き部分は關東震災の時被害あり、補强をなし、新しき部分は昭和二年の建築、何れも被害少なく古き校舍の屋根瓦が波を打つて剝落して居るだけである。（第五十二圖參照）

西側の石垣崩壞のため便所倒壞



第五十四圖　熱海小學校教員住宅被害狀況



第五十三圖　熱海小學校後方擁壁と教員住宅の關係

下の民家の壁崩壊、教員住宅の後方の擁壁崩壊のため教員二名、家族一名即死、重傷二名を出した。

この擁壁は高十五尺、厚さ上部八寸、後方の盛土を支えて居るのであるが、盛土側に石垣を積みその前方を粗惡のコンクリートで固めたもので鐵筋もなく甚だ不完全である、之に加ふるに擁壁面と教員住宅との間隔が僅かに三尺では全く危險である。

尙運動場の西端が約一尺陷沒して居た。

箱根方面

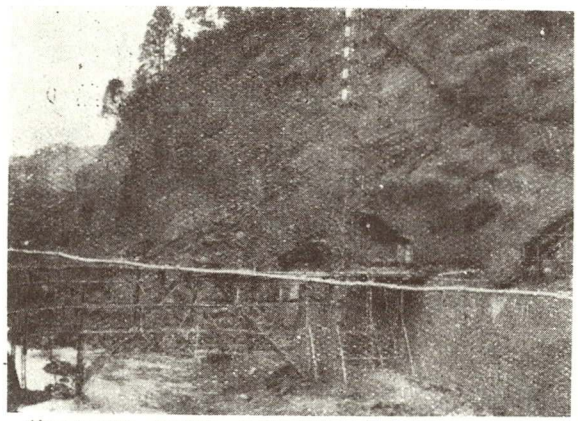
一、被害狀況

神奈川縣下では箱根町の被害を最大として他は僅少である。

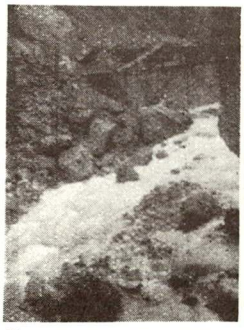
地名	全壞 住家	全壞 非住家	半壞 住家	半壞 非住家
箱根町	五七	四六	四四	一五
元箱根村	三	三	四	三
湯本町	二	二	三	四
湯河原町	一	○	三	○
溫泉村	○	一	⊙	○
宮城野村	○	○	○	一
芦湯村	一	四	四	三
湯河原町	一	四	三	四

一、湯本町附近

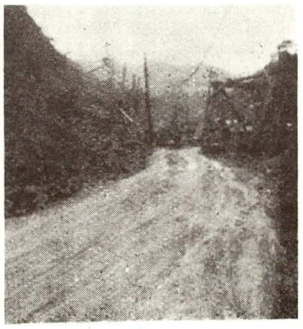
家屋の被害は比較的小であるが湯本町、塔の澤



第五十五圖　讓原組の作業場附近の崩れ崖



第五十六圖と同じ



第五十七圖　湯本附近道路の山崩れ

間の讓原組の請負の道路工事附近の山崩甚し、（第五十五圖）、第五十六圖は早川の流水中に崖崩れのありたる光景、第五十七圖は道路上に崩れ落ちたる所である。

尙湯本町畑宿にて守源寺全壞四人死傷して居る。

二、芦の湯附近

元驛前の倉庫全壞松坂屋旅館、二階建五棟、渡り廊下で各

々の聯絡を取る、被害相當大にして壁剝落、廊下床板割れ、破目板破れ、硝子は破損して居る、之は締金物の使用が不足で、構造法不完全な爲と思はれる。

三、箱根町附近

元箱根村は半壞四十戸位で相當な被害があつたが箱根町は殆ど全滅と云つていゝ位な被害である。

箱根離宮

御内部は窺ひ得なかつたが、築山に斷層が現はれ、官舍は屋崩れのため全壞芦の湖面に辷り出したとの事である。



第五十八圖　箱根ホテル二階木造部移動

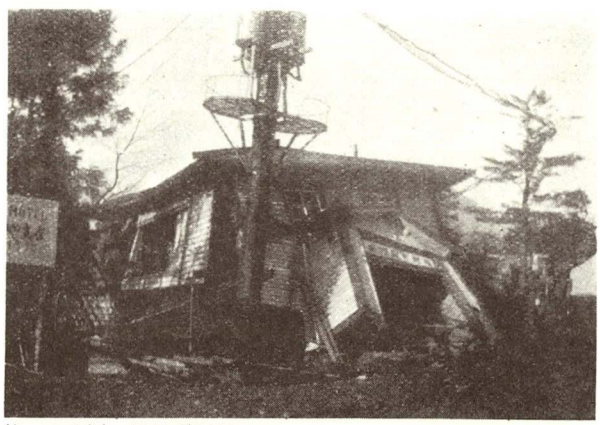
箱根ホテル

關東震災以後の建築にして、一階約六尺の鐵筋コンクリートの腰壁を有する大食堂、二階は木造、屋根トタン葺、二階床下の東折れ東方に約六尺南方に約二尺移動して鐵筋コンクリート壁上に支へらる、木造軸部の仕口は金物にて堅固に施工されて居るため二階床面は膨れ上つて居たが原形は留めて居た、其他附屬建物も全壞、前日迄投宿者ありたるも、この日客は一人もなく、ホテルにて死傷者なしとの事

箱根郵便局

木造二階建、比較的新しい建物であつたが、湖水側に倒壞、一階柱は折れて居る。

其他民家も藁屋根と云はず、トタン葺屋根と云はず殆ど倒壞す。



第五十九圖　箱根郵便局

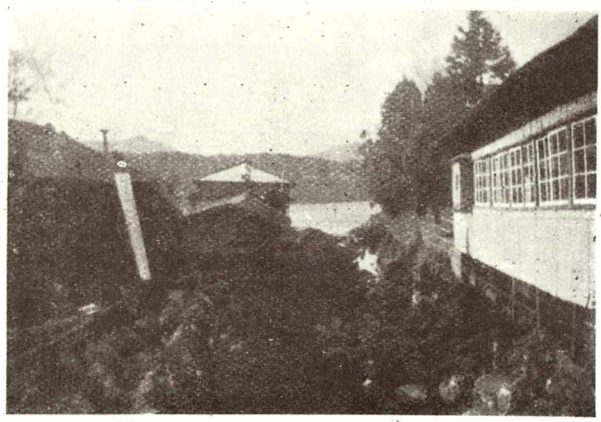
この附近の地割は縱橫に走り家屋倒壞方向も一定せず、之は建築物は相當年月を經過したるものに加ふるに、筋違全然なく、土臺部にも金物のない爲であらう。

三、箱根—三島間街道附近

各部落は殆ど半壞或は全壞、田中新田附近山腹に大山崩れあり、人家埋沒死傷者を出した所あり。

山中新田附近、山崩れ、人家倒壞。

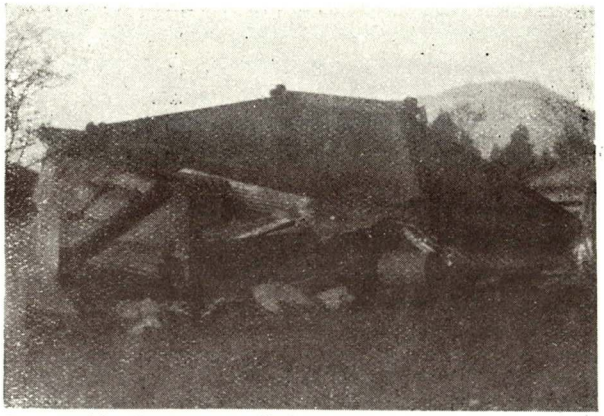
三ツ谷新田、市の山新田共に被害多し。



第六十圖　箱根町石垣崩れ

結　語

今回の地震の原因である斷層は北は箱根街道縣堺線から南は中大見の原保迄南北に貫く幹線と、浮橋に於て分岐、約三十度西南方向に大野、堂所、加殿を經て青羽根に至る支斷層とがあり、丹那幹斷層が先づ活動し、約四秒の後前記の支斷層が活動を起し、幹斷層は約九秒間に二百四十粍の横ずれをなしたのに反し、支斷層は水平一



第六十一圖　箱根町トタン葺張の倒壊

き之に柱を枘入にせるもの、二法が主である、從つて柱底部の腐朽或は土臺木又は柱が玉石から滑落して倒壊、傾斜を生じたものが多い。尙燒梁を用ひてあるものは殆ごなく基礎締金物も用ひられて居らぬ、之はコンクリートの腰積を廻し、土臺は之にボールトによつて締付けるべきである。

次に敷地面が道路より高い時、石垣上に基礎を置くのは石垣が崩壞し易いため危險である、石垣を充分堅固にするか鐵筋コンクリートの擁壁を作るか、然らずんば基礎を道路面迄深く入り込むかにすべきである。

學校建築の基礎は多く腰積を廻して居るが、之に灰トロで以て石を積んであり、且腰積下の基礎の施工不充分のため轉倒し校舍の破壞を招いた例が多い、大體腰積部は地震に際して非常に大なるショックを受けるものであるから充分堅固にする必要がある。從つてコンクリート積なら八寸以上、石積なら一尺以上としてモルタルの調合は充分留意するを可とし、轉倒を防ぐためには基礎巾を相當大にする事を要する。

第一階床構造で玉石上に束を置く時は大枘にし、枘穴の空隙は木等で充たして置きたいものであり所々には煉瓦一枚角位のものを以て補强して置けばよいと思ふ。

軸部

震災地方の民家の柱材は一般に斷面小さく、日本杉三寸角を用ひたものが多い、從つて在來の構造法で梁を柱に枘入とする時は枘穴の缺き込みで更に斷面を損小し、この部分で折れて倒壞した例が多いのである、斷面は少なくとも二、五寸角以上とし、梁との接合部はボールト、羽子板鐵等で堅固に取付けるべきである。箱根ホテルは締金物を充分に使用してあつた爲に、二階の腰折れで、一階コンクリート壁迄に墜落したのに拘らず二階床は殘つたのである、又仕口に鎹を打つた例が丹那にあつたが之は一本もはずれず有効に抵抗して居た。尙門柱等で柱を沓石に枘入としてあるのは腐朽し易く危險である。矢張締金物を使用して緊結するを可とする。

木造柱が外力を受くる時は上下の仕口部分に於てピンジョイントと同樣な狀態となるのであるから矩形構法のみで地震に抵抗せしむる樣設計する事は經濟上不可能となある。依て筋違、方杖、或は壁體或は障子、襖の構造に付充分なる留意を以て全體として抵抗せしむる方策を取りたいものである。

元來壁體そのものは耐震的に有効に働くべきものに拘らずその構造法惡しきため其の用をなさなかつた例が多い、即ち充分なる筋違を入れ、或は壁下地の貫の仕口の下に三角板等を打付け方杖の代用とする等の方法を講ずれば有効となるのであらう。然るに震災地の民家の壁面に筋違を用ひてあるのは未だ少なく、又用ひてあつても不合理な置き方をしてあり、學校、寺院等で筋違を用ひてあつても仕口が欠き込み大釘ちで不充分のため接合部で拔けたり、斷面が小で折れたりして居たのは遺憾であつた窓下に筋違があつた例は一つもなかつたが、之を入れる事は柱長を減ずる事にもなるから、耐震上相當に有効と考へられる。

田方農學校では筋違のある壁とない壁との破壞狀態の差の大なる

基礎

函南村、中郷村以南の地方では藁葺屋根の家が多いため民家の基礎工法は1玉石上に柱を枘入れとせるもの。2玉石上に土臺木を置き三〇粍上下五〇粍の小移動ではあるが急激に活動したゝめ大なる地震力を生じたものであつて、斷層線の西側は南にすれ、東側は北にずれ、震害は西側に多いのである。

この地震による震災各地の各種木造建築物のディテールに渉つて觀察して見ると次の如くである。

事を見た、之によつても筋違の効力を知る事が出來る。

尚方杖の使用の例も甚だ少なかつた、大場の一商家で鐵骨アングルの方杖を使用し相當有効であるのを認めた、田方農學校は充分なる小屋組を有しながら方杖がなかつたゝめ被害を徒に增大したのであらう。

次に土壁では腰廻りが最初に剝離するもので壁全體が剝落した例はなかつた、即ち壁體そのものを丈夫にする必要はなく、唯軸部と壁體とを一體にすべく筋違、方杖を充分に用ひればよいのである。

石積壁或は石張壁は崩壊早く危險である、鐵網コンクリートの壁が剝落した例が長岡にあつた。

屋　根

西洋小屋組は建物が倒壊しても地に落ちたまゝ崩壊せず、之はこの設計に際し理論的根據があり、且金物等も相當に使用し施工に注意がしてあるからである。然るに軸部は在來の經驗によつて施工するのみであつて、學理的に耐震力を充分に發揮し得る樣な構造になすべく努力されて居ないのは耐震構造上の大欠陷である、木造建築でも工場、學校の如き相當張間の大なるものに對しては、軸部に付て、一應の强度計算をなして大體の斷面を決定し、更に文部省編の『家屋新築及び修理に關する耐震構造上の注意書』に準據して仕口を施工する樣にしたいものである

屋根葺材料としては在來の土居葺は危險である、引懸桟瓦等の如く直接野地に緊結するものを可とする、地震地方にては鐵板葺としたい。之は瓦の如く剝落する事なく、屋根重量を輕くするために耐震的である、今回の震災でも鐵板葺の家屋は同一場所にある瓦葺のより被害程度は輕く、又二階が安全に一階の如く地に落ちて居るものも多くは鐵板葺の家屋であつた

藁屋根は水を含んでは重量大となり乾燥しては火事を誘引するから危險が多い。

平面計畫

全體として正方形に近い平面は何れの方向の震動にも充分抵抗出來るから、棟の長い建物が棟と直角の方向よりの震動に對して危險なるに比して餘程耐震的である。

アングル型の平面は全體としては耐震的ではあるが、之を用ふる時は入隅の通りには必ず筋違を充分に入れた堅固な間仕切壁を入れる事を要する。又壁體を有せざる突出物は可成作らない方が得策である、裸柱のポーチがあると之が第一に破壞して、それに引かれて全體の建物も倒壞或は傾斜する例が多い。

間仕切壁は通りよく、且つ多く置く事、長い棟の建物でも間仕切が多いために激震地に拘らず倒壞を免がれた例が長岡にあり、又三島神社社務所は新築であつたが、間仕切が少なかつたため傾斜して居つた、間仕切壁が耐震力を發揮して居る一例證ともならう。

更に木造建築物の軸部は水平、垂直の組物にする必要がある、即ち平面計畫上建物の床は總て同一平面にあるべきである、山間部の建築によく床の高さが次第に上つて居るのがあるが耐震的でない。

棟と棟とを接續する中間建物及び渡廊下の如き附屬物は特に方杖等を堅固にして置かねば主屋に危險を及ぼす虞がある、三島第二小學校の講堂の壁體は渡廊下倒壞のために傾斜したものである。

擁壁及び塀構造

石垣積をコンクリートにて包む擁壁は甚だ危險である、熱海小學校教員住宅裏の擁壁はこの構造で大命三を失はしめて居る、無筋コンクリート構造も同樣危險である之は鐵筋コンクリートとなすべきで殊に粘土質に對するものはこの土が水を含むと土壓を增大するから餘程堅固なものとする事を要する。

震災地方では石塀が特に目立つて多く四尺以上の高さのものは殆ど倒壞して居た、之は扶壁、補强金物等が充分で且施工入念でなければ地震に對して危險である。

施工上の注意として石材の面を粗にしてモルタルの付きをよくしモルタル調合にも注意すべきで、三島地方の如く灰トロでは全く不可である。

又石垣上に石塀を築くのは塀の高さが低いものでも倒壞して居る三島第二小學校の石塀はこの一例である。

更に丹那方面では穴倉を石垣で積みその上に土藏或は納家を作つて居たが石垣の崩壞と共に上部の建物も倒壞して居た、之も鐵筋コンクリート構造となすべきものと

思はれた。箱根ホテルが全壊を免れたのは第一階の鐵筋コンクリート壁體の力である。

之を要するに今回の震災各地は去る大正十二年關東地震の影響を多少とも蒙つて居るにも拘らず、未だ耐震的構造法が普及されず、或はその構造法を用ひながら正確な方法ではなかつた爲に災害を增大したものと思はれる、之に對しては耐震的構造法の研究と共に斯の如き機會に震災各地復興建築に對し正しき耐震建築を理解せしめ親方の口傳をそのまゝ昭和の時代にも萬全の構造として居る大工從弟の指導をなすは吾人建築家のなすべき重大なる務の一ではなからうか。

豆相震災地巡禮記

神戸高等工業學校助教授　巽　純一

昭和五年十一月二十六日午前四時三分突如として伊豆半島は大地震に見舞れ、安らかに眠むれる豆相の人々に不安の念を與へる間隙もなく忽ちにして阿鼻叫喚の巷となり、軍隊の出動、警官の警備、青年團の應援となり、平和なる伊豆溫泉地方は今復興の二字を目指して雄々しくも上下協力一致涙ぐましきまでの活動を續けてゐる。

震害の程度は一報よりは二報と報を重ぬる毎に劇烈の度を加へ、同日夕刊には早くも同地方の慘狀を赤裸々に寫したる、或ひは建築物、或ひは山崩れ等の寫眞……我々にとつて相當參考と考へらるゝ震害建造物を見るに至りたる故、同夜直に旅裝を整へ翌朝神戸出發同行三人（永澤教授、江藤教授、巽助教授）急ぎ豆相震災地に向ふ。

車中陸地測量部發行五萬分の一を膝上に廣げ震災地視察巡路を定めるべく色々と協議を行へども各地を連絡せる乘合自動車、汽車等は震害の影響を受け不通の爲確然たるコースを定める事が出來ず、漸くにして第一、第二及び第三の三案を決定し、其の何れか一つを時と場合により取るべく巡路準備を了へたのが丁度列車が名古屋に到着せんとする少し前である。

震災地にては安らかな眠りを溫泉宿に求むる事は不可能と考へ、又視察三日間は食事にも困るだらうと云ふ考へより名古屋驛にて約三人三日分程のパン、サンドウヰツチ等の食料品を買集めリユクサツクを滿たす。

名古屋驛を出發して間もなく一同は又地圖と新聞を廣げ新聞紙上最も災害の甚だしき點と思はる地點に赤きマークを附し震災地に關する豫備知識を充分獲得し、視察の完全ならん事を期す。

午後七時沼津に着く、沼津は今次の地震にては壁土が少しく落ちたる程度にて何等建築的被害を蒙らず。驛前に出て今夜の宿を求めるべく暫く佇んでゐると一人の男來り次の如く語る。

自分は今日熱海より熱海街道を經て大塲、三島に出で只今沼津に着いたのであるが自分の見た所によると新聞等に盛んに書き立てゝゐる慘禍の最も甚だしき所として三島、大塲、韮山等となつてゐるがあれ等は皆最も甚だしき所ではなく、實際は熱海街道上即ち大竹、輕井澤、十石峠を經て熱海に通ずる街道である。この街道に於ては道路は二つ或ひは三つに裂け、大きな石が山上より路上にころげ落ち或ひは大地滑りにより黃色の山が黑色と變り實に物凄い光景である。地震の見物に來られたのならば新聞に書き立ててゐる所よりもこの自分が今日見て來たあの街道

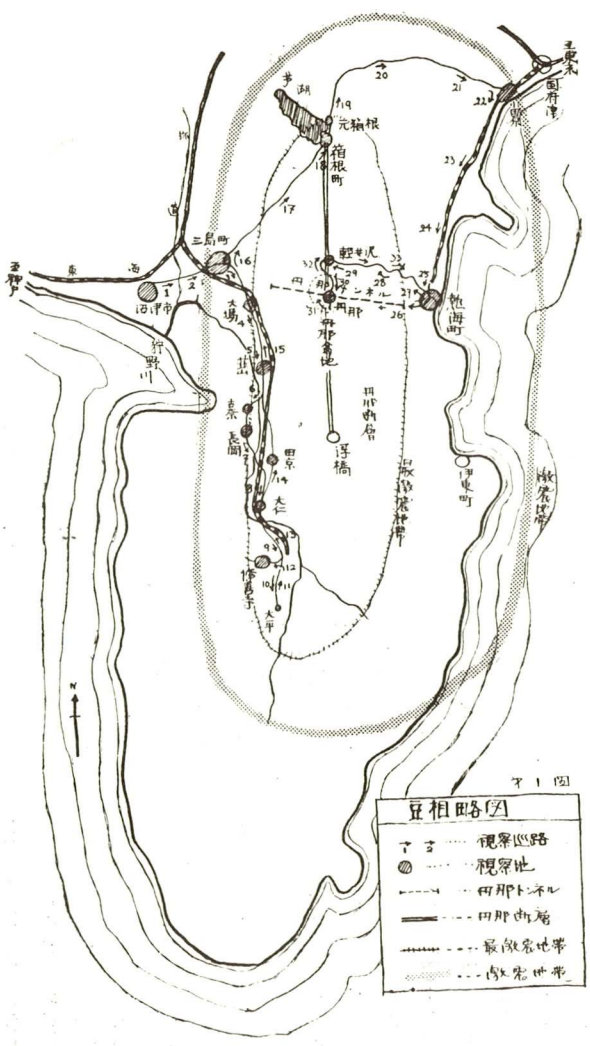
を見られたならばそれにて充分であると。

以上の話より考へてみると、この人は地震の被害として建物の害よりも道路の龜裂、山崩等を重大視して居る様に思はれたので我々はその方の話より方向を轉じて自分等の明夜の豫定宿泊地が修善寺であるので修善寺は如何ですかと尋ねると、曰く、修善寺は御承知の様に河の兩側に溫泉宿があるので地震と同時に兩側の家屋は川中に落ち全町全滅であると、この話を聞いて今夜のみは疊の上に休まれるが明夜は刈り取られた藁の上にでも野宿をする考へにて驛前の宿に入る。

宿の湯殿は今日の地震にて壁落ち今日は湯を沸かすことが出來ませんから惡しからずと番頭の御挨拶、湯殿に行くと番頭の言の如く壁落ち、柱は少し傾斜したのか俄造りの筋違が廊下を横切つて釘づけにしてある。部屋の鏡は破壞され顔が三つも四つもに寫る、床の壁にも龜裂を認む。

宿の主人の話、新聞の記事、其の他の情報より大略今次の視察巡路を第三案と定めて寢に就く、時に午後十時半、其のコースを圖示すれば第1圖の如し。

視察巡路は第1圖矢印の如し、即ち、十一月二十八日沼津を出發して三島―大場―韮山―古奈―長岡――大仁―大平を經て修善寺着同所に一泊、翌二十九日修善寺より三島までは昨日と同コースを逆に取り三島より箱根街道を箱根町に至り底倉にて一泊、三十日底倉より小田原を經て熱海に至る問題の丹那トンネルを一哩半ばかり中に這入り再び熱海に歸り最後に今回の地震の中心と考へらるゝ輕井澤及び丹那盆地に向つて熱海街道を登り、大斷層地帶の視察を了へて一先づ今次の豆相震災地視察を終る。以下視察順序に從つて各地の建築的被害其の他を記せん。



第1圖

十二月二十八日　晴

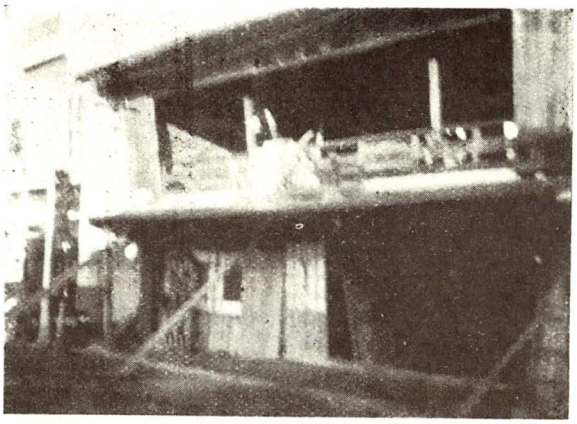
今次の豆相地震の原因に就きては各專門家により大略二說に分かたれて考へらるゝ如きも之を要するに箱根、丹那盆地及び浮橋に通ずる南北の線に沿ひて一大斷層の生じたるは明なる事實の如し、この斷層に沿ひ大小無數の斷層の存する事は今次の地震を俟たずとも丹那トンネルの工事に際して既によく知られたる所である。今次の地震に於ては上記丹那斷層に起因して其の西部と東部に平行なる二つの斷層を見る。西部斷層と思はるゝ地域は三島、大場、韮山、古奈、長岡の各地にして、この地は狩野川に沿ひ沖積層に屬する故土地は軟弱である、故に其の災害最も甚だしく同地方の罹災者に對しては實に同情の念にたへない、これに反して

東部斷層と思はるゝ小田原、熱海伊東を通ずる地域は土地比較的强固なりたる爲其の災害も西部に比し甚だしく小であつた。

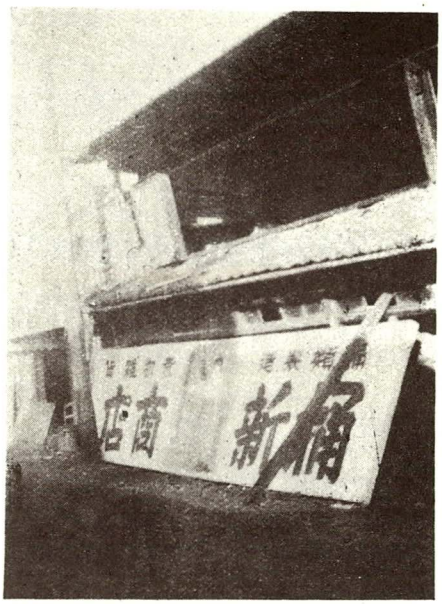
尙又地震による災害は相當强大なりしも地震の生じたる時刻は丁度午前四時と云ふ早朝であつたから火災による災害が殆んどなしと考へても過言でない程小であつたこれは不幸中の幸にして若し地震が今一時間或ひは二三時間遲かりしならば地震による災害よりも火災による被害の方が甚だ大にして同地方一體は眞に燒土と化した事であらふ、又小學校々舍の被害相當大なる點より考へて小學兒童の死傷せる者又多からん。地震二割に火事八割とはよく言つたものである。

三島町

さて我々一行は沼津市を午前七時出發自動車にて三島町に向ふ。途中黃瀨川（狩野川の支流）に架されたる木橋が少しく害を受け欄干が脫落したるに會ひたる位にして建築物の被害とてはなく三島町に着く、三島町は相當の被害あるも



第2圖　ますや旅館（三島町）



第3圖　震動の方向が明瞭に說明されたるもので後節に於て柱折れの一例である。階數は二階で向ひて右方の一階と直角に接したる二階建家屋にして二階と一階との間口の理由により斜に傾き全體として

れたる建物は少しも害を被らずこれより見ても三島地方の地震は大して大なるものと思はれず最も顯著なる被害建造物の二三につき說明すれば次の如し。

ますや旅館

本旅館は第2圖（寫眞）に見る如く道路に面したる正面張間約六間の二階建家屋にして一



第4圖　まるや玩具店正面

のゝ如く家屋の傾斜せるもの其の數を知らず、しかし少しく注意をなし施工せら

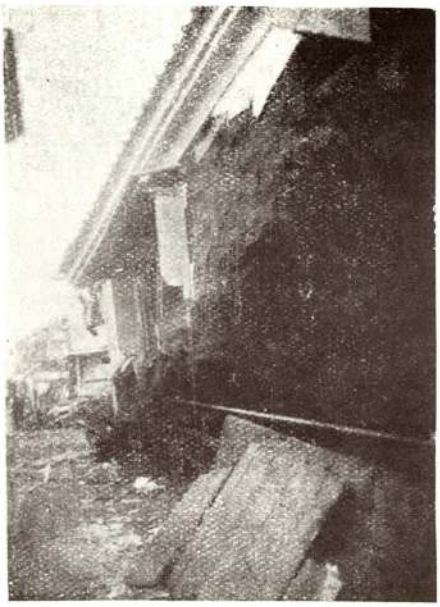
階、六間の張間の途中には柱なく二階には澁山の客室を有する不安定なる建物である、震動の方向が南北であつたので南の方に向つて今にも倒れんばかりの形をなしてゐる、柱は細く且一階と二階の途中に於ては多くの臍孔の爲柱の斷面は甚だしく弱められてゐるからこの部より破壞傾斜せる事に對し何等の疑點を狹み得ない。

三島町まるや玩具店

本玩具店は第4圖第5圖寫眞に見る如く土藏造の二階建家屋なりしものが上部餘りに重きに因して柱折れ丁度平屋の如くなり、道路及川の上に倒壞したるものである。

三島神社

三島神社鳥居前に佇めば大鳥居は何等被害なきに其の斜め前にある官幣大社三島神社と記したる大石柱は寫眞（第7第8圖）に見る如く其の中央部より眞二つに切斷され一つは東に、一は西に轉び落ち、あはれな形をなしてゐる、大鳥居の後方にある數基の石燈籠は南北に倒れて居るのにこの石柱のみ東西に倒れてゐる、これは石柱の土臺石と石柱との間には Anchor Bolt がありてこの Anchor Bolt にこぢれて東西に倒れたものと考へられる、この Anchor Bolt も土臺の石には完全にセメントにて固着してゐるが上の石柱には單に穴を穿ち其の中に挿入してあるのみである、これが若し完全にセメントにて結合されてゐたならばこの石柱は倒壊を免れた事であらう。



第5圖　まるや玩具店側面圖

尙ほこの三島神社にて面白き一事は數個の燈籠の中一ケのみは倒壊を免れ他は皆完全に倒壊してゐる事實である、この一事を不思議に思つたのでよく注意なし各燈籠の附近を觀察すると倒壊を免れたる燈籠の附近には櫻の木がありて其の枝がかすかに燈籠の頂點に接觸してゐるのに反し倒壊せるものは其の附近には何等他のものがない、これを圖に表はしたものが第6圖（a）（b）である、この（a）（b）二つの燈籠が水平なる地震力を受け震動したる場合を考へるならば、（b）の方は倒潰し（a）の方は倒潰を免がれるだらうといふ事は常識的に考へても考へ得らるゝ事である。

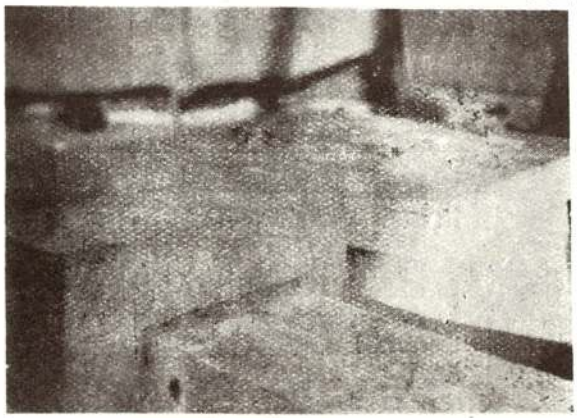


(a.)

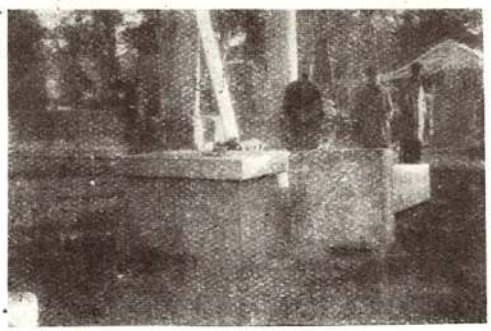


(b)

第6圖



第7圖　三島神社前石柱の倒潰詳細



第8圖　三島神社前石柱の倒潰

尙この一事實を明瞭に實驗證明せんとせば數個のマッチ箱を積み重ね震動を與へるならば直に震動の方向に落つるを見る。これに反して其の積み重ねたるマッチ箱の上部に糸をたれ接觸せしめてをくならば前記の場合に與へたる震動と同程度にてはマッチ箱は落ちず原位置を保つべし。此燈籠の櫻樹の接觸せる爲に倒潰を免れたる事實は、之を多少なりとも耐震家屋構造ではなく免震家屋構造に應用し得る可能性がある樣に思はれる



第9圖　石燈籠の被害



第12圖　向つて左の石燈籠倒壊せず右の方は倒壊す（本文參照）

三島神社々務所

同社務所は相當大なる新しき建築物にして柱等も太く、民家の被害狀況より見れば、完全に無被害にて殘るべき建物なるに拘らず、女關の柱は上下動を受け其際柱のホゾは土臺石より外れ、外の方に移動したる爲上の梁が柱より離れて落ち相當の被害を受けてゐる、これ等も少しく金物等を使用し注意をなすならば無被害にて濟んだものであらう。（第13圖寫眞參照）



第13圖　三島神社々務所



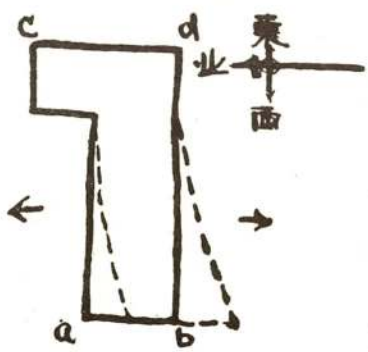
第10圖　同上

三島神社繪馬堂

本堂は第14圖の如き形の平面を有するものにして矢印の方向の震動を受け、西側は傾斜し東側は少しも傾斜せず、この建物のabの面とcdの面とを比較するに、其構造には少しも異なる點を見ず、寫眞第15圖の如きものにして矩形



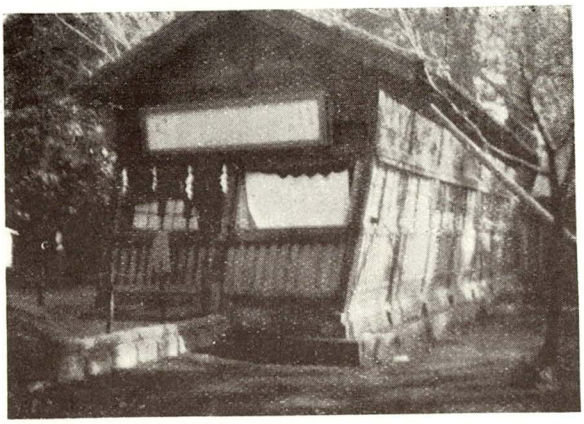
第11圖　同上



第14圖

の建物ならばab、cd兩面とも同じ樣に傾斜をなしたるものと思はるも其の平面が圖の如く鏃狀となれる爲cdの面に傾斜を起さず倒潰を免ぬがれたるものならん、今少しく注意をなし、abの面に耐震的手法を施すならば被害を受けなかつたであらう。

三島神社の前を右折すれば大場に通ずる道路なるがこの道路は南北に通じ地震の震動は南北であつたからこの道路に面する所は道路と平行の方向に家屋が皆傾斜するのに反し三島神社前の東海道に面する家屋は道路と直角の方向に傾斜をなし、其の破壞狀態に多少の趣を異にしてゐる。



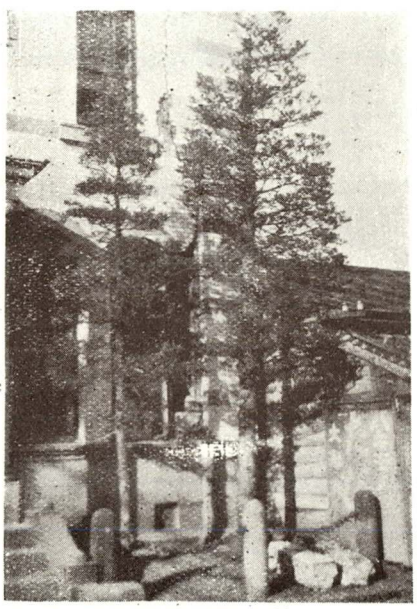
第15圖　三島神社繪馬堂

即ちこの三島町の家屋構造は皆道路に面して大きな開口を有す（商店、旅館等皆其の家屋使用目的より畢竟かくの如くなる）其結果として過大すぎる程の大なる梁を架す、其の爲柱には大きな臍孔を有し、この大なる梁の方向の震動を受ける時には直ちに臍の部分に相當する所にて破潰し家屋は、第16圖の如く傾斜するを常とす、これに反し道路と直角の方向には隣家との境界をなす爲柱の數も多く壁等もありて大なる梁を有せず故に柱は比較的臍孔による斷面の減少すくなし。故にこの方向に震動を受けたる時は二階と一階の途中にて柱折れず、柱は全體として傾斜す、この二つの破壞狀態は三島神社は右折するとせざるとにより明瞭に二分さる。（第3圖寫眞參照）

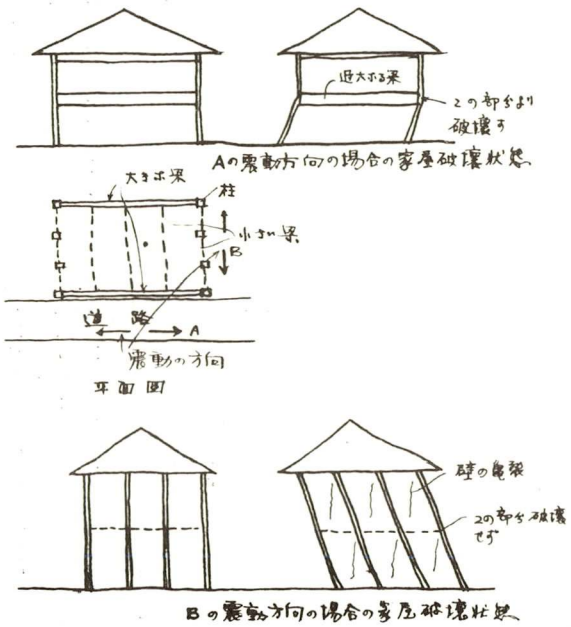
上記の二現象より見れば普通の日本商店建築に於ては其の破壞位置に對して今少しく研究をなし、之に應ずるの手法を見出すならば割合に簡單なる耐震構造とならん

伊豆銀行

本銀行は一見煉瓦造と思はるゝ建物なるがよく觀察すれば木骨造にして其の外部に煉瓦一枚を貼り付けたる構造物である、本構造は其の重量非常に大にして地震動に會へば必ず木造部と煉瓦とが別々に震動して煉瓦が剝奪されるものである、今次の地震に於てもその例にもれ



第17圖　伊豆銀行の壁體の龜裂

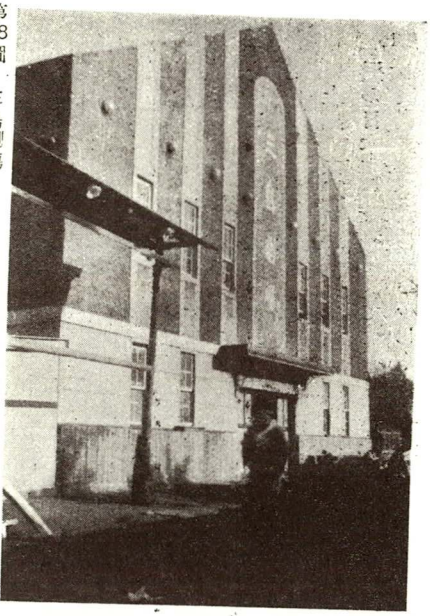


第16圖

ず完全に破潰の狀態を現はし、本構造の我が國に最適せざる事實を示す。（第17圖寫眞參照）

三島劇場

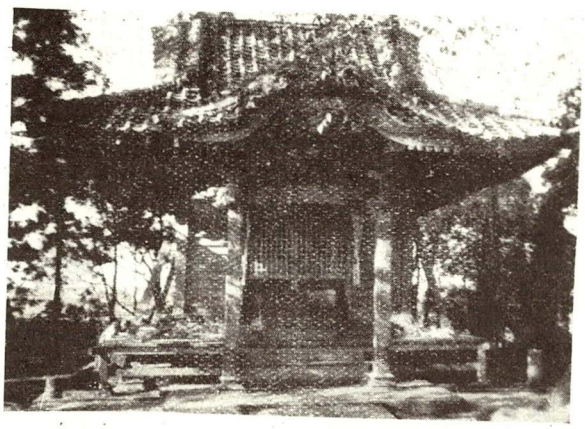
木骨吹付けモルタル仕上の相當大なる劇場であるが其の構造比較的良好なる爲些少の被害も認めず（第18圖寫眞參照）



第18圖　三島劇場

間眼神社

下田街道に沿ひて南下し三島町を少し離れた所に間眼神社がある本社殿は前會の地震により相當の被害を被りたるものか、寫眞に見る如く支柱を立てかけ、補强してあつたので倒潰は免れたるも其の支柱の基礎は單に土中に入れたるのみにて何等補强工事と考へらるゝ點を見ず、故に地震動により建物が左右に傾斜するごとに支柱は土中に入り込み其の附近の土を抑し上げ其の爲に廻り椽は上の方に釣り上げられた樣な形となつてゐる。



第19圖　間眼神社・補强に施したる支柱に注意

三島郵便局

本局は木骨造の上にタイルを貼付けたる二階建構造にして柱の二階梁の所にて少し破壞し一階のみ傾斜して二階は少しも傾斜せず只水平に少し移動したのみである故に一階に屬する貼付タイルが剪力の影響を受けて剝奪せり。



第20圖　三島郵便局

中央氣象臺三島支臺

本支臺は最近完成したる同地方唯一の鐵筋コンクリート構造である。本構造物には何等地震による被害を認めず。同所某技手の談に依れば同支臺の觀測に依れば最大震幅は約十糎位であつて初期微動に於ては上下動が水平動より三倍―五倍大にして其の繼續時間は約二秒一或ひは二秒五位であるから中央氣象臺の十三秒等より計算すれば今次地震の震央は丹那盆地附近ならんと、尙地震の加速度に就きては地震計の針が初期微動後直



第21圖　三島郵便局

大場

三島の町を離れて車を大場の方に向けると刻一刻と震害の度を高む、大場の町に入る少し前、境川の橋梁にて車を捨て災害地を訪ふ郵便局、學校等は無慘な姿となり民家の被害其の數を知らず、學校校庭は罹災民の應急手當場となり或ひは慰問品支給場となり、常ならば見る事の出來ない光景を呈してゐる、校門前にて白い看護婦服を着する女性が牛乳、水、パン等を罹災地兒童に與へてゐるありさまを見ては涙なしに同地を去る事が出來ない、交通の要點には軍隊、警官が出動し、慰問自動車、建築材料運搬自動車其の他の諸車を整理してゐる光景は實に戰場の様な零圍氣を示してゐる。



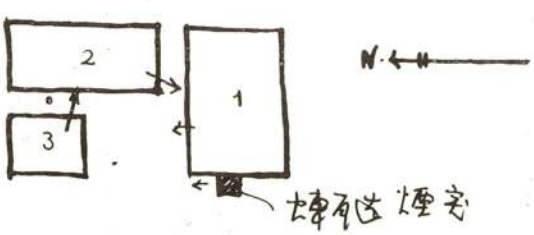
第22圖　同右正面入口

ちに飛んでしまつたのでこれを知ることが出來ないとの事であつた。

同支臺を出て直ちに一臺の自動車を傭ひ今次地震の最中心地である。大場、菲山方面に車を走らす。

神戸酒屋店

この酒屋店は道路より少し入り込みたる所に三つの家屋が第23圖の如くに建てられてゐる。此の中にて1の建物は非常に古く煉瓦の煙突も少しの震動にて倒壊するものの様であつた、それ故に今回の地震にて矢印の方向にこの煙突及び建物が第一に倒壊し其軒が2の建物の柱下部を壓した爲、2の建物は足をはらはれた形となり、同時に地震動の影響を受けて1の建物の方向に傾斜せり。3の建物は比較的小なる建物にして屋根構造は此地方にては珍らしき king post roof truss を使用してゐる、故に柱は倒れたが小屋組は他の材に比し剛強に出來てゐるから原形のまゝ些少の被害も受けてゐない。



第23圖



第25圖　同右小屋組に被害なし



第24圖　神戸酒屋店（大場）



第26圖　神戸酒屋店塀の倒潰

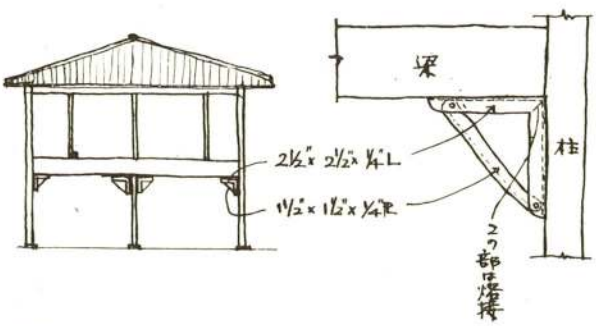
（第24・25圖寫眞參照）九州地方の風害の場合と云ひ今度の場合と云ひ小屋組の破壊した事は珍らしく大ていの場合小屋組は其のまゝにして他の材が破壊すこの一事は今後よく注意ずる必要がある。

某雜穀店

本雜穀店は當地方にては最も珍らしき比較的耐震手法を施したる二階造日本家屋なるに無慘にも大破して一見一階造りの如き觀を呈してゐる、即ちこれも普通家屋と同じく一階と二階の中間にて柱折れ倒壊したものである。その倒壊理由を説明する前に本家屋の構造を説明せん。

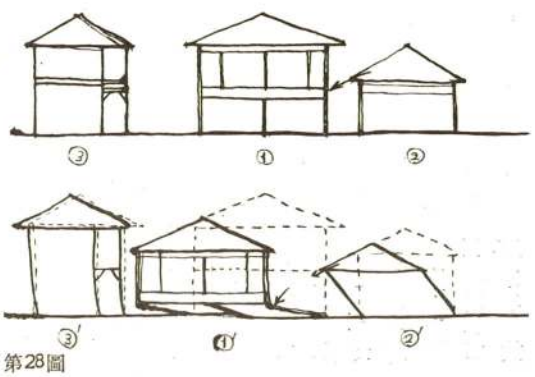
當家は大正十二年の地震の際に無慘にもやられたので新築の場合には同家の息子様が鐵道の方に出てゐられて耐震的手法を御存じなので其の注言に從ひ別圖の如くに補強金物を使用せられたのである。

即ち柱は4寸角にして梁は其の丈が1尺2寸程の極く堅い木を用ひ其の取付け部には$2\frac{1}{2}$″×$2\frac{1}{2}$″×$\frac{1}{4}$″Lを直角にまげ其の角の所は熔接をなし尙方杖として$1\frac{1}{2}$″×$1\frac{1}{2}$″×$\frac{1}{4}$″Lを圖



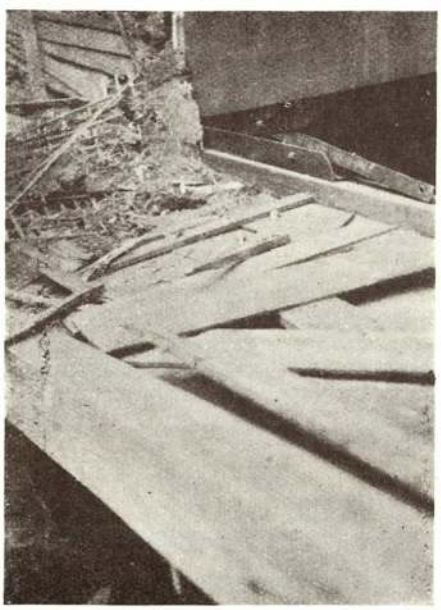
第27圖

示の如く鋲にて止め非常に丈夫に出來てゐる、この地方にてかくの如き耐震的手法を施せる建物は一つとして見る事が出來ない、然るにこの様な立派な建物が倒壊し然らざる建物が倒壊してゐない所より見ればそこに何かの原因がなくてはならない、そこでこの家屋の附近をよく調査してみると、次の様な倒壊理由を考へ出すことが出來る、この家屋の兩隣りの建物の配置の様子を見るに、第28圖の様である。



第28圖

第28圖の上圖は倒壊する前の隣家との關係を表はすものであつて1の家と3の家との間は丁度1の家が倒れても下圖に見る如く3の家には漸く接する程度の間隙があるのに反し2の家は其軒が1の家の二階梁の取付部を押す様な關係にあつたもの〻様である。2の家は極貧弱なる家であつて地震と同時に赤き矢印の方向に倒れ其の軒部が相當大なる力にて1の家を押



第29圖　Angle熔接部の壓力による破壊

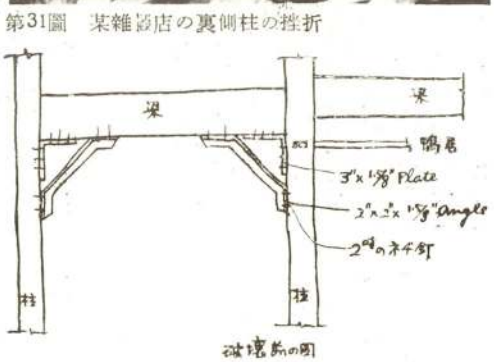
したらしく考へられる。其の爲地震のみならば決して倒れない1の家屋が地震と同時に尙大なる横力を受けたものであるから1′に見る如く無慘にも倒壊したのである。3の家は幸福にも1の家との間に相當の間隙があつて1′の家屋の倒壊による横力を受けなかつたから倒壊は免れたが多少1′の倒壊の影響を受けて圖の樣に傾斜してゐる1′の破壊により要所に設けられたる熔接されたる山形鋼（angle）は其の熔接部及び鋲を破壊し慘なる姿を表はしてゐる（第29・30圖寫眞參照）



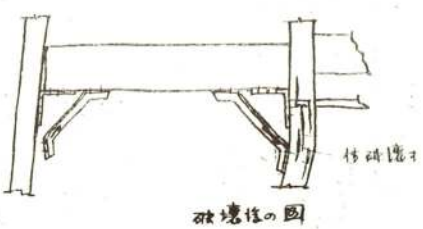
第30圖　Angle熔接部應張力による破壞

大石米店

本米店も鐵物を用ひて補强せる一例なるも隣家より少しく横力を受けたる結果、寫眞（第33・34圖參照）に見る如く少し傾斜したるに止まりたり、若しこの家屋にして金物の補强なかりせば、たちどころに倒潰したるものと思はれる。其の補强方法は、第32圖の如く、梁と柱に沿ひて3″×1.5/8″の平鐵を直角に曲げこれを柱及梁に2吋のネヂ釘にて打ちつけ、尙この外に圖に見る如く2″×2″×1.5/8″L山形鋼を梁と柱に之れ又2吋のネヂ釘にて打ちつけてある。山形鋼を方杖に用ひたる事は非常に有効に働くも、其山形鋼を柱或ひは梁に取付けるのに2吋のネヂ釘を用ひたることは方杖に張力の働く場合直ちにこのネヂ釘が脫け其の働きをなす事が出來なくなる、故にこれはボールトにて完全に締付けるべきものと思ふ、次の方杖に壓力の作用する方に就いてであるがこの方は2吋のネヂ釘にても張力側程影響はないがこれに反してこの方杖よりの壓力が柱に大なる曲能率を及ぼし、圖及寫眞に見る如く彎曲により柱の方杖と反對側に應張力を生じこの應張力に對して木材が抵抗し得



破壞前の圖



破壞後の圖

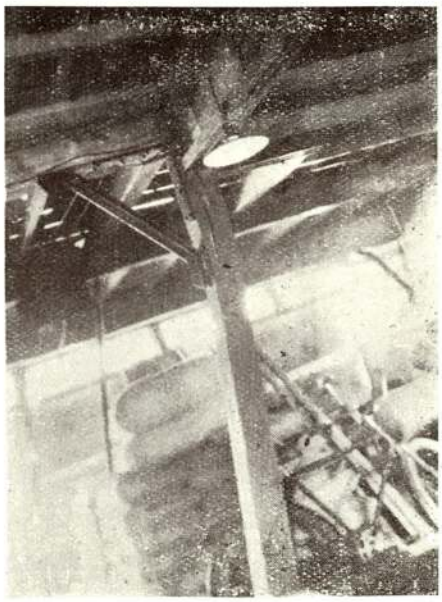
第32圖



第33圖　大石米店の被害



第37圖　腰積の破潰



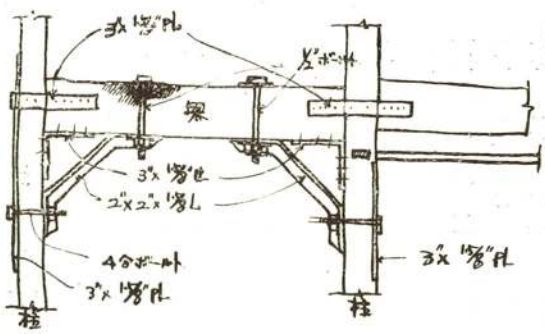
第34圖　大石米店の被害



第38圖　同上

ず破潰の現象を起す故にこの様な場合には方杖と反對の側には柱の面に相當の平鐵を取付け、この應張力に抵抗する様にするならば尚ほ完成と云ひ得べし、即ち第35圖の如し。

何れにしても上記雜穀店及



第35圖

屋なるにかくの如く隣家の倒潰の影響を受けて大なる被害を被りたる事は氣毒な事である。

駿河銀行大塲支店

本銀行は木骨造にして筋違等を澤山用ひ相當堅固に出來てゐる故に今次の地震にては破潰しそうな構造ではないのに相當被害を受けてゐるから不思議に思つてよくみると、この筋違は設計當時より設けられたるものではなく關東の大震災の時に一度傾斜したものを修繕し其の節に補强用として設けたものであるらしい、故に今回の地震にてかくの如く被害を蒙つたのである。尚土台となるべき腰積は其の構造不完全にして第37圖寫眞に見る如く轉倒してゐる、これ等も今少しく堅固に設計されてゐたならば斯くの如き被害を免れたであらう。

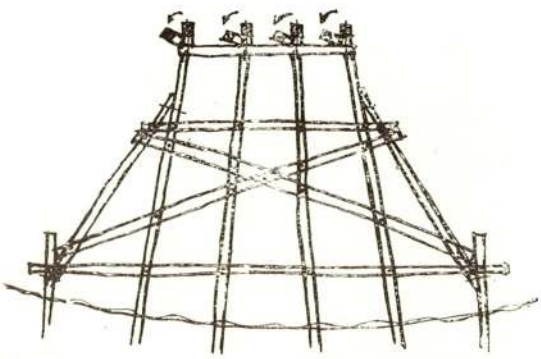


第36圖　駿河銀行大塲支店

米店は當地方に於ける屈指の木造耐震手法を施せる家

韮山街道松原橋

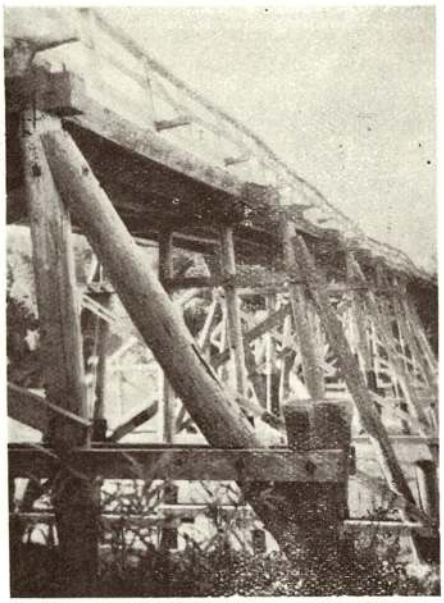
本橋梁は第39圖の如き構造にして韮山街道狩野川に架したるものである。地震動は橋の桁行と直角の方向に起りたるものにして其の爲主桁及肱木が第39圖の如く橋脚枕梁の上にて轉び耳桁は河中に轉び落ち本街道の交通を杜絶したり



第39圖

が單に手違鎹にて締めつけてあるのみであるからこの鎹が脫け將棋倒しに倒れたものである。

元來この式の木造橋梁に於ては橋脚は筋違等を用ひ非常に剛强に出來てゐるのに反して枕梁と主桁及肱木は簡單なる手違鎹に依りて結合さるゝのみなる故にこの部の倒潰するは明なる事實である、故にこの構造橋梁に於てはこの部分に筋違を入れ今少しく耐震的とするならば今次の如き地震に於て



第40圖　松原橋の被害（肱木の轉倒に注意）

この主桁と肱木はボールトにて締め付けてあるから別々に倒れず一緒に倒潰したが主桁肱木と枕梁と



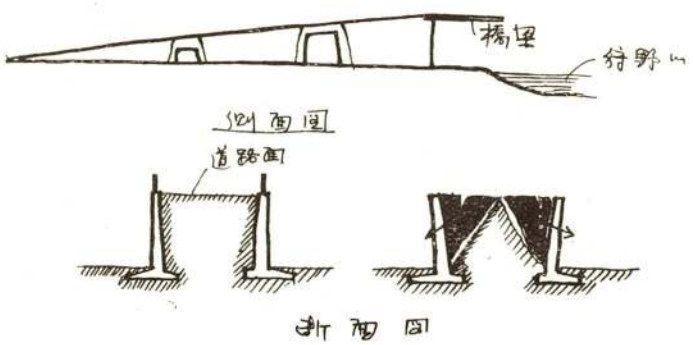
第41圖　同上

橋梁倒潰し交通を杜絶する樣な事は無かつたであらう。（第40—43圖寫眞參照）

擁　壁

本擁壁は韮山街道狩野川の松原橋に通ずる爲に設けられたる傾斜せる道路の側壁に相當するものにして第44圖の如き構造のものである。

地震動を受けて擁壁内の土壤が震動し其の爲土壤内に破壞面を生じ其の上の土が壁に壓力を與へたる爲擁壁を外に押し出し



第44圖



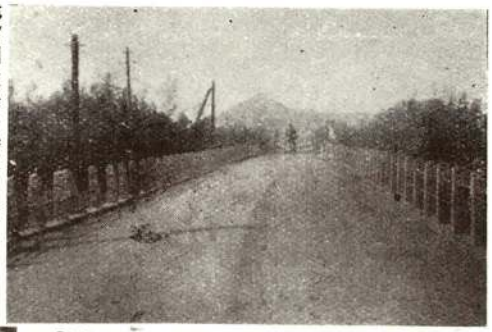
第42圖　同上



第43圖　同上



第47圖 大場小學校の全潰



第45圖 盛土の龜裂（道の中央部に道路と平行に龜裂を見る



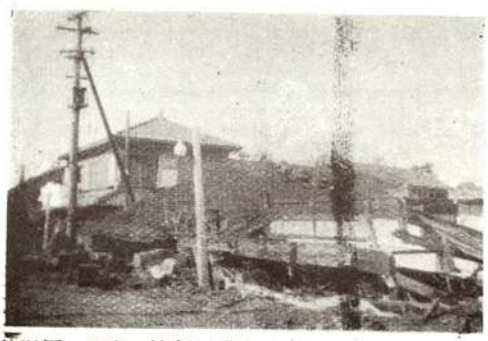
第48圖 同上



第46圖 擁壁の土壓による傾斜龜裂



第49圖 同上



第51圖 民家の被害（大場）

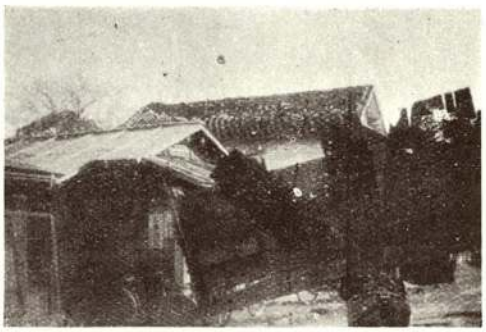
第50圖 二階屋はかく倒る（大場）



たのである、此爲擁壁は少しく外側に傾斜したるに反し寫眞（第46圖）に見る如く通路のある所は土壓を受けなかつたから少しも歪を生ぜず擁壁と門形架構との間に縱の龜裂を見るに至つたのである。

大塲小學校

本小學校々舍は屋根重く柱脚構造不完全の爲見るかげもなくあはれな姿に全潰してゐる。（第47・48・49圖寫眞參照）



第52圖　屋根瓦の地震動による滑り

大塲民家の被害（第50・51・52圖寫眞）

韮山

韮山小學校

本小學校は新舊校舍よりなり校舍は皆東西に長く建築されてゐるので今回の如く南北の地震動を受け其の大部分を無慘にも倒潰せしめたものである。其の中新築の校舍及關東の大震災の節多少傾斜した建物を修繕し屋根瓦をとり鐵板葺きに改めたる校舍と二階建造本館とが倒潰を免れたのである、併し倒潰を免れたものにても今後の使用到底不可能までに害を蒙つてゐる、今次の地震が今少しく遲く授業中ならば幾百の兒童が校舍の下敷となり悲慘なありさまを呈しただらうと思ふと身の毛も竦つ思ひがする

二階建校舍は柱と梁、梁と根太等の取付け充分ならざりし爲其の部分が皆離れて二階の廊下等は第53・54圖寫眞の如く不安な姿を表はしてゐる。それに反し其の校舍の最東端にある地理教室は電柱大の丸太にて筋違を施して



第53圖（本館二階廊下韮山小學校）



第54圖　本館一階廊下（同上）



第55圖　本館外觀・玄關倒潰す（同右）

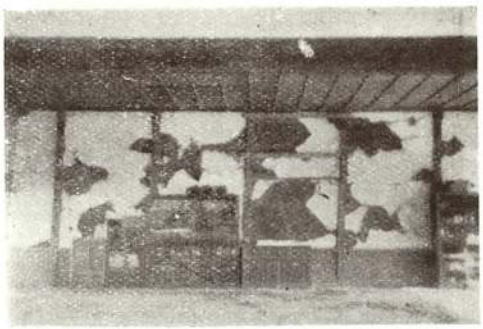
あるので差少の傾斜もなさず舊位置を完全に保つてゐる、西端にも階段室があり丈夫なる壁があつたのでこの部分も傾斜せず其の中間は教室にて水平力に對して抵抗力が少さいので皆相當傾斜をなし校舍全體を見る時にはくの字形に傾いてゐる。（第53・54圖寫眞）



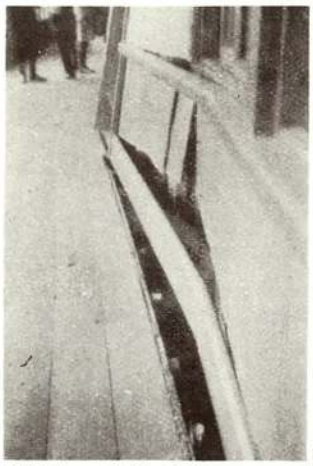
第60圖　玄關の上階部（同右）



第56圖　韮山小學校



第61圖　壁の龜裂



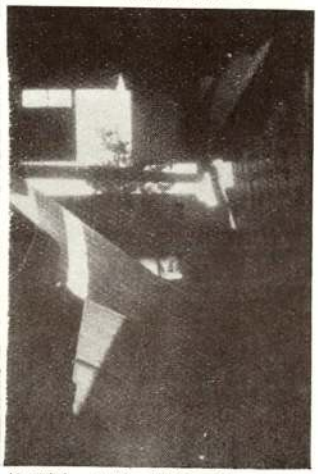
第55圖　二階廊下（同上）



第57圖　二階廊下（同上）



第62圖　韮山小學校の全潰校舍



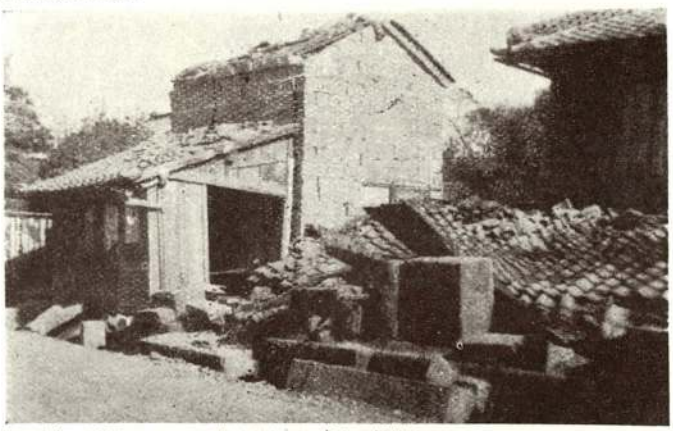
第59圖　玄關天井（同上）



第63圖　韮山小學校倒潰校舍

四日町

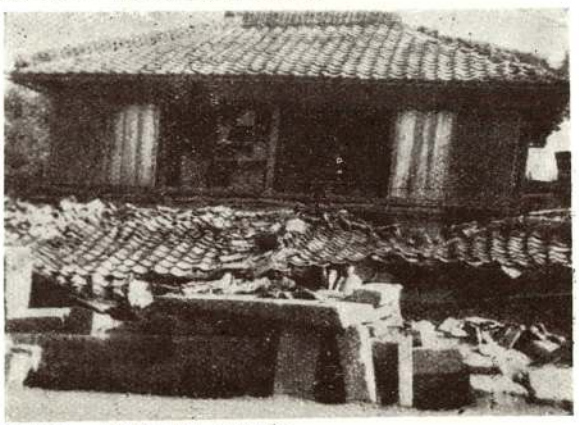
無慘に倒壊したる韮山小學校をあとに再び下田街道に出で四日町に來る、此附近相當に家屋の倒壊したるものあるも大場、韮山附近とあまり異りたる家屋構造もなかつたので車をまつしぐらに古奈、長岡の溫泉町に走らす、其の途中第64・65圖寫眞の様に石積の土藏や民家の被害を見る事地震地方一帶の風景と異らず、この石積土藏にて見れば明瞭なる如く、石と石とを完全なるモルタルにて接合せず簡單に石灰モルタルにて積み上げたる爲石積構造である塀、家屋等とともに本土藏も相當の被害を受けたり。寫眞土藏に見る如く倒壊を免れたるまでも來なくなつた構造物がこの邊一體に澤山見受けらる。



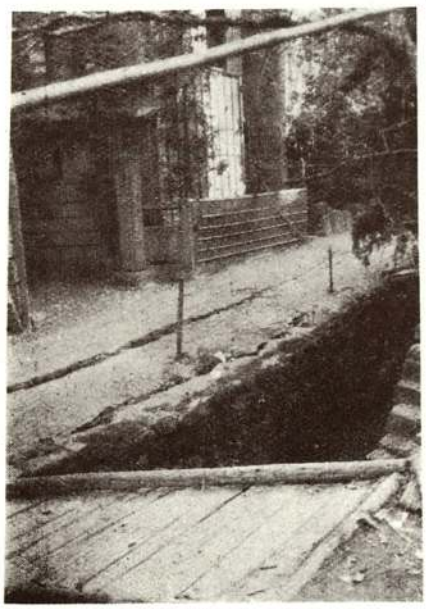
第64圖　石灰モルタル積土藏の被害（四日町）

古奈　長岡

古奈、長岡溫泉附近は割合に被害大にして二階屋の倒壊して完全に一階屋となつたもの、石屋が倒壊し其の結果家屋の倒れたもの等數限りなく見受ける、長岡溫泉にて三階建のさかなや旅館のみは新築間もなくであり柱材も相當丈夫なるものを用ひてゐたので輕い被害を被つたのみにて別に大した損傷を受けなかつた（第67圖寫眞）



第65圖　二階屋の被害（四日町）



第66圖　土の塊狀破壞による路面の龜裂

かく接合部が離脫して使用の目的を達する事が出來ない。

古奈、長岡の町を出て一路修善寺の方に車を進める途中、昨日名



第67圖　大なる被害を受けなかつたさかなや旅館（長岡）



第69圖　から積石崖の倒潰

古屋驛にて仕込んだ洋食辨當を車上にて平らげ、午后二時頃漸く空腹を滿たす、右に大きな山潰れ、左に岩の轉倒したものを眺め、地震當時のそれらの運動を腦裏に畫きながら漸く保てる樣な氣のする狩野川の大鐵橋を渡り、しばらく行くと



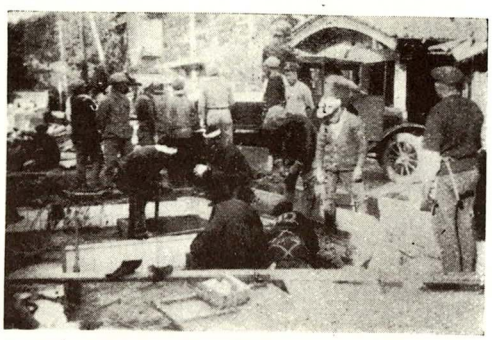
第70圖　石塀の倒潰（長岡）



第68圖　二階建家屋の倒潰



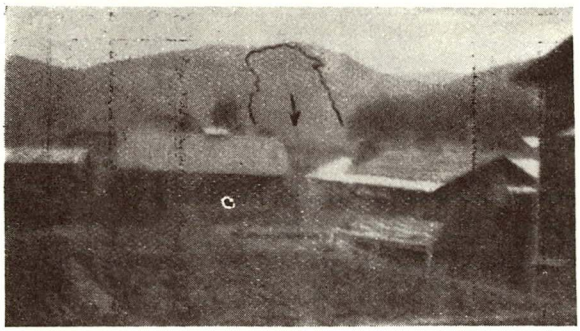
第71圖　電柱により倒潰を免れたる民家（長岡）



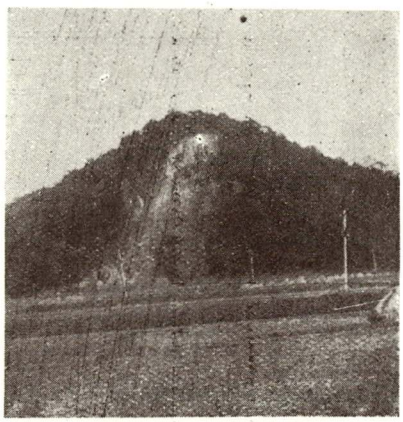
第72圖　温泉場の掃除（長岡）

修善寺驛附近に達す、長岡を出てより南下するに從ひ震害の程度小にして修善寺驛附近には輝かしい陽光を受けて子供達が農家の椽側に三四人何事か樂しげに遊んでゐる景色を見ては今まであの恐ろしい震害地を訪問して來た身とは思へない。修善寺驛より直ちに修善寺には行かず今しばらく南下して狩野川を眞黄に染めてゐる大山潰れの光景を視察に行く、南下する事約四キロにして大平に達す、大平より南東に標高四百六米の山頂より麓に亘りての大山潰れを眺めて吾々一同は其の規模の大なるに唖然たる姿である、土地の人に聞くと大きな唸と同時に大音響を立て山潰れをなし其の土は狩野川の大流を一時堰き止め爲めに其の地點より下流八里駿河灣に至るまで黄色に濁つてゐる。

大平よりこの大山潰れを見て直ちに車を廻して今日の視察の最終地修善寺に向ける、修善寺驛より修善寺に至る約一里の道は上り道であつて桂川の谿流に沿ひ、紅葉滴たる木の下を潜りて進めば時ならずして伊豆地方屈指の温泉町に着く。



第73圖　大平の大山崩れ



第74圖　長岡附近の山崩れ

沼津驛前にて耳にした話では修善寺は桂川に沿ふた町であるから地震と同時に兩岸の家は河中に落ち全町全滅であるとのことであつたが來てみれば聞くとは異り修善寺町の一部が修善寺奥の貯水池の決潰の爲其の流水により流下したのみにして他は差少の損害も蒙らず

しかしこの流水の通りたる所は實に悲慘にして二十二名の生靈が水と共に消えうせたとの事である我々はしばしこれ等の靈に哀悼の意を表し本日の視察を終る。

沼津を出る時今夜は刈り取られた藁の上に三人枕を並べて長岡附近にて寢る事と覺悟してゐたのに途中うまく自動車を得、其の爲に途中震災地を充分に視察する事が出來、其の上修善寺は被害なく温い湯にしたつて今日の勞れを充分慰する事が出來る。

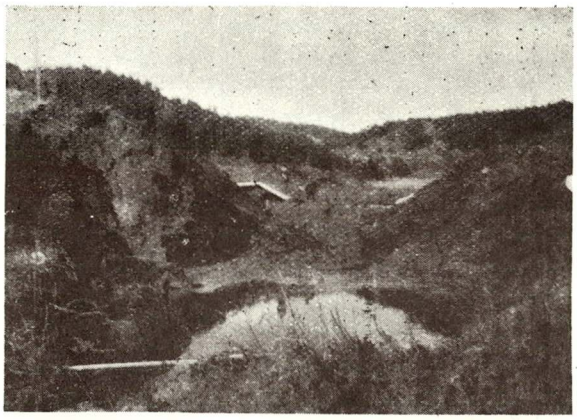
十一月二十九日　晴

修善寺

午前七時修善寺奥約一里の貯水池の決潰場所視察に宿の案内を得て行く、途中修善寺に詣づ



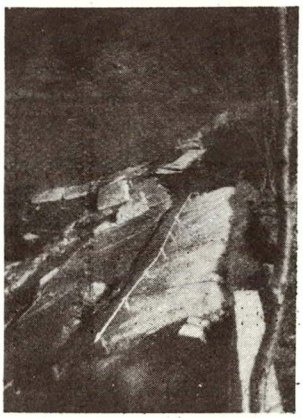
第75圖　上の池の決潰場所（修善寺奥）



第76圖　修善寺上の池の決潰



第80圖　水の通つた跡川の如し（修善寺町）



第77圖　同上



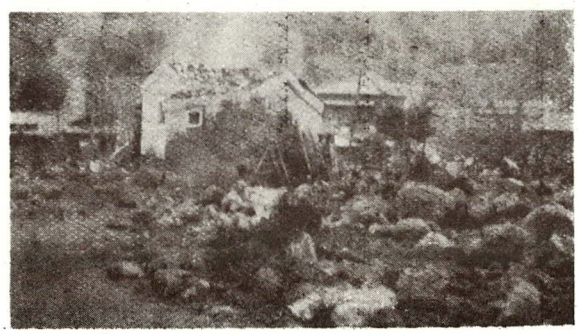
第81圖　修善寺町にて水の桂川に落ちた所

石燈籠の倒壊せる所を見るとこの附近も相當震動したらしい。

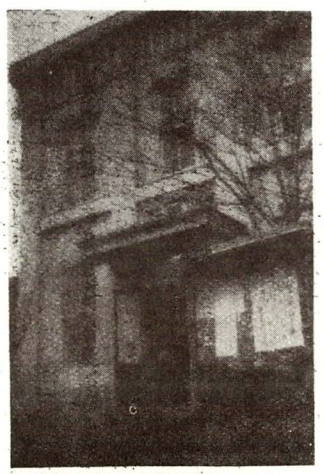
決潰せる池は上下二ヶ所で下の池は小さく上の池がやゝ大きい、共に今年出來上つたものであつて先づ地震動を受けて上の池の堤防にゆるみを生じ其の爲水が其間を通りて漏れ初め、地震後三時間ばかりした午前七時頃どつと一時に決潰して池の中の水が道路に沿ひて流れ下の池に來り、其爲下の池の堤防を破潰し終に桂川に落ちる所に於て郵便局に害を與へ、民家を河中に落し大慘狀を呈したのである、下の池附近の民家二軒の中一軒は押し流されて其の行先が不明であるとの事である。又上の池に浮んでゐた船は一里も下に破壊されたる船底を殘



第78圖　水害を受けた農家（修善寺奥）



第79圖　河原と化した修善寺町



第82圖　修善寺郵便局



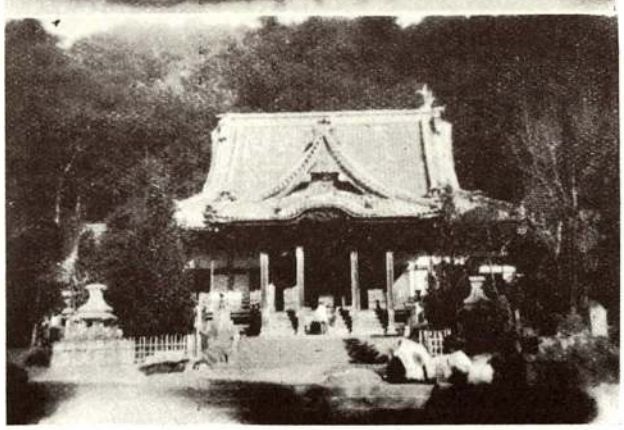
第83圖　修善寺風景



第84圖　同上



第85圖　同上



第86圖　修善寺

してゐる、押流さるゝ事を漸く免れたる人の話では流下する水の深さが一丈程もあり、物凄いものであつたとの事である

決潰したる上の池の堤防はと見るに土を單に積み重ね內側は其の上に厚さ約五寸ばかりの非常に悪いコンクリートを打ち外側は芝を植えてあつたものらしい、この芝も植えて間もなくであつたから充分根もつかず其の上、內部のコンクリートはお話にならない程悪く破壞後の狀態を見れば必ず後程問題になりそうなものである。

歸路池の水の通りたる道を辿りながら山を下れば水勢の如何に甚だしかつたかを思はしむるに充分なる證據を所々に見受ける、大きな松の木が根こそぎ押流されて根の堅固な木にひつかゝつて止り、又は道路より相當高い所の草木が下流の方に向つて倒れて居るありさま等當時を眼前に彷彿たらしめる。修善寺町に着くと家も道も何の區別なく大きな石が横り、河原の様な慘狀である（寫眞參照）

水害に遇ひ困つてゐる人々にリユツクサツクの中のパン、サンドウヰツチを全部與へると非常に嬉んで一家族皆門前に出てお禮を申されたのには一寸赤面した、この光景は我々震災調査隊變じて震災地慰問隊となるの感がある。

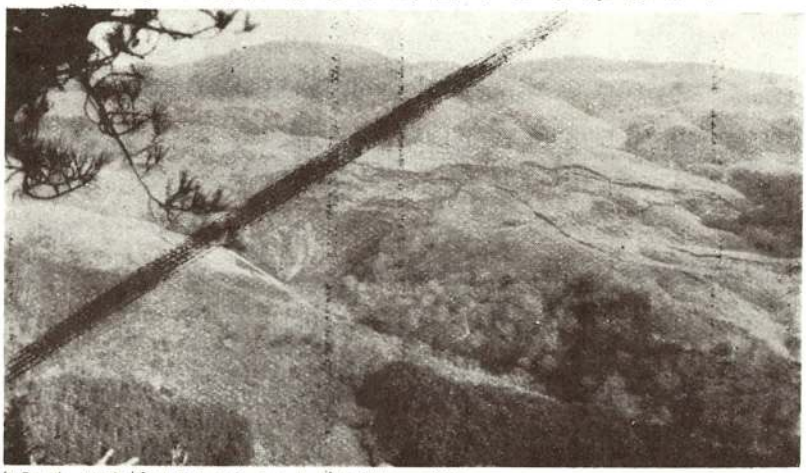
修善寺より乘合自動車にて三島に向ふ、昨日通りたる震災地を再び訪れ、車中より罹災民の復興に對する努力を再び見て何とも云ひ知れぬ感に打たれる。晝前三島に着く、直ちに車を雇ひ箱根に向ふ車中宿にて作つてもらつた、にぎりめしに舌つゞみを打ちながら倒潰家屋多き山田、塚原新田、市山新田、三ツ谷新田、笹原新田を通り山中新田に達す、途中斜面を切



第87圖　震害甚だしき箱根町

箱根街道

山中新田より南東熱海峠の方を見ると地滑りの爲山腹に大きな横縞を見る（第89圖寫眞參照）この下方馬坂にては山崩れの下に一家五人と馬諸共生埋めとなり無慘にも死に至らしめた所がある。双眼鏡にて下方を見ると青年團、軍隊が多數死體を堀出中である。其の山崩れのすぐ隣りには青いなつばが畑に陽光を充分受けて輝しく見えるが其畑も昨日まで此家の人々が手入をしてゐたがと思つて眺めると主なき畑よ今後如何にすると云ふ様な感じがする。



第88圖　山中新田より見たる大山滑り（箱根街道）

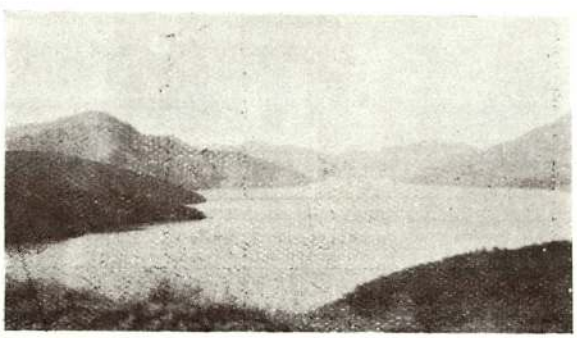
こゝにても數人の靈に哀悼の意を表して車を箱根に進める、峠を越えて相模灣の見える位置まで來ると芦の湖が藍色に光つてゐる、左には富士の姿が白雪を頂いて震災地に君臨する女神の如く雄々しく見える。九十九折に曲折する道を少しく進むとやがて箱根の町に着く。



第89圖　箱根街道の龜裂



第90圖　箱根街道石壘の被害



第91圖　芦の湖

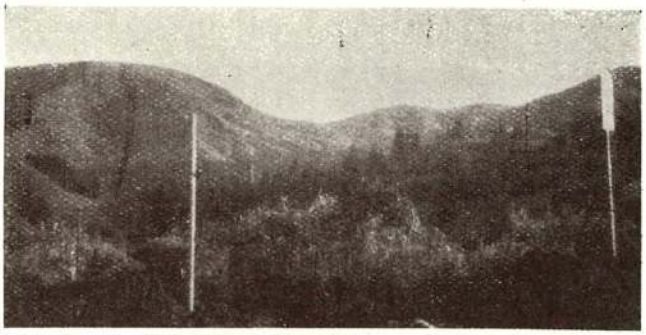
箱根町

萬福寺

三島の方から箱根町に這入つて間もなく道路の右に萬福寺がある。この寺は上の方の山崩の土が二十町程も流れて來てこの寺を完全に被ひ寺の前の松の密林にて漸く止まり箱根町の民家の附近まで來るのを防いだが萬福は寺の姿を少しも認むる事が出來ない、只だ青年團、軍人等が寺の位置に相當する所を堀つてゐるのと、此下に萬福寺ありと云ふ意味を表はしたる立札がある



第92圖　萬福寺を埋めたる土の河（箱根町）



第93圖　この下に萬福寺あり（箱根町）

のと、この二つにより其の存在を僅に示してゐるに過ぎない程である。この寺にても僧が一人生埋めとなつたそうである、堀出作業の傍には白木の棺が靜に置いてある。

萬福寺のすぐ南側に本還寺がある。この寺は埋沒は免れだが土の爲本堂全壞、庫裡大破、墓地埋沒と云ふ悲慘な狀態である。

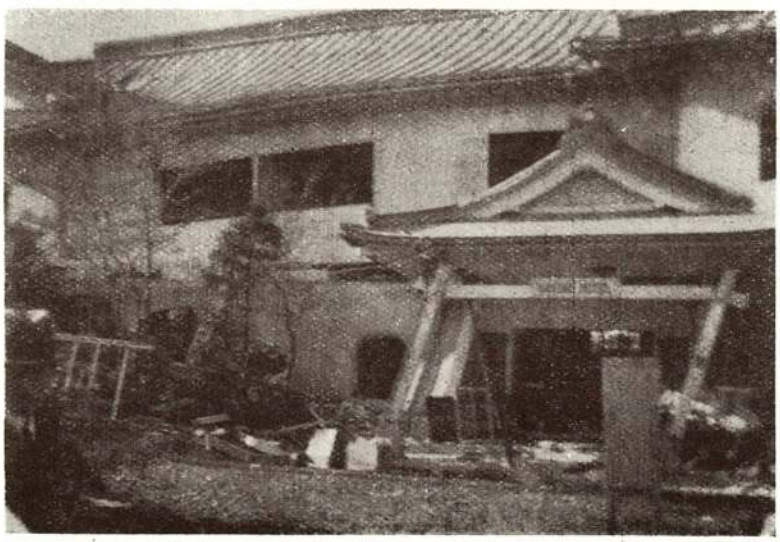


第94圖　萬福寺の堀出作業（箱根町）

箱根ホテル

本ホテルは一階鐵筋コンクリート構造二階木骨構造と云ふ極く珍らしい建物である。今次の地震により大なる被害を受けて再び使用不可能と云ふまでに大破してゐる。

本構造被害の要點は鐵筋コンクリート構造の部分は其の配筋よろしきを得ず、即ち柱と梁の取り付け部分に於て柱の鐵筋は梁と少しも連結せず、又柱の主筋は柱に緊結されず爲に地震と同時に梁は柱より切斷されて下に落ち、其の上に二階の床が落ちたのである。次に第二の被害位置は、鐵筋コンクリートと木骨部との連結不充分なる爲二階全體が一階より離脫して四尺程水平に移動してゐる　この構造物を見るに鐵筋コンクリートの上に土臺をAnchor Boltにて



第95圖　箱根ホテル正面玄關



第95圖　二階が一階の中に落ち込んでゐる

完全に緊結し、其の土臺に柱を所謂日本住宅の様にホゾにて簡單に入れたのみにてこの柱と土臺との結合充分ならず、故にこの部分が離脫したり、ホゾが破潰した爲めかくの如き大損害を蒙つたのである。以上二つの被害さへなかつたならば寔眞に見る如く他の部分は少しも損害を被つてゐないから今回の地震に對しては何等被害を蒙るべき建物ではなかつたのである

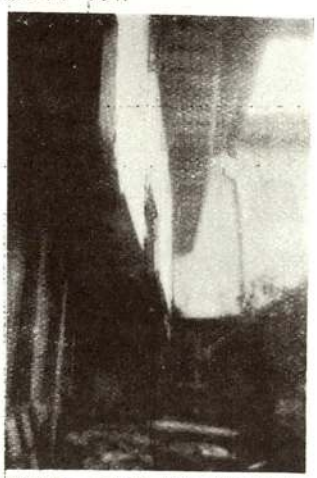


第97圖　同右

この構造と神戸高工の本館とは同じ様な構造であるので若し地震により破潰する事があるとすれば



第99圖　箱根ホテル



第98圖　二階が水平に四尺程移動してゐる

かく倒れるかと思つて本ホテルを見ると自分の死骸を目前に見る様な心地がして身の毛も竦つ思ひがする。



第100圖　二階が一階の中に全く入り込み丁度一階の様に見える

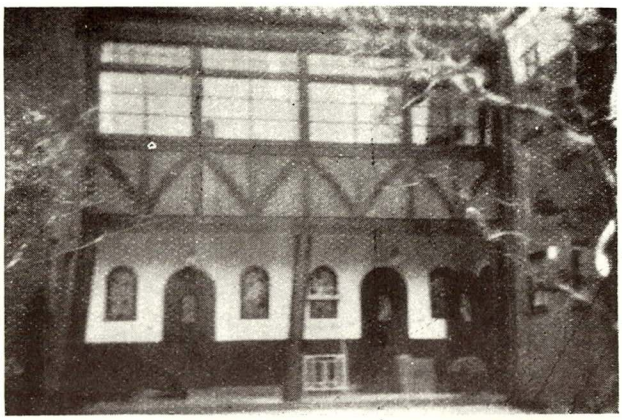
某氏別邸

本別邸は芦の湖に面して建てられたる木骨造洋風建築にして、平面も四角形に近く構造堅固にして他地方建築物の被害狀況より見て

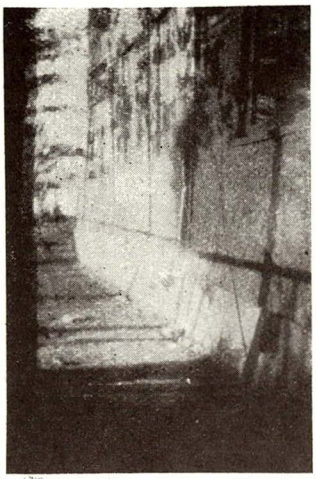


第101圖　同ホテル石炭庫の被害

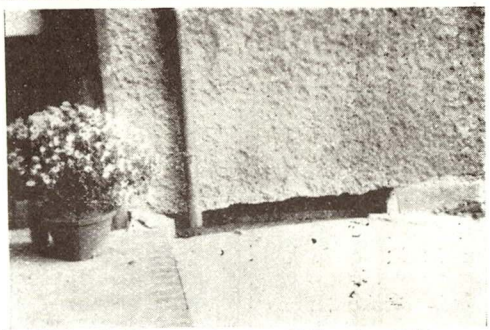
今次の如き地震に對しては何等損傷を受くべき建物とは認められない、然るに柱は傾き壁には龜裂を生じ床は凹凸甚だしく部屋の中は亂雜に亂れ器物は倒潰して破損し相當の被害を受けてゐる。この原因は何處にありや、と建物の內外を見るに、地業完全ならず軟かき自然土の上に幅五寸高さ一尺ばかりの質惡しきコンクリートを建物の外周及內部の一部に設けたるのみにて基礎と思はるゝ何物をも發見する事が出來ない、この貧弱なるコンクリートの上には堅固なる建物が乘つかつてゐたのでこのコンクリートが轉倒したり、傾斜し



第102圖　箱根某氏別邸の被害



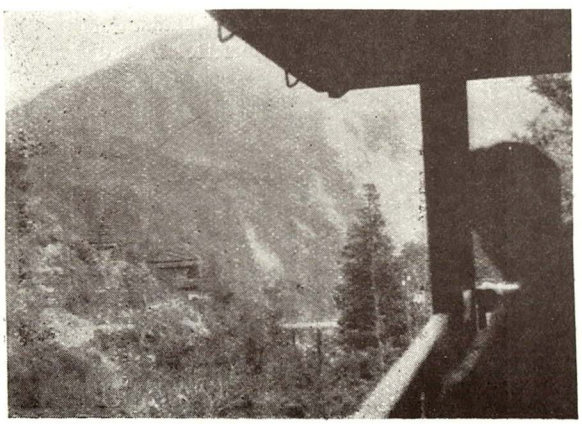
第104圖 基礎コンクリートの傾斜



第103圖　基礎コンクリートの倒壞による被害



第105圖　箱根郵便局



第106圖　底倉（無被害）

たりして思はぬ不幸を召致したのである。今若し此建物にして基礎を充分完全にし置くならば何等損害を蒙らずに濟んだ事と思はる。

地震後家主の命を受け視察にこられた人は『主人は今日箱根に行つて同地方の被害狀態を見、今夜はこの別邸にて一泊せよ』との事であつたが一泊どころか危なくて家の中に居る事すら出來ない、と語つてゐる（第102・103・104圖寫眞參照）

箱根郵便局

本局は完全に倒潰したので隣りの空地に直ちに交換臺を据ゑ付け多忙な電信電話の事務を取扱つてゐる道路は要所要所を掘かへして電話線の復舊工事を急いでゐる。

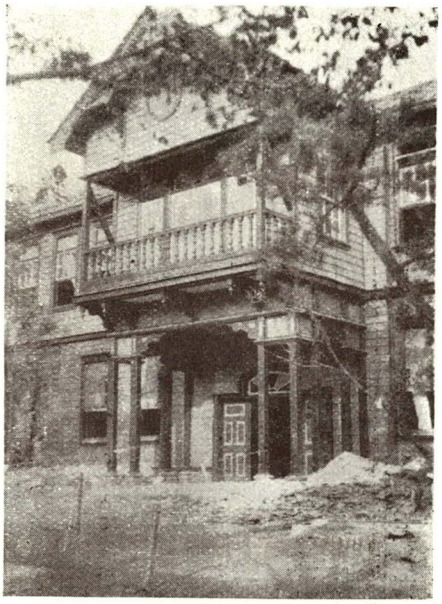
箱根町と三島町に於ては侍從の御差遣に接し有難き聖志に罹災民一同と共に感泣す。

箱根の視察を終へて同地を去る頃は漸く日も西山に沒する時刻であつた、美しくタ日をあびて輝く芦の湖の秀麗なる景色と倒潰したる箱根町とは少し不調和な對照である、車は曲折したる山路を辿りつゝ今夜の宿所底倉に着く。

こゝにて歸神さるゝ永澤教授と別れ同行二人となる箱根地方は箱根、元箱根に相當大なる被害を受けたが箱根、小田原間の芦の湯、小涌谷、底倉、宮の下、堂ケ島、塔の澤及湯本には大した被害はない。

十一月三十日　晴

朝早く底倉を出で小田原に車を飛ばす、小田原は無被害にして何處に地震があつたのかと云ふ樣な顏付きで人々は働いてゐる、我々がリユクサツクに卷ゲートルと云ふ扮裝で町を歩くと不思議そうな目つきで子供達が我々を向へる、十時半



第107圖　熱海小學校屋根瓦壁等に被害があつた

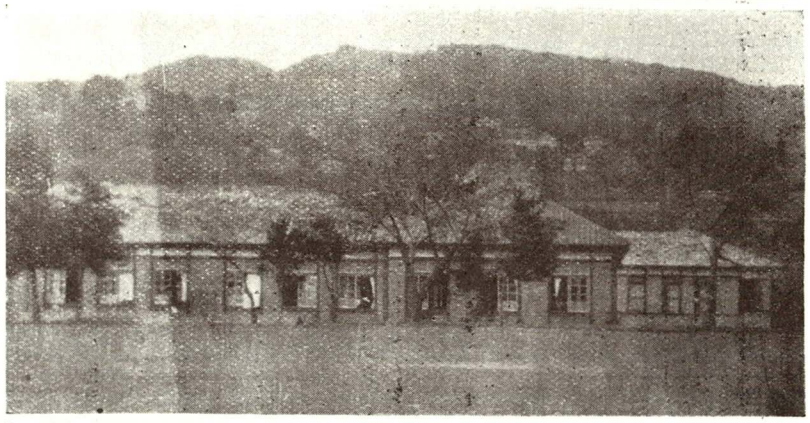


第109圖　熱海小學校教員官舍倒壊の跡

の列車にて熱海に向ふ。

熱海町

熱海町にて最も被害の甚しかつたのは驛前附近にて溫泉町の方は少しも害を蒙つてゐない驛前附近に於て最も悲慘なのは新聞等に詳しく報導された熱海小學校教員舍宅である、同舍宅は後に高い貧弱なるコンクリートの崖があつたので其崖が倒潰し其の下敷となり



第108圖　熱海小學校屋根瓦の被害

數名の教員が無慘の死をとげたのである。この附近石崖の倒潰數限りなく又面白いのは小さいお宮が其の石積土臺の上から一間半ばかり海の方に飛び倒れてゐる事である、これは石積土臺より轉倒したものでなく一間半ばかり一度に飛んだものらしい樣子が明瞭に認められる。

丹那トンネル

本トンネルは熱海町の西端に東口を有し、函南村の大竹附近に西口を有する延長東西十キロ餘に亘る大トンネルにして難工事の點に於て日本一、否、世界一と云はるゝものである、現在までに七星霜の日月と二千萬圓の巨費を投じ其の大半を貫通し餘す所僅かに一キロ程であるが完全に貫通するまで



第111圖　熱海小學校內（本文參照）

には普通のトンネルならば半年程にて貫通するも本トンネルに於ては尚幾星霜を要するか不明であるとの專門家の話を耳にするだけでも如何に其の工事の至難なるかを察知する事が難くない。

本トンネルは今次の丹那斷層の外に幾十となく大小の斷層があり掘つては潰れ掘つては潰れる爲特殊の工事法を施して工事を進めるゝとの事である。

我々一行は鐵道省の方の案内にて十噸びき電氣機關車に乘り滴る水滴を浴びながら暗黒の世界に時



第110圖　石がけの倒潰（熱海）

速十哩の速度にて進む、前方を見れば物凄いまでの暗闇、後を顧れば一點の陽光が暗黒の中心に輝くのみにて、不安の念早鐘の如く胸を打つ、トンネルの右側には換氣用の直徑一米程の大きなパイプが萬里の長城の如く左側にはセメント吹込作業に必要なる二百ポンド壓力を有するパイプが隧道壁に沿ふてゐる、同乘者數名の顔は暗くして見る事は出來ないが機關車が進むにつれて約二十間毎に設けてある電燈の附近に來ると其の明りの爲にかすかに人々の顔が間歇的に闇の中より現はれては又消えるので一層物凄く未だ見ぬ地獄に首を突込んでゐる樣な心地がする。

電氣機關車が相當早く走つてゐるのか水滴がポトリポトリと顔を打つ。東口より二キロ半ばかりの所にて車を捨て案内に從ひて進むと暗闇の中に家がある、これはトンネル内の人々の事務所であるらしい、尚進むと、十間程側壁のみ既に出來たが天井の部分が出來ないので特殊方法により施工をしてゐる所に着く、噫無情の下水道の中の樣な所を足早やに十間程過ぎると又大きな完成されたトンネルの部分に出る。

この奥尚二キロばかりは工事が



第112圖　同右



第113圖　丹那トンネル東口

出來上つてゐるのであるが、これから奥は危險にて身の保證を致し兼るから案内御免との事である。

この十間程の工事場を見ても其の作業の大規模なのに一驚する。空練りのコンクリートに水を加へ二百ポンドの壓力にて大音響と共にパイプを通じて送り打ち込む光景は筆舌にはあらはし得ない。

この附近に丹那斷層の影響を受けて生じたる水平斷層あるを案内の人から指示して戴く、見れば既に出來上つたコンクリート・ブロツクの大馬蹄形隧道の壁及天井に五糎程の水平の喰ひ異いが出來て

ゐる。この内部には尙ほ其の大なるものあり其爲土砂倒潰し工夫數名生埋めになつたかの様に聞く、これ等の被害を詳に視察してトンネル内事務所の所に來ると、内部の使用濟木材をトンネル外に持ち出す爲丁度電氣機關車が出るとの事なので早速その車に同乘し、半時間餘の地獄の見學を終り輝く太陽の顔を見る。

那丹屬斷（丹那盆地）

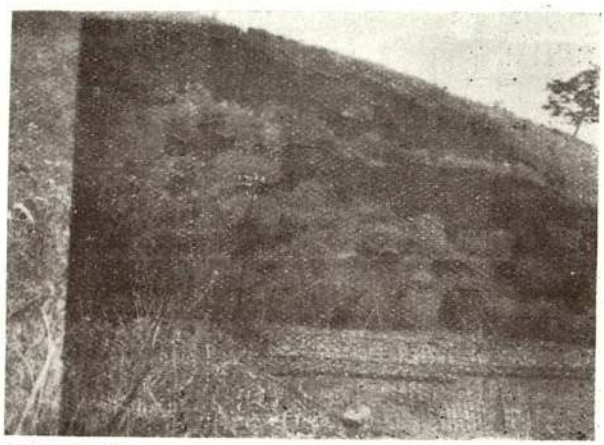
丹那トンネルを出たのが午後二時、遲まき乍ら晝食を濟ませて今次視察の最後である震源地に車を走らす。車は熱海沼津を通ずる熱海街道を走り、熱海の町を過ぎて間もなく百卅三米五七の水準標に達す此邊に來ると相模灣の初島が繪の様に浮んでゐるのが見える。尙一キロ程にして二百九十八米六一に達し、次には四百四十九米二一に達す、此附近よりは波浮の港にて有名な大島がかすかに見える熱海より四十分ばかりにして熱海街道に於ける最高點海面上六百十四米五六の熱海峠に達す、後を顧れば相模灣前には駿河灣、右には富士山と云ふ絶景である。この峠に來るまで道路に龜裂のある所、岩石の倒壞して道路を遮ぎる所等應接に暇なき程である。盛土、切取り等をして道を附けた所は必ず被害を受けてゐる、この街道は被害も最も甚だしく普通ならば一ケ月ばかり交通杜絶と云ふ有様であつたが軍隊の出動により三四日にして自動車の通行が出來る様になつたのであるとの事こゝにても軍隊の有難味を痛切に感じる、熱海峠を過ぎ、下り坂を二キロばかり進むと輕井澤に達す、この部落は丁度斷層の線上にあつた爲被害最も甚だしく大抵の家屋は倒潰したり、傾斜して使用の目的を達する事が出來ないまでになつてゐるが交通不便なる爲か三島地方の如く救援隊らしきものは何處にも認められない、たゞ村人が協同一致して各々復舊に努めて



第114圖　山崩れ（熱海街道）



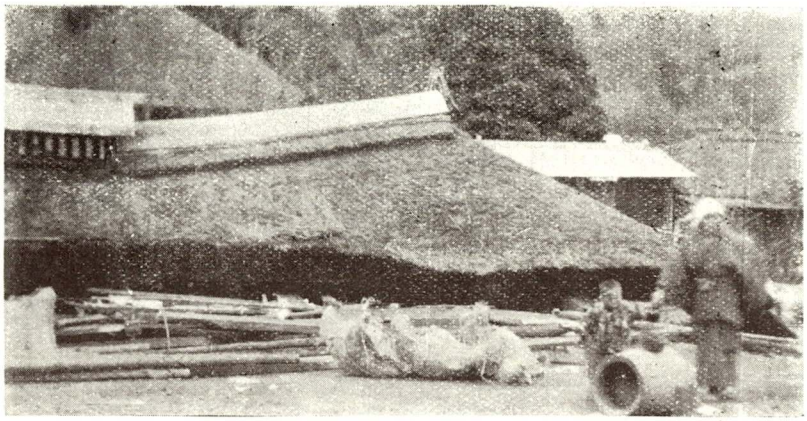
第116圖　熱海街道の被害



第115圖　同上



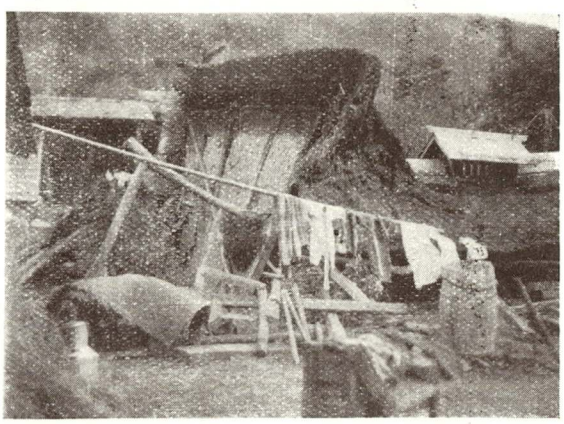
第117圖　熱海峠の被害



第118圖　斷層上の家屋の倒潰（輕井澤）

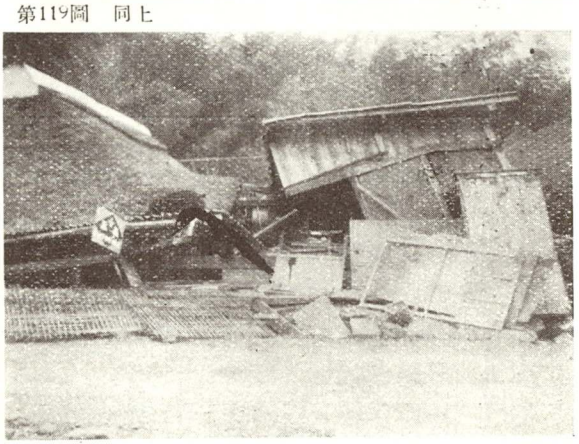
ねろ

斷層線上の某家屋は地震と同時に家屋が浮き上り其の瞬間の柱は内側に皆倒れ屋根は左右に少しも動かず、もとの位置に完全に落ちてゐろ、この附近では柱は折れず甚だしきものになりてはホゾすら折れず脫出するのみである、故に上下動により破壞されたるこれ等の家屋に今少しく土臺と柱、柱と屋根の構造物を完全に連結結合するならば今少しく被害を小にした如く思はる（第118119120圖寫眞參照）



第119圖　同上

輕井澤の南約二キロの地點が丹那盆地であつて此盆地の中央部を南北に今次の斷層が通つてゐる此附近では垂直の斷層より水平の斷層の方が甚しい様に思はれる。第121圖寫眞の様に刈取られたる稻田に大きな穴が南北に連續して見えるありさまは實に物凄い。此斷層は南は寫眞（第121126圖）の森の後方の凹んだ所を通つて遠く南方浮橋より丹那盆地を過ぎ北方芦の湖に達する實に八里に亘る大なるものである。



第120圖　同上

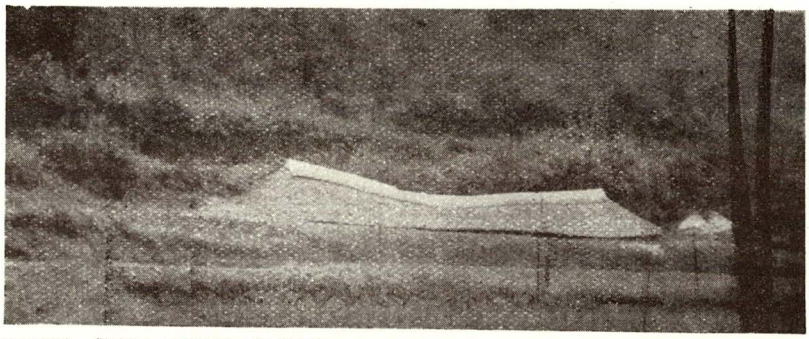


第121圖　斷層の一部（丹那盆地）

この斷層を最後に今回の豆相地方一帶に亘る關東震災に次ぐ大地震の震害調査を終へ車を熱海の町に走らせたのが日沒近くであつた。

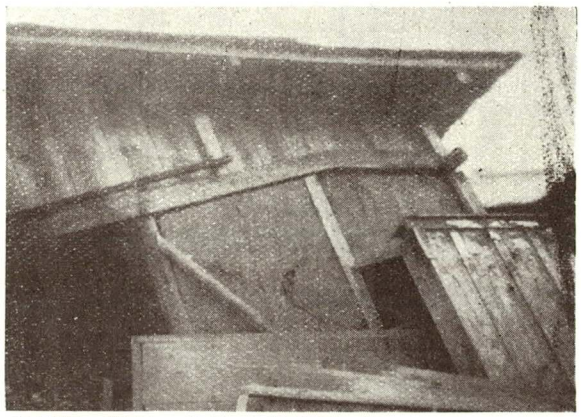
◇

之を要するに今回起りたる豆相の地震は同地方の人々にとつては非常に同情の念にたへざる所なるも建築的に之を見ればたゞ二三倒潰しな

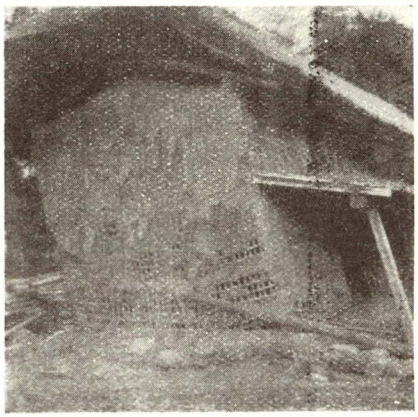


第122圖　斷層上の家屋(丹那盆地)

くても濟んだと思はるゝ家屋が隣家の倒潰の爲に禍を受けしものや少し不注意の設計が禍の因をなしたものはあつたが一般的に之を見れば當然倒潰すべき家屋が倒潰したのであつて何等不思議でも何でもない。倒潰された同地方を詳に視察してみると相當被害を受け今後使用不可能と思はるゝ樣な建物があれば必ず倒潰し又々悲慘な有樣を呈する事は火を見るよりも明である。かく見れば今次の倒潰家屋も大正十二年の關東地方の大震災の時一度倒れたものを再び建てな



第123圖　斷層上の家屋の倒潰(輕井澤)



第124圖　輕井澤土藏の被害

即ち柱は二階と一階の間に折れて四十五度も傾斜してゐるのを再び起し上げ姑息な手段によりて舊の光景をとゞめてゐる



第126圖　斷層線を表はす(丹那盆地)



第125圖　丹那盆地中央部に見ゆる小屋は丹那トンネルのボーリング位置

ほして現在に至つたものが今回の地震に逢ひ倒潰したものが多い様である。大場の間眠神社の如きは多分前の地震にて傾斜したものを支柱を施して補強したものが今次の地震にあひ、其の支柱が効を奏して倒壊を免れた様に思はれる。

今回の地震に就き不幸中の幸と思はるゝ點は地震突發の時刻が幸にも午前四時と云ふ夜間にて一般に火を使用してゐない時刻であつたので地震と共に常に起るべき火災の害を受けなかつた事である。この地震が今二時間ばかり遲かつたならば死傷の數と云ひ、損害の程度と云ひ、全く今次震害の數層倍になつた事ならん。

大正十二年の關東地方の大地震其の後、城崎、奥丹後の地震及今回の東相地方の地震等より見れば木造日本家屋の被害は皆二階と一階の中間に於て柱折れ、二階屋は一階屋となり倒潰してゐる、其の他相當倒潰の原因と思はるゝ點なきにしもあらずであるが、この過去の原因より今にして在來の日本建築構造の手法を今少しく耐震的に改良しなければ今後尚必ず起ると考へらるゝ地震に對するあの氣持の悪い悪寒を完全に除く事は出來ない。

之等日本家屋の耐震構造に關する手法に就いては震害のある度毎に誌上に或ひは講演會等に於てそれ〴〵專門家より述べられてゐるから今改めて説明するまでもない事と思ふ。要はこれ等の手法を實行する事にある。

我々建築に關する仕事に關與するものは一日も早くこれ等手法の普及實行に勉め、九千萬の同胞と共に我が國特有のこの一大慘禍の渦より免れる様に努力せなければならない。（一九三〇・一二・一五）

東京帝室博物館建築設計圖案懸賞募集に就て

財團法人帝室博物館復興翼賛會は東京帝室博物館本館の建築設計圖案を懸賞募集中でありますが、その梗概を參考の爲に掲げます、尚詳細は東京市麹町區丸ノ内一ノ二日本工業倶樂部内帝室博物館復興翼賛會事務所へ照會のこと

一、賞金　應募圖案は審査の上當選したるものの提出者（共同應募の場合は其の代表者）に左の等級に依り賞金を贈呈す

一等賞　金壹萬圓　壹名
二等賞　金七千圓　壹名
三等賞　金五千圓　壹名
四等賞　金參千圓　壹名
五等賞　金貳千圓　壹名

一、選外佳作と認むる應募圖案の提出者（共同應募の場合は其の代表者）若干名に對し各金壹千圓を贈呈す

一、締切　應募圖案は昭和六年四月三十日正午迄に東京市麹町區丸ノ内一丁目二番地日本工業倶樂部内財團法人帝室博物館復興翼賛會事務所に到達する様提出すべし

一、圖面及書類　應募圖案は左記の圖面及書類を具備することを要す

一配置圖　縮尺五百分ノ一
二各階平面圖　縮尺二百分ノ一
三立面圖　四面縮尺百分ノ一
四斷面圖（陳列室を含む）二面　縮尺百分ノ一
五詳細圖（主要部）一面　縮尺二十分ノ一
六透視圖ワットマン全紙大（約一メートル七十センチメートル位）
七説明書　半紙判大（二ツ折）

一、審査員

財團法人帝室博物館復興翼賛會副會長
侯爵　細川　護立

東京帝國大學名譽教授
工學博士　伊東　忠太

帝室博物館總長　大島　義脩

財團法人帝室博物館復興翼賛會理事　荻野仲三郎

大藏次官　河田　烈

京都帝國大學教授
工學博士　武田　五一

東京帝國大學教授
文學博士　瀧　精一

東京帝國大學名譽教授
工學博士　塚本　靖

東京帝國大學教授
工學博士　内田祥三

同
文學博士　黒板勝美

早稲田大學教授
工學博士　佐藤功一

宮内技師　北村耕造

東京帝國大學教授
工學博士　岸田日出刀

一、審査發表　審査の結果は昭和六年六月三十日迄に官報及び報知新聞東京日日新聞、東京朝日新聞、時事新報、大阪毎日新聞、大阪朝日新聞に發表し且つ受賞者に通知す賞金は審査の結果發表後十日以内に發送す

『建築と社會』昭和六年度特輯計畫

新年號（一月發行）
震火災と建築
保健と建築
小住宅（夏の卷）
郷土建築
建築事務
新興建築
小賣店・百貨店・市場
小住宅（冬の卷）
映畫館と劇場
建築と都市問題
高層建築

本年の特輯計畫を右の通りに定めました、特輯題目のうち御研究のものはどし〳〵御投稿下さい、歡迎致します、原稿の締切日は前の月の十八日です、尙二月は『震火災と建築』に就て特輯の豫定です。

『建築と社會』編輯部

本誌定價表

冊數	定價	郵稅
一冊	五拾錢	貳錢
十二冊	六圓	貳拾四錢

昭和五年十二月廿七日印刷（毎月壹回）
昭和六年一月一日發行（一日發行）

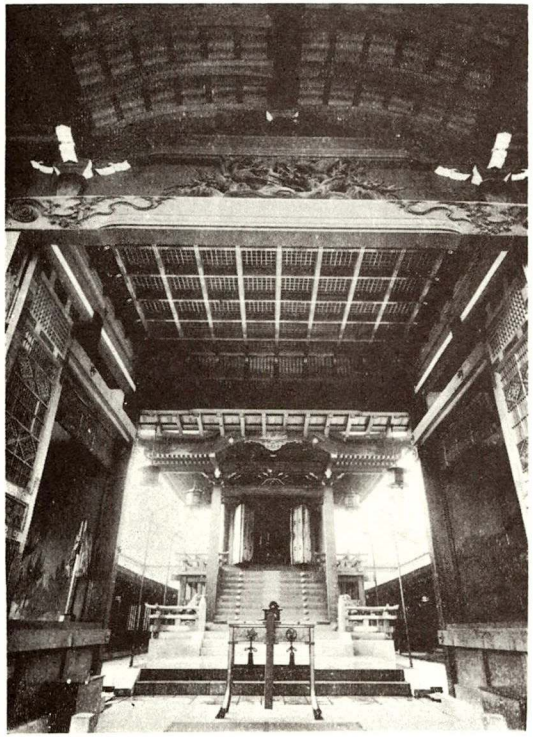
兵庫縣武庫郡今津町今津字浦風五十六番地
發行兼編輯人　鷹取陽

大阪市東區內淡路町一丁目七番地
印刷所　大阪活版所

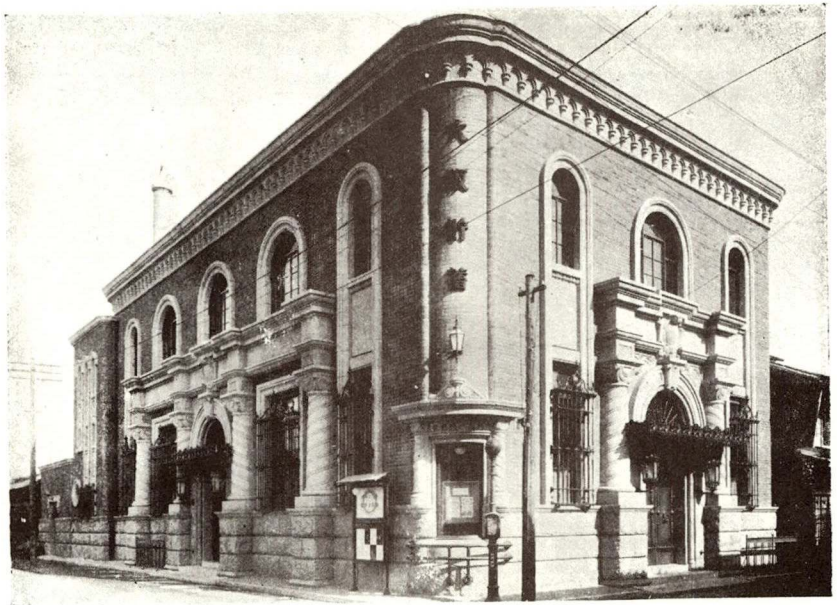
大阪市西區土佐堀通一ノ一
大同ビルヂング
發行所　社團法人　日本建築協會
電話土佐堀二四四〇番
振替口座大阪三九、九七五番

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話土佐堀二四四〇番
振替口座大阪二二〇八四番

御購讀の向は本會直接又は特約店へ振替又は爲替にて前金御拂込被下度候

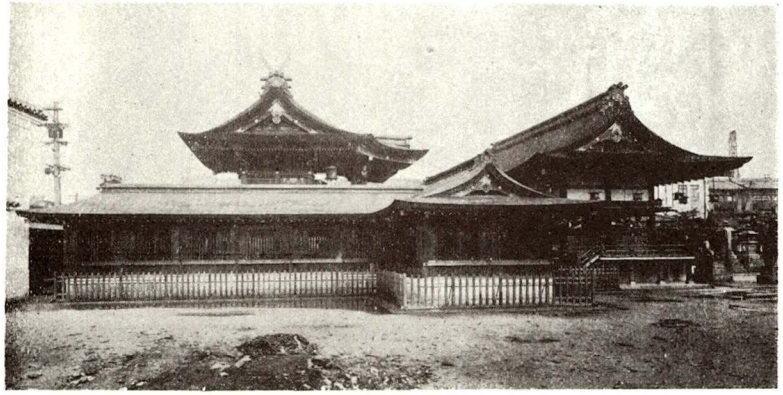


1　御靈神社向拜より本殿正面を望む

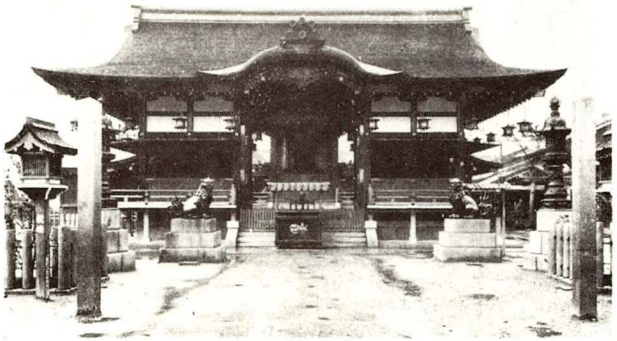


大阪貯蓄銀行南支店・竣工昭和五年三月・鐵筋コンクリート造四階建・工費十八萬圓
設計施工　竹中工務店

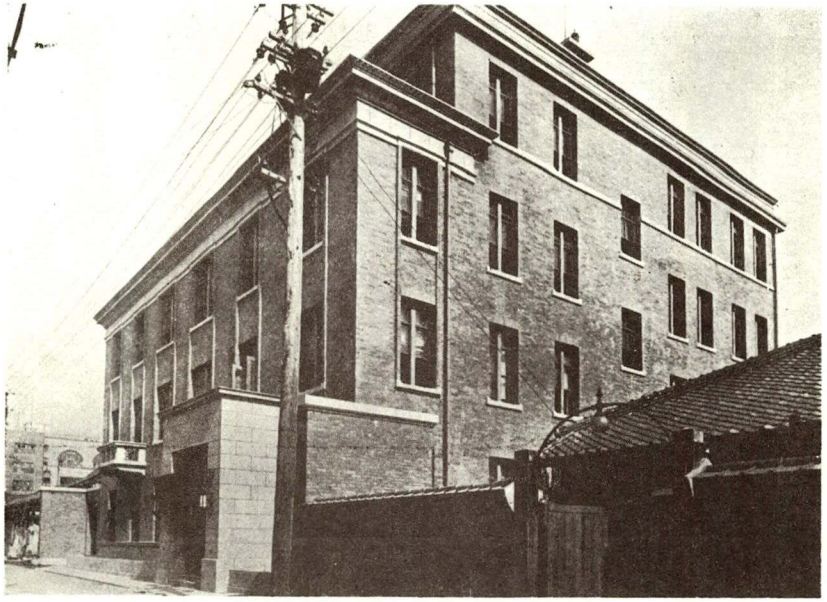
2　社殿側面



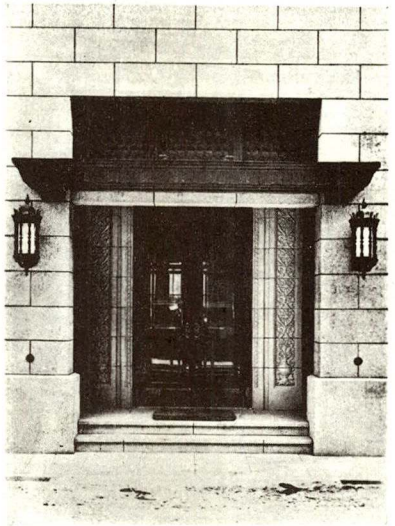
3　拜殿正面



1—3　大阪府社御靈神社社殿・竣工昭和五年五月・木造・設計建築士岡部顯則・施工清水組大阪支店



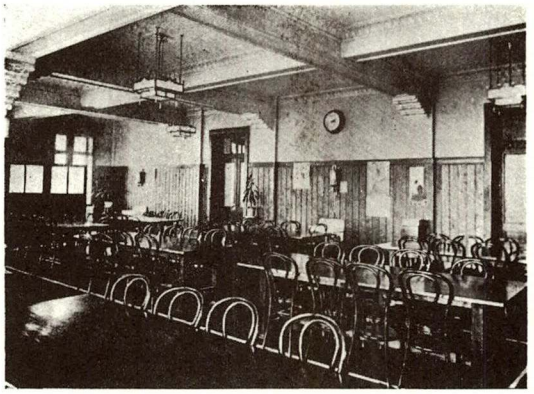
1 外　　觀



3 玄　　關

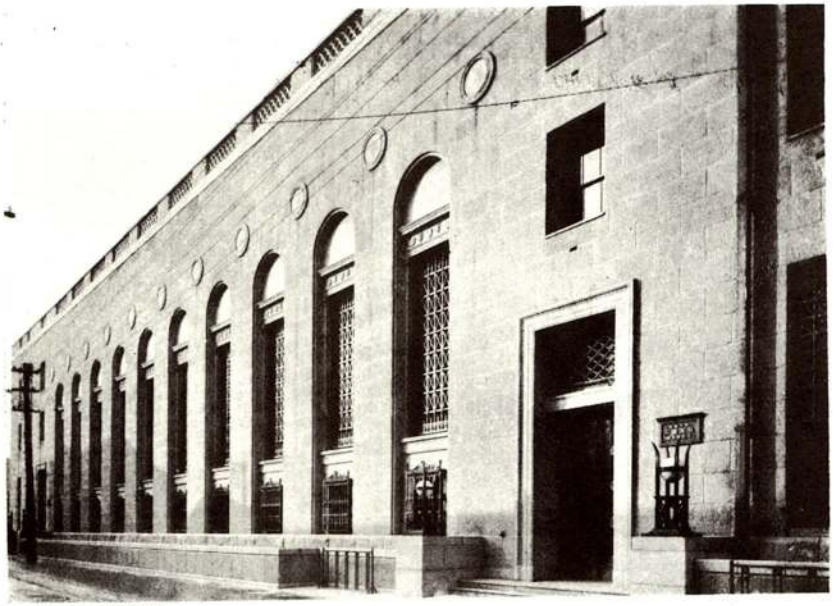


2 會 議 室

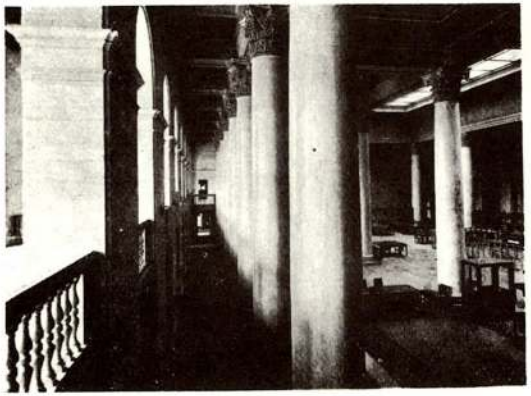


4 食　　堂

東洋紡績株式會社本社・竣工昭和五年六月・鐵筋コンクリート四階建・設計　東洋紡績株式會社營繕課・施工　大林組



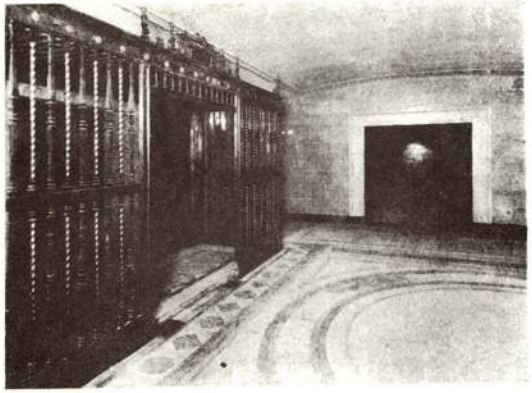
1　住友銀行外觀



2　同　營　業　室



3　屋上ベランダ



4　地階保護金庫前

住友ビルヂング　竣工昭和五年八月・鐵筋コンクリート造六階建地階付・設計住友合資會社工作部建築課・施工株式會社大林組



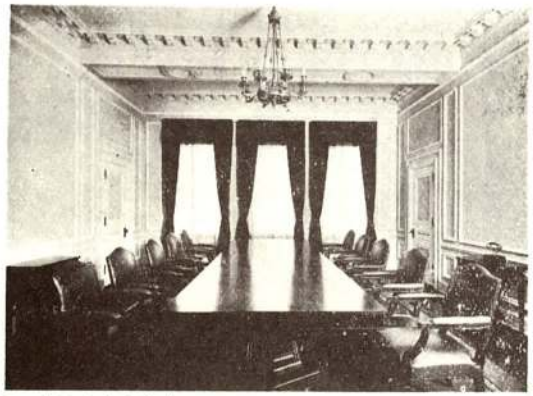
1 右近商事外觀



2 右近商事重役室



3 右近商事玄關

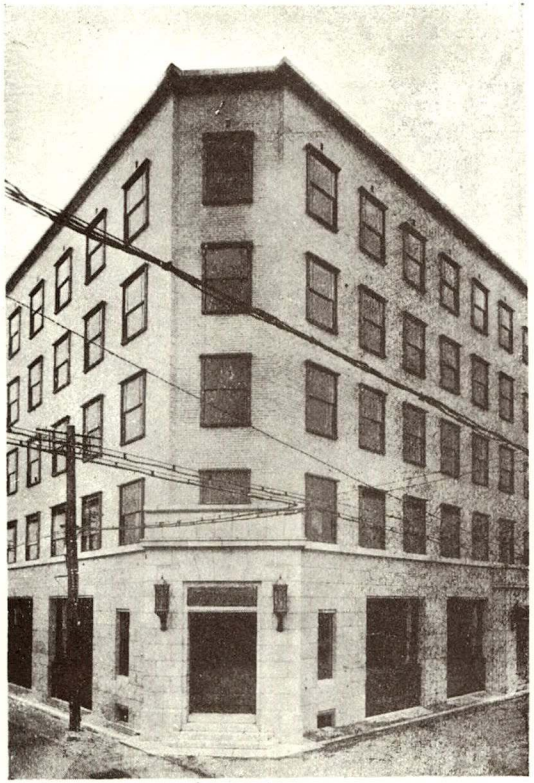


4 右近商事會議室

1—4 右近商事株式會社 竣工昭和五年十月五日・鐵筋コンクリート二階建地下室付・設計施工大林組



大阪貯蓄銀行北支店 竣工昭和五年八月・鐵筋コンクリート造三階一部地階付 工費十三萬圓・設計施工竹中工務店



三菱商事大阪支店　竣工昭和五年三月廿七日・鐵筋コンクート五階建外に地階一階付・設計三菱合資會社地所部・施工大林組



大阪貯蓄銀行堂島支店　竣工昭和五年十月・鐵筋コンクリート五階六戸・工費十七萬圓・設計施工竹中工務店



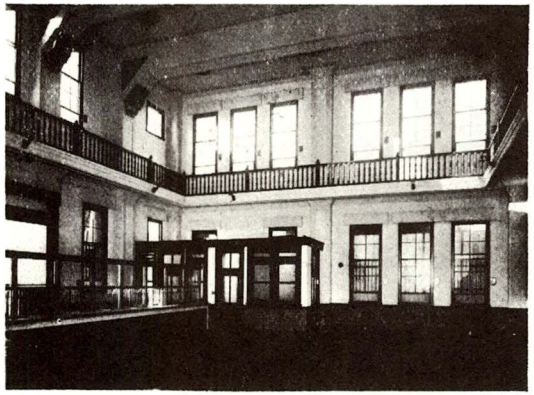
大阪貯蓄銀行北支店　竣工昭和五年八月・鐵筋コンクリート造三階建地階附・工費十三萬圓・設計施工竹中工務店



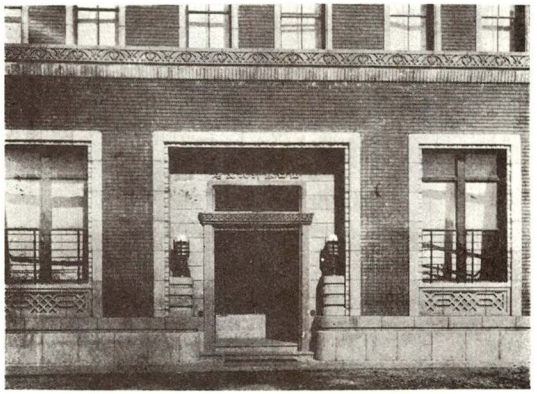
1　外　　觀



3　外　　觀



2　營　業　室

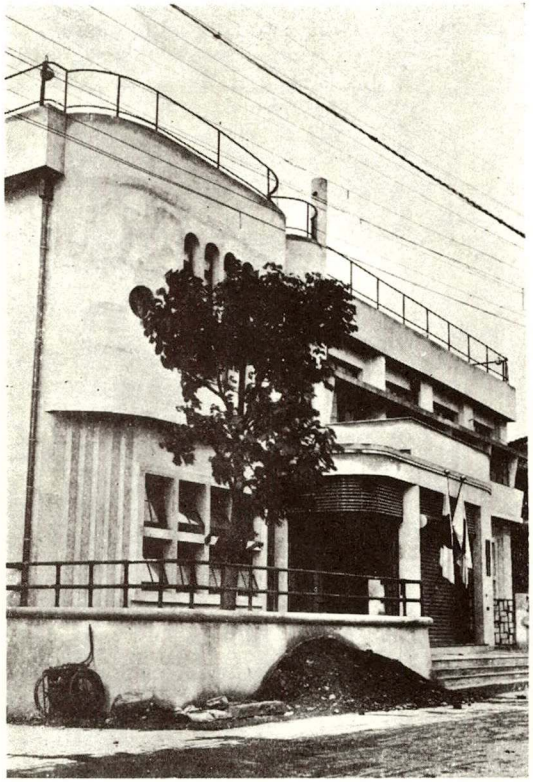


4　玄關詳細

1—2　株式會社三十四銀行大宮支店　竣工昭和五年十一月・鐵筋コンクリート造二階建
設計三十四銀行建築係・施工大林組

3—4　山口銀行北支店　竣工昭昭和五年九月・鐵筋コンクリート二階建・工費
十三萬圓・設計片岡・石本建築事務所・施工竹中工務店



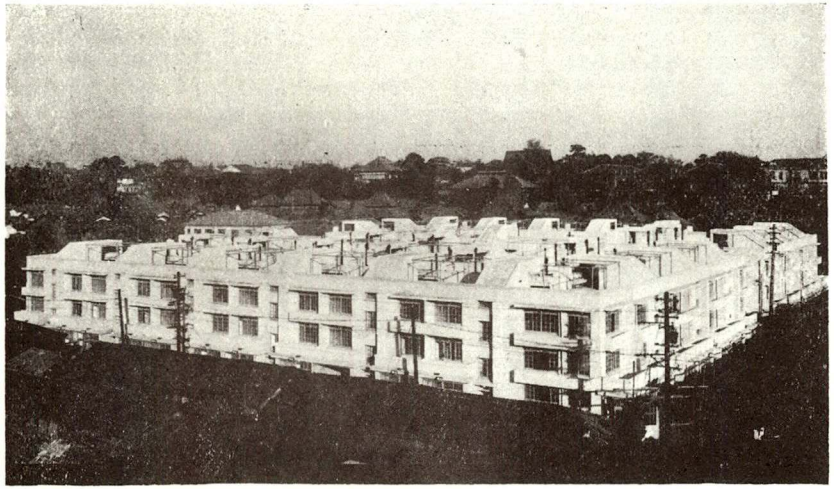




株式會社三十四銀行河原町支店　竣工昭和五年十一月・鐵筋コンクリート造二階建・設計三十四銀行建築係、施工大林組

大阪市立桃園第二小學校　竣工昭和五年九月・鐵筋コンクリート造三階建・工費六萬九千餘圓・設計大阪市建築課・施工合資會社山田組

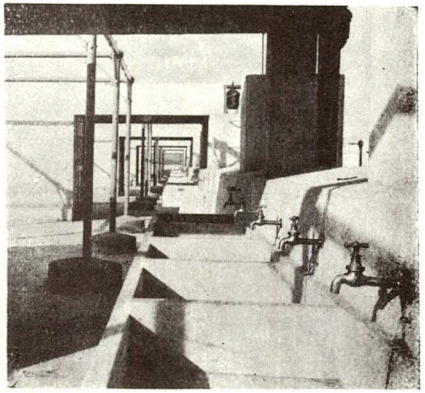
神戸市醫師會館　竣工昭和五年四月・鐵筋コンクリート三階建・施工大林組



1 全　　景



2 外　　觀

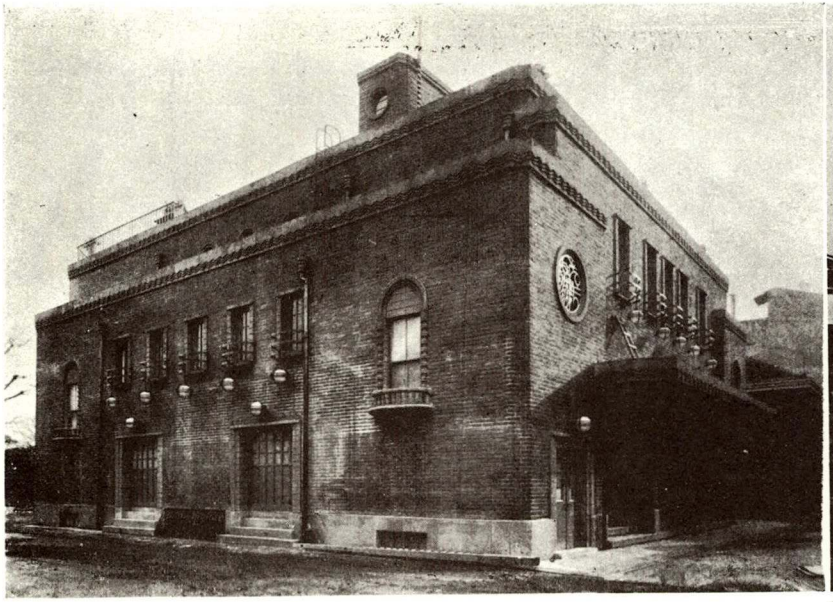


3 屋上洗濯場

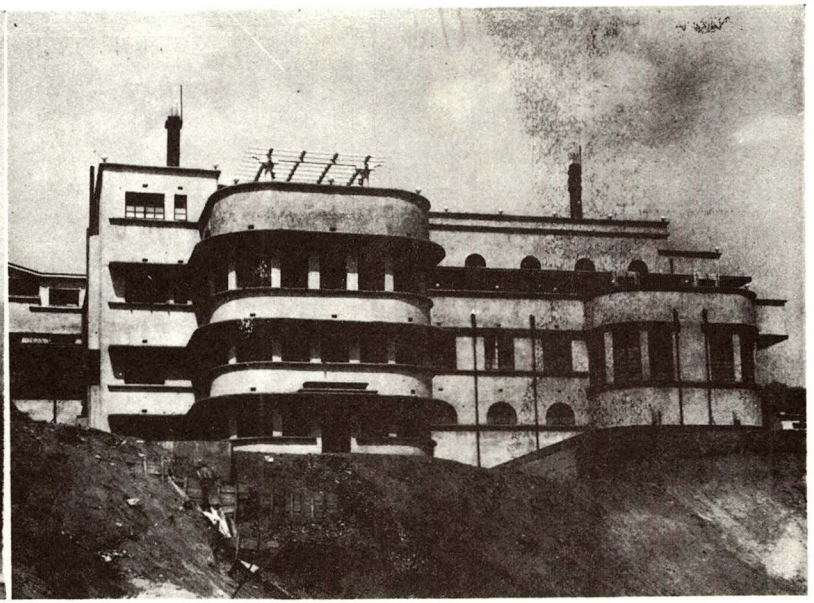
1−3 大阪市・不良住宅アパートメント 竣工昭和五年十一月・鐵筋コンクリート造三階建・工費三十五萬一千圓餘・設計大阪市建築課・施工淺沼組



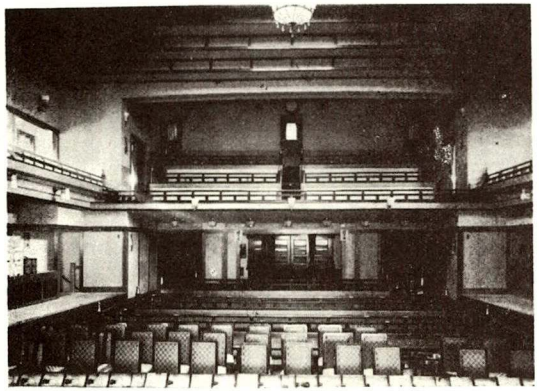
浪速教會・竣工五年七月・鐵筋コンクリート四階五戸・工費六萬圓・設計施工竹中工務店



1 外　　觀

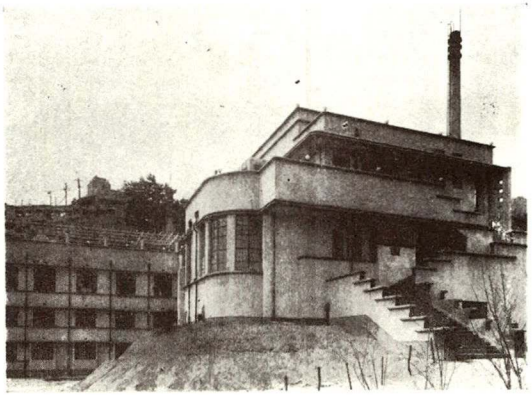


3 外　　觀



2 內　　部

1—2 大阪・庫陽演舞場　竣工昭和五年十二月・鐵筋コンクリート造三階建
設計增田建築事務所

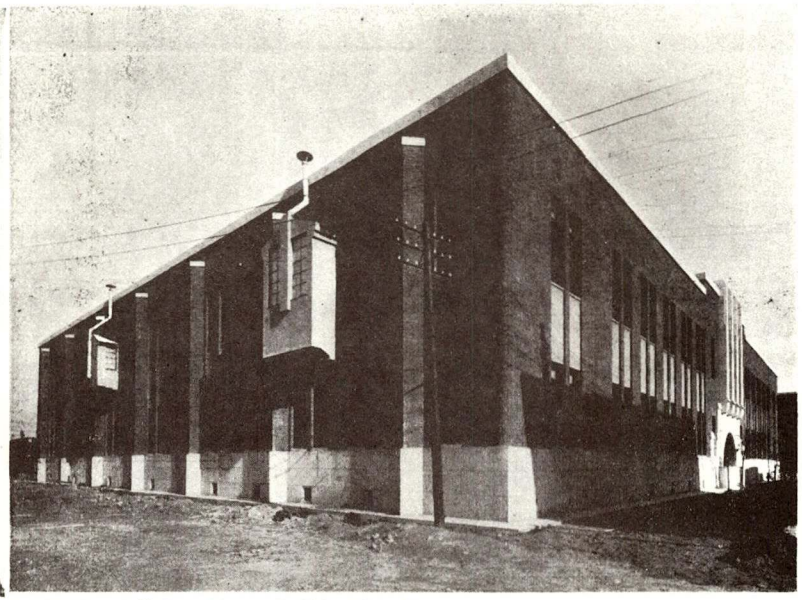


4 側　　面

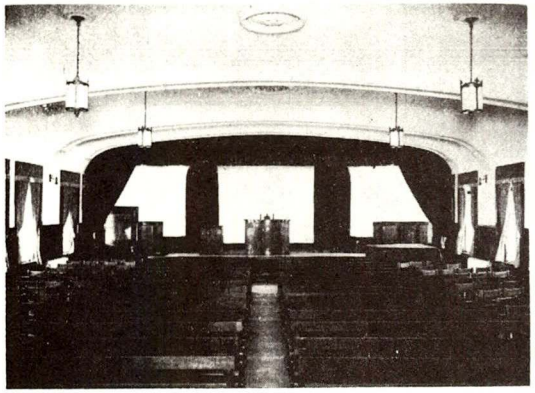
3—4 摩耶倶樂部　竣工昭和五年二月末日・鐵筋コンクリート四階建・施工大林組



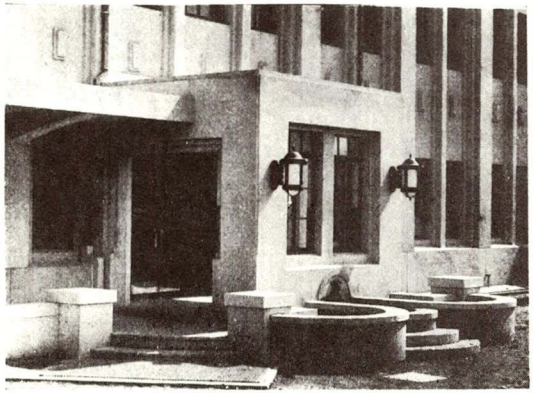
1　帝塚山高女外觀



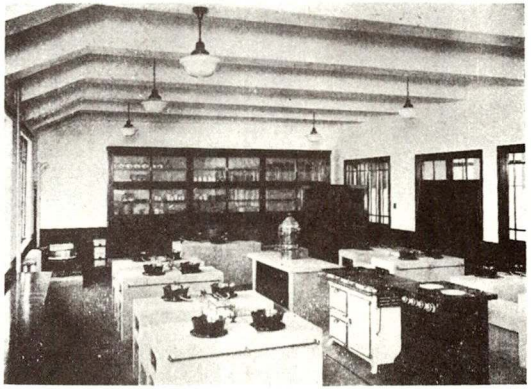
大阪工業大學教室・施工　株式會社大林組



2　講　　堂

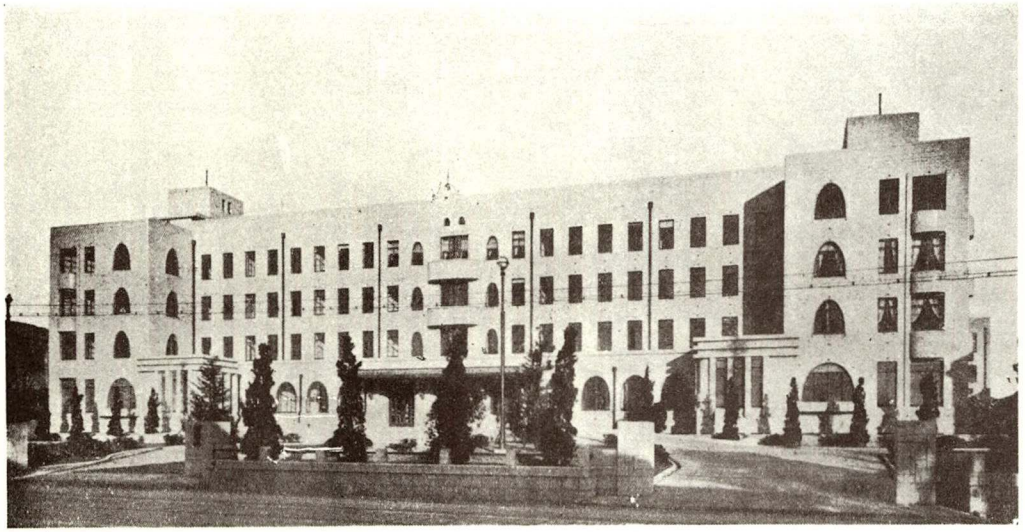


3　生徒昇降口

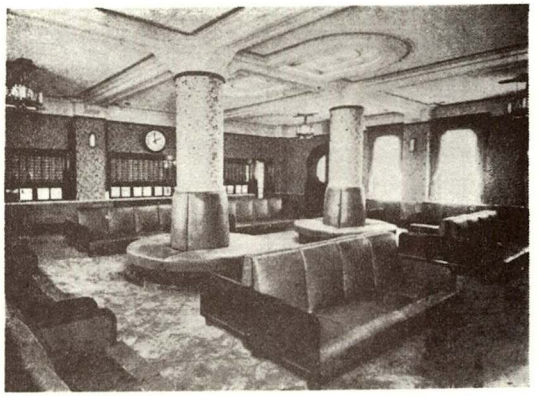


4　割　烹　室

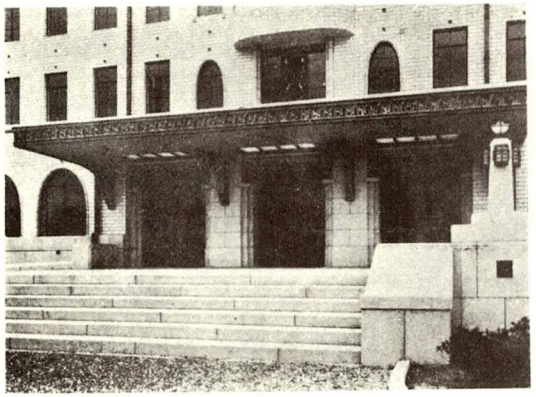
1—4　大阪・社團法人私立帝塚山高等女學校　竣工昭和五年四月・鐵筋コンクリート造三階建・設計建築士岡部顯則・施工合名會社竹中工務店



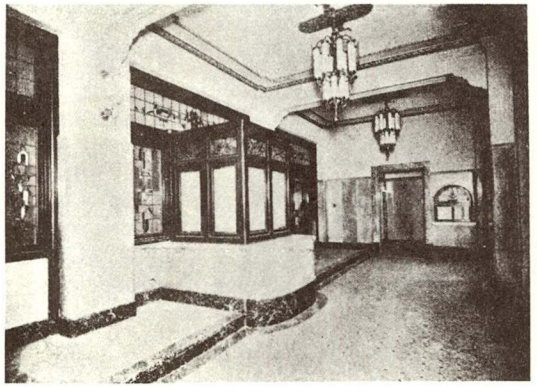
1　本館外觀



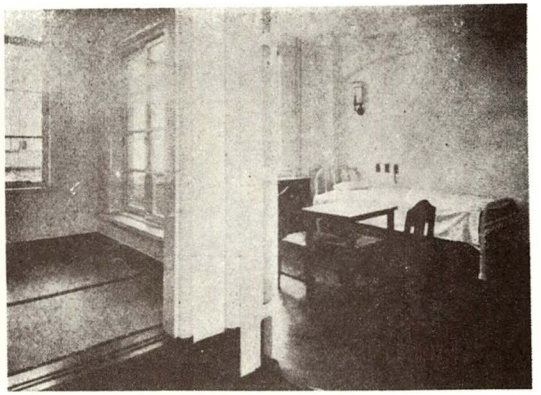
4　一般待合室



2　玄關詳細

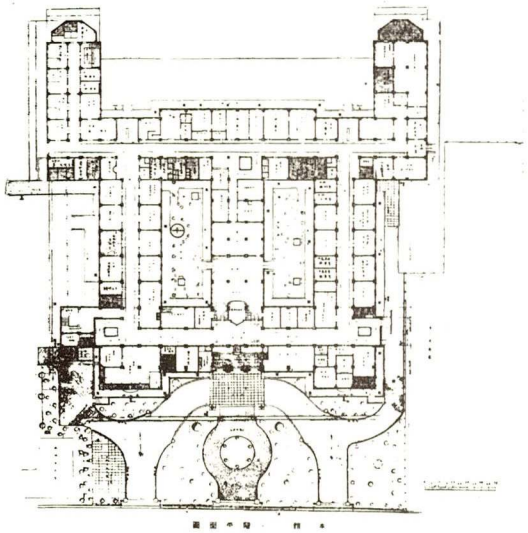


3　玄關內部

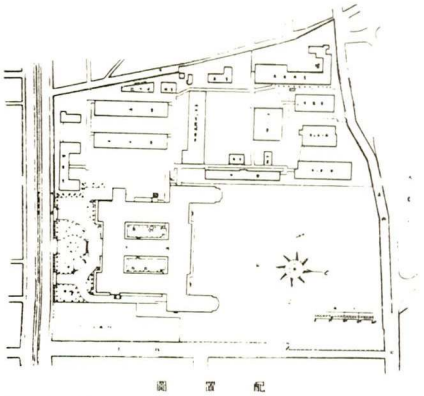


5　一等病室

兵庫縣立神戶病院　竣工昭和五年十二月・鐵筋コンクリート造五階建地階附・設計兵庫縣營繕課・施工合資會社清水組大阪支店



1　第一階平面圖

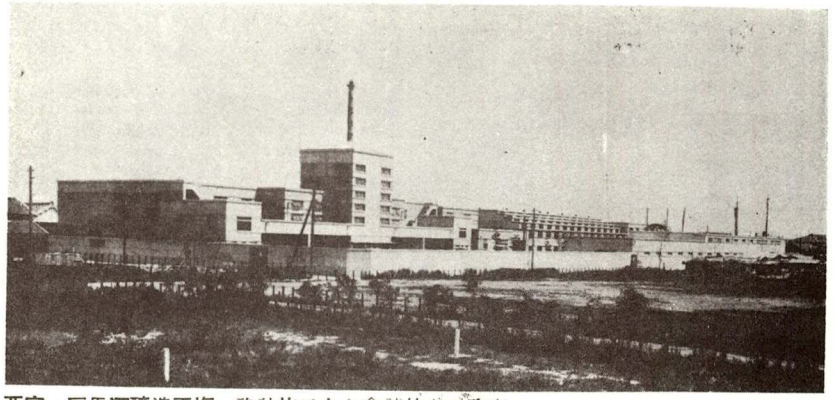


2　配　置　圖

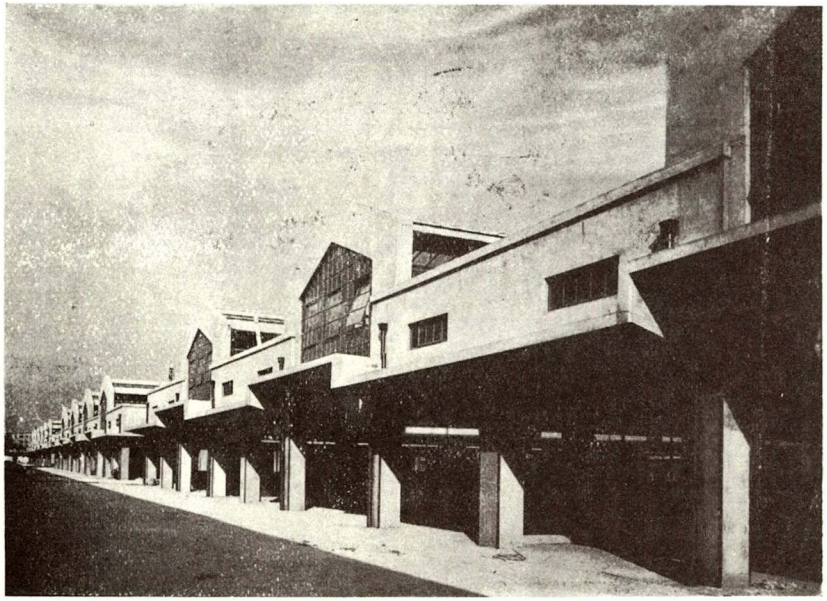
兵庫縣立神戸病院　（前頁つゞき）



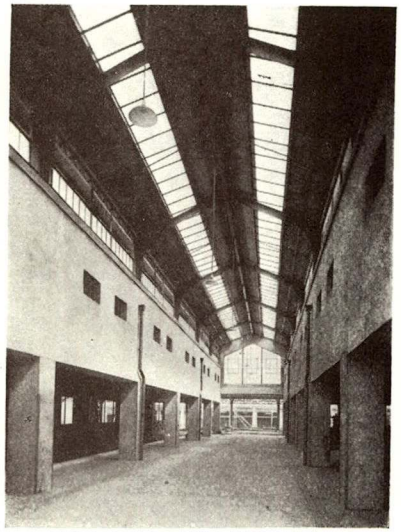
小寺邸　竣工昭和五年三月・鐵筋コンクリート造三階建（一部地階付）工費十五萬圓・設計ヴオーリズ事務所・施工竹中工務店



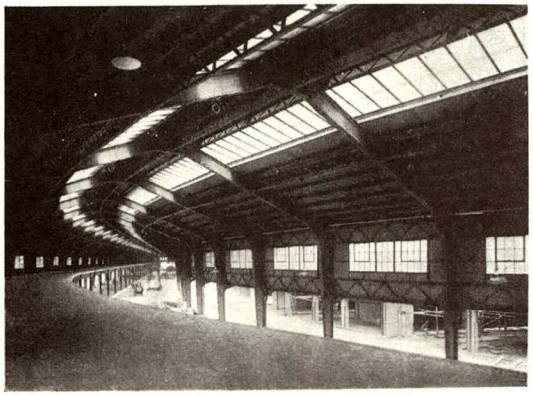
西宮・辰馬酒釀造工場　設計施工合名會社竹中工務店



1　大阪中央市場仲買人賣場

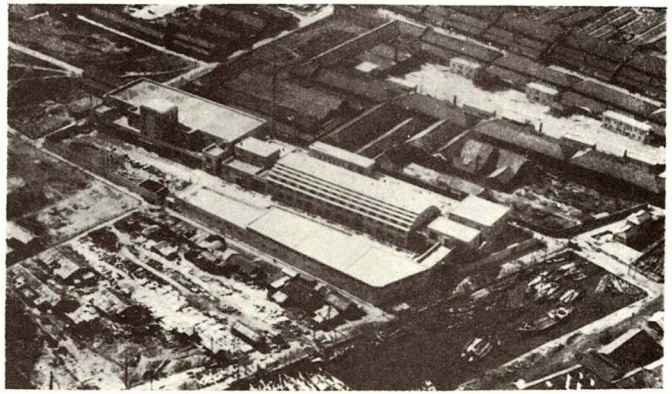


3　大阪中央市場仲買人賣場內部

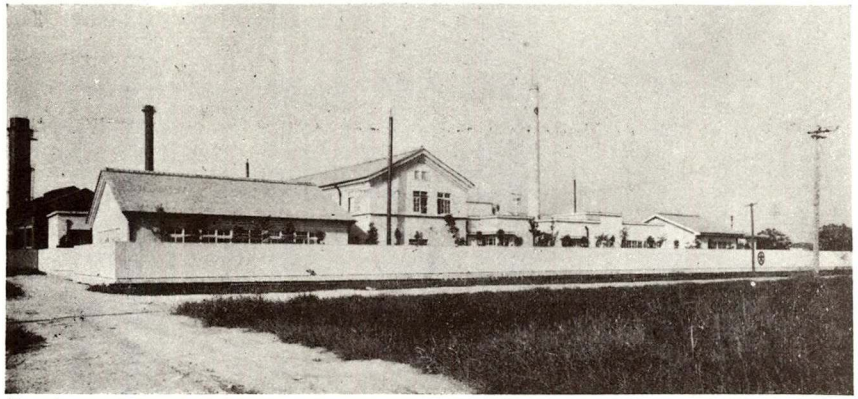


2　同　內　部

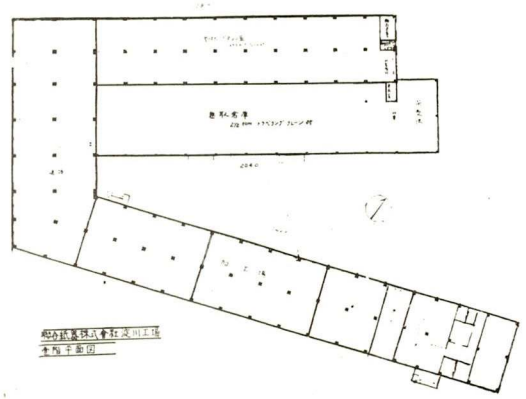
1—3　大阪市中央市場　竣工昭和五年十一月・鐵骨鐵筋コンクリート造一階一部五階建　工費六百八十七萬圓餘・設計大阪市中央市場課並建築課・施工錢高組



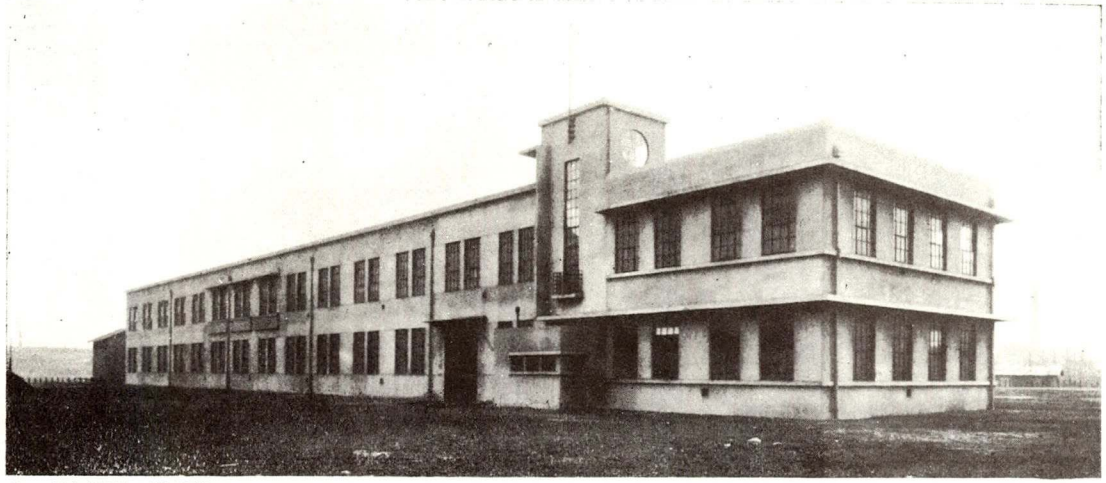
西宮辰馬酒釀造工場　設計施工合名會社竹中工務店



株式會社大丸尼崎食料品工場　竣工昭和五年五月・鐵筋コンクリート造及木造・設計建築士岡部顯則・施工竹中工務店

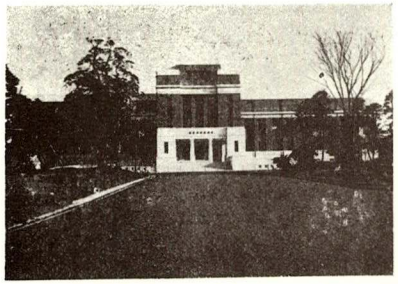


2　聯合紙器工場第一階平面圖

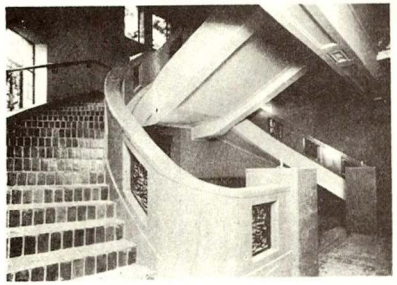


1　聯合紙器工場外觀

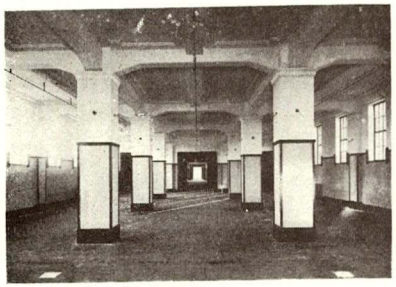
1－2　大阪・聯合紙器株式會社淀川工場　竣工昭和五年九月・鐵筋コンクリート造二階建耐震耐火構造・設計施工合資會社清水組大阪支店



1　東京博物館正面

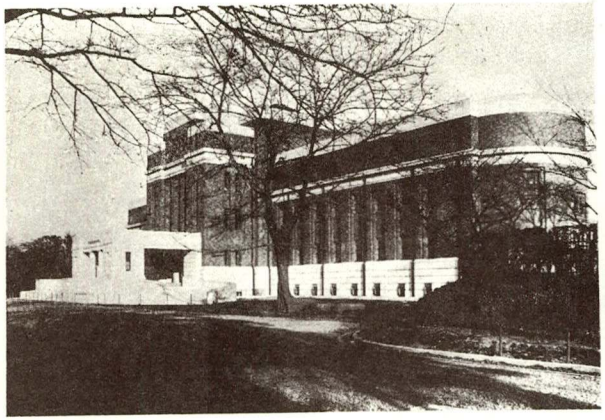


2　東京博物館階段



3　東京博物館陳列所

1—4　東京博物館
施工　大林組



4　東京博物館側面



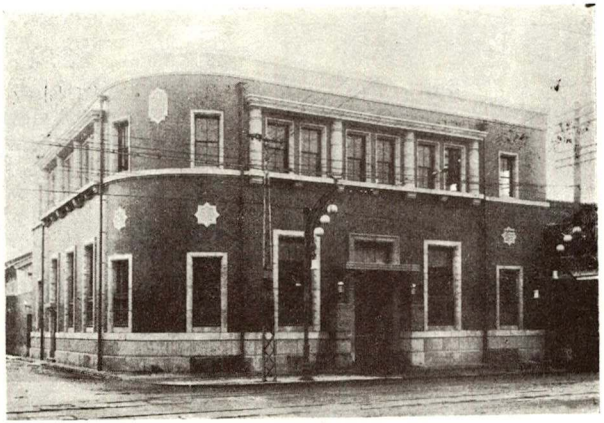
5　猿江裏町同潤會住宅隣保館

5　同潤會住宅　隣保館
施工　大林組



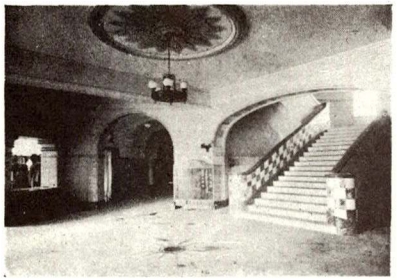
6　姫路商工會議所正面

6　姫路商工會議所
設計　田村保太郎氏
施工　大林組

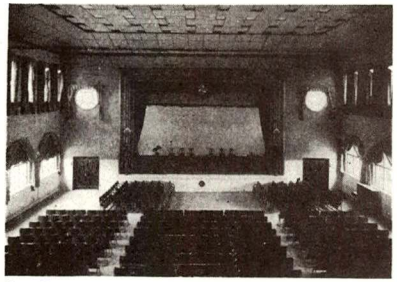


7　山口銀行吳支店外觀

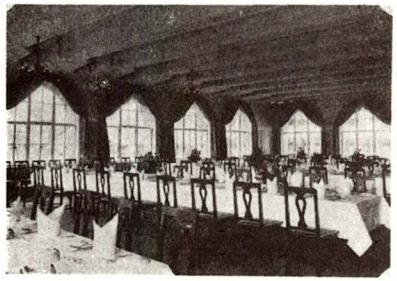
7　山口銀行吳支店
設計　片岡石本建築事務所
施工　竹中工務店



1　熊本市公會堂一階玄關ホール

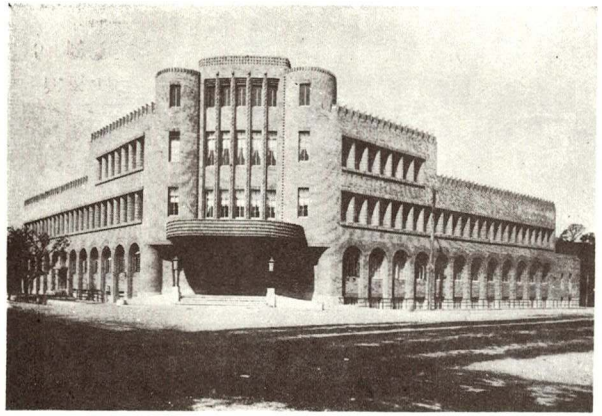


2　熊本市公會堂大集會室



3　熊本市公會堂大食堂

1—4　熊本市公會堂
設計施工　大林組

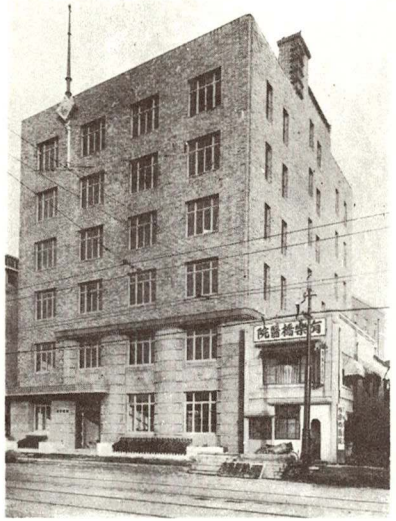


4　熊本公會堂外觀



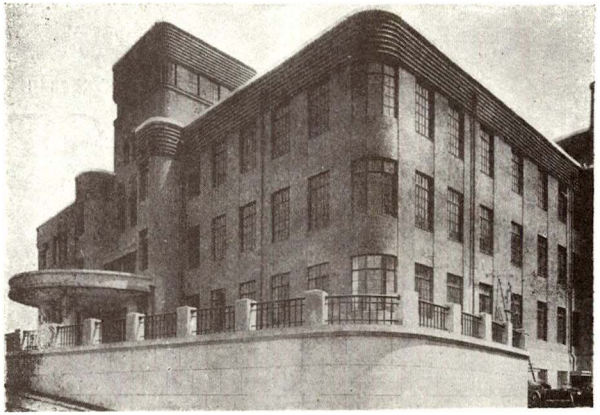
5　片倉生命博多支社

5　片倉生命株式會社博多支社
施工　大林組

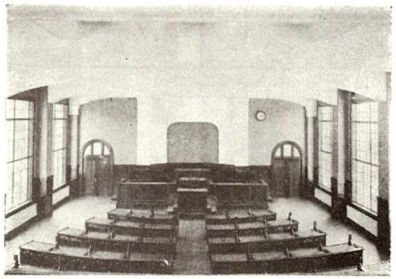


6　建築會館

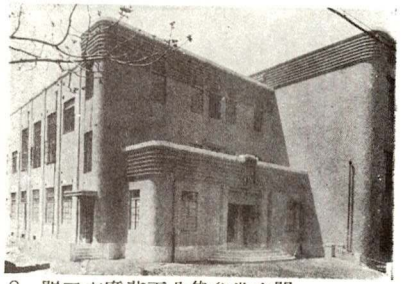
6　建築會館
設計　復興建築助成株式會社
施工　大林組



7　門司市廳・正面及側面

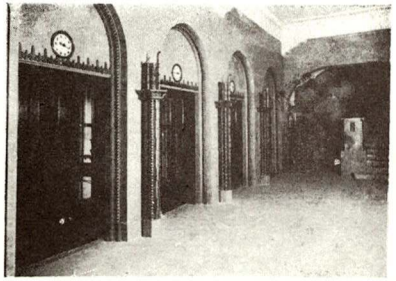


8　門司市廳市會議場

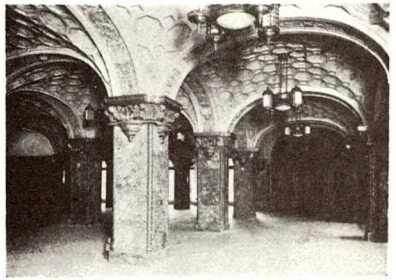


9　門司市廳背面及集會堂玄關

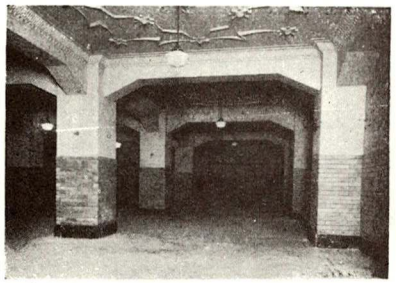
7—9　門司市廳
施工　大林組



1 常盤生命保險株式會社エレベーター室



2 常盤生命保險株式會社第一階廣間

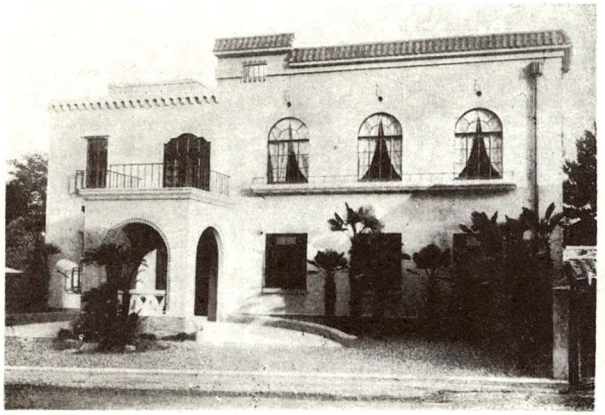


3 常盤生命保險株式會社・食堂

1—4 常盤生命保險株式會社
設計 國枝工務所
施工 大林組

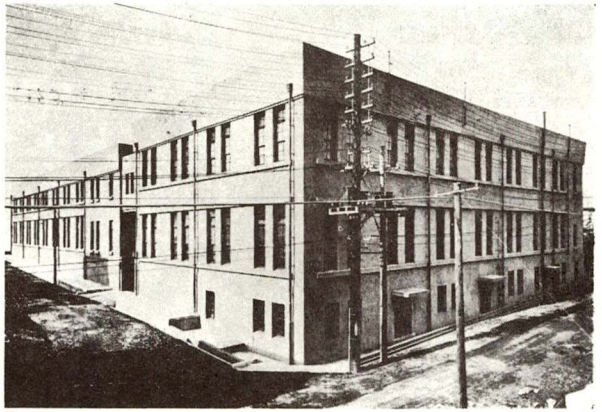


4 常盤生命保險株式會社・外觀



5 濱松銀行集會所・外觀

5 濱松銀行集會所
施工 大林組



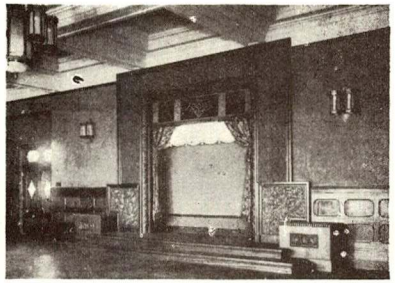
6 沼津郵便局・外觀

6 沼津郵便局
設計 遞信省營繕課
施工 大林組

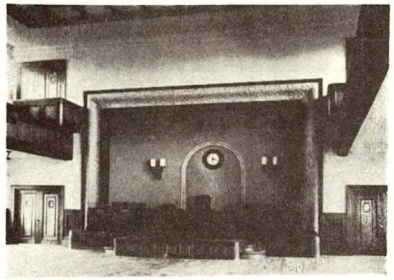


7 內務省土木試驗所・外觀

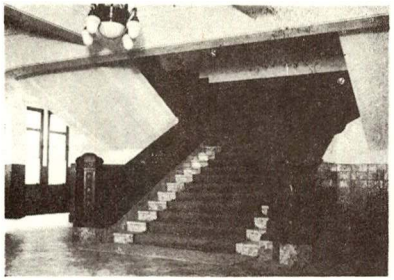
7 內務省土木試驗所
施工 大林組



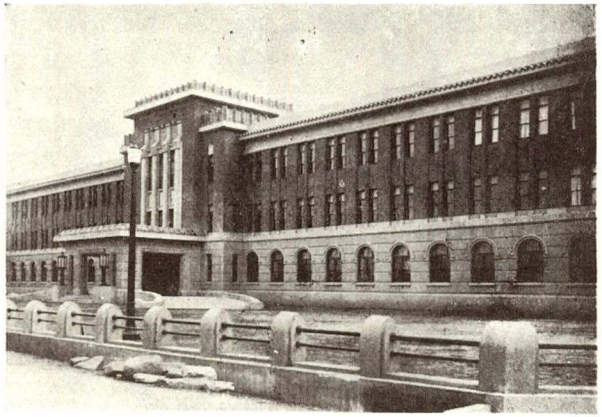
1　德島縣廳・正廳



2　德島縣廳・三階議場



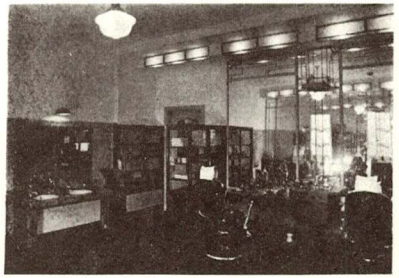
3　德島縣廳・玄關中央階段



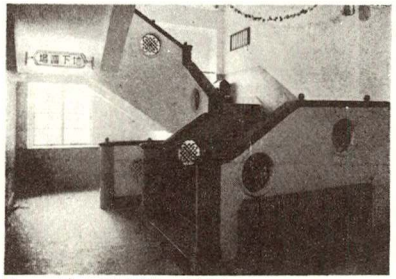
4　德島縣廳・外觀正面



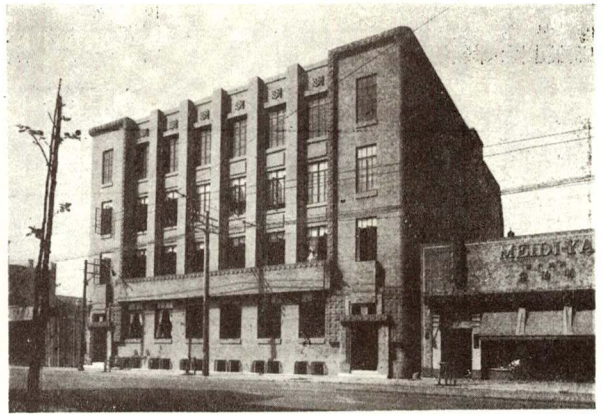
5　三越金澤支店・外觀



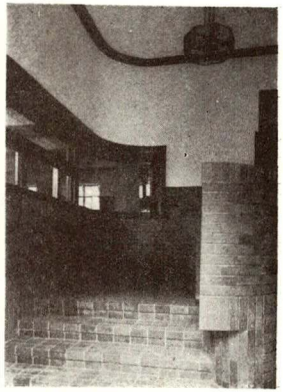
6　三越金澤支店・化粧室



7　三越金澤支店・階段



8　江商株式會社横濱支店・外觀



9　江商横濱支店・外觀

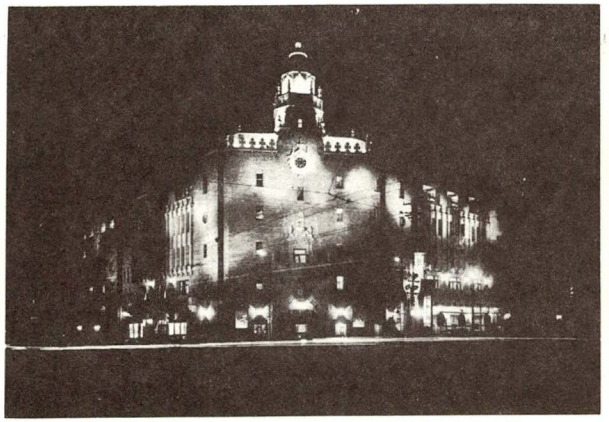
1—4　德島縣廳
施工　大林組

5—7　三越金澤支店
設計施工　大林組

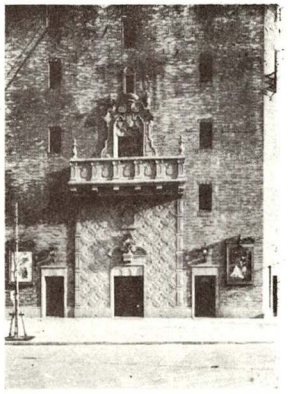
8—9　江商株式會社横濱支店
施工　大林組



1圖 東京劇場・正面



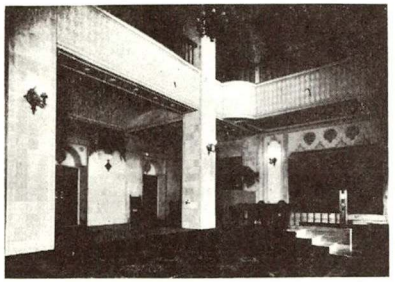
2 東京劇場・夜景



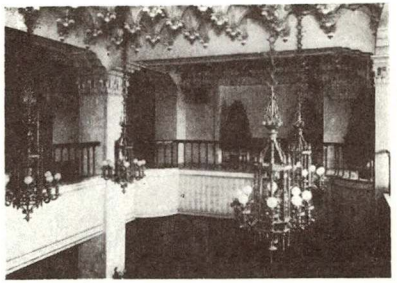
3 東京劇場・隅切角詳細



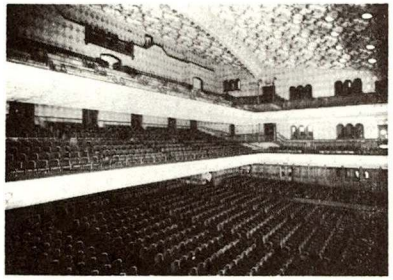
4 東京劇場・側面



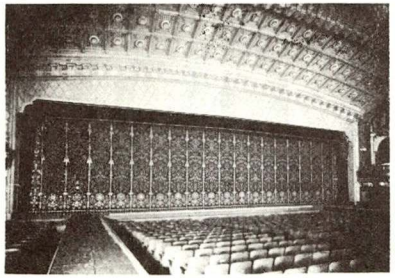
5 東京劇場・大廣間



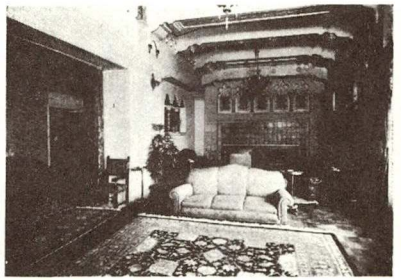
6 東京劇場・廻廊



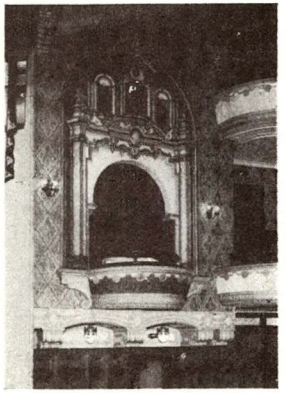
7 東京劇場・觀覽席



8 東京劇場・舞臺正面



9 東京劇場・一階喫煙室

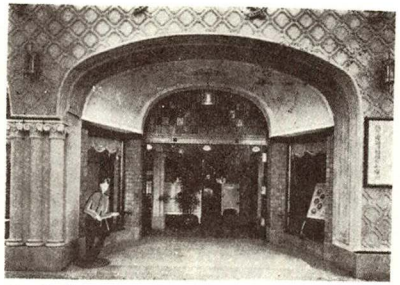


10 東京劇場・特別觀覽席

東京劇場 ・ 設計施工 株式會社 大林組



1 銀座マツダランプ・外觀



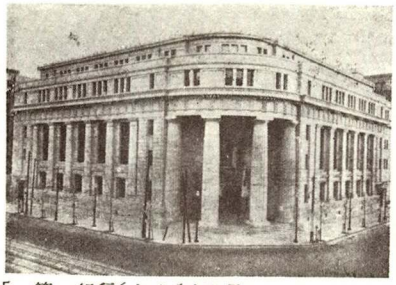
2 銀座マツダランプ・入口



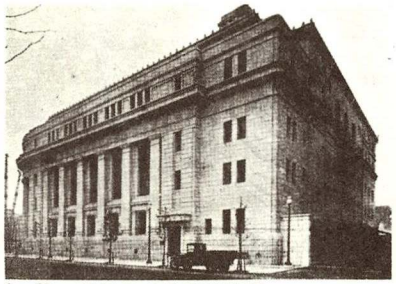
3 銀座マツダランプ・陳列室



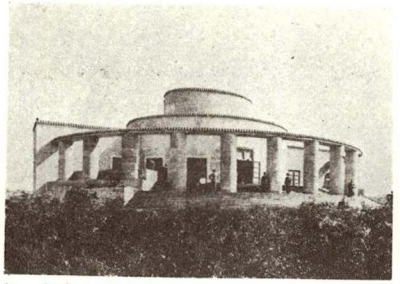
4 銀座マツダランプ・賣店



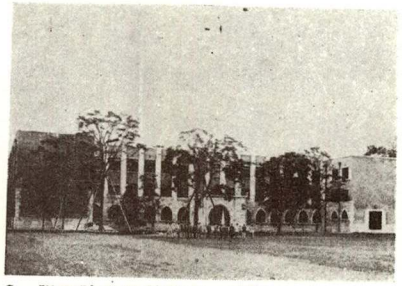
5 第一銀行(丸ノ内)全景



6 第一銀行丸ノ内西側外觀



7 多摩聖蹟記念館



8 學習院中等科教室・外觀



9 柴又帝釋天 題經寺



10 富岡八幡神社(東京)前面



11 富岡八幡神社・前側面



12 富岡八幡神社・側面

1—4 銀座マツダランプ
設計 吉井俊太郎氏
施工 帝國建築社

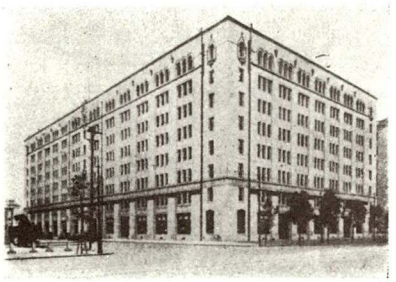
5—6 第一銀行(丸の内)
設計 第一銀行建築課

7 多摩聖蹟記念館
設計 關根建築事務所
施工 大倉土木株式會社

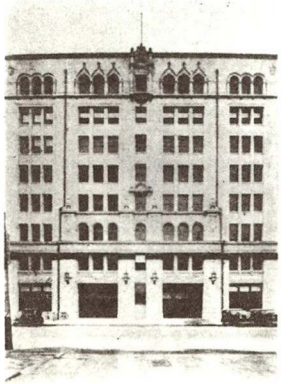
8 學習院中等科教室
設計 宮内省内匠寮

9 柴又帝釋天 題經寺
設計 坂田留吉氏

10—12 富岡八幡宮神社
設計 佐々木建築事務所
施工 松井組



1 東京海上ビルデイング・新館外觀



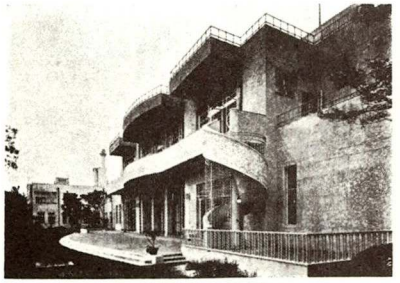
2 東京海上ビルデイング
新館外觀詳細



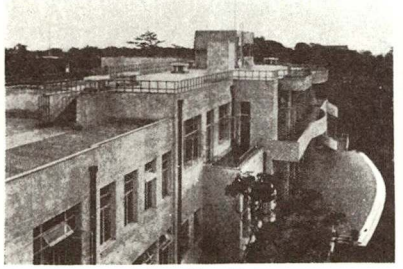
3 日本觀業銀行・外觀



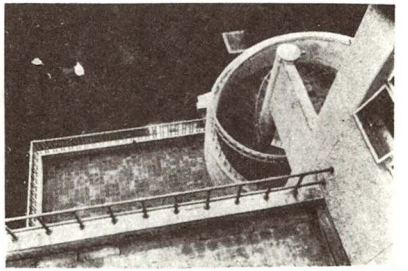
4 日本勸業銀行・營業室



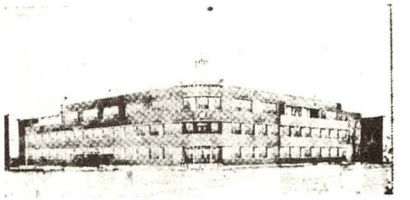
5 ソビエート大使館・外觀



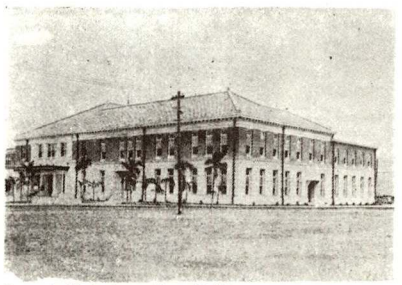
6 ソビエート大使館・屋上



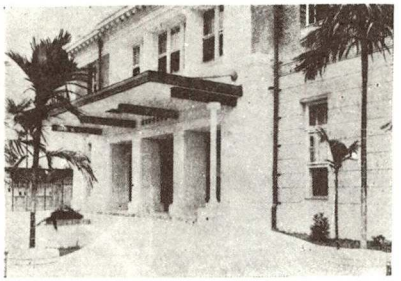
7 ソビエート大使館・庭の階段



8 滿洲日報社・配景圖



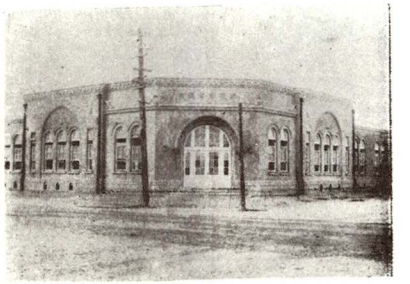
9 高雄青年會館・外觀



10 高雄青年會館・車寄



11 高雄郵便局



12 花蓮港郵便局

1—2 東京海上ビルデイング
設計 曾根中條建築事務所
施工 竹中工務店

3—4 日本勸業銀行
設計 渡邊建築事務所
施工 清水組

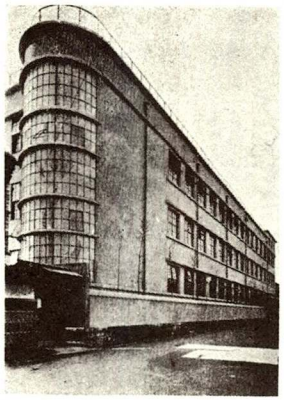
5—7 ソビエート大使館
設計 チエトク氏
施工 大倉土木株式會社

8 滿洲日報社
設計 大倉土木
施工 株式會社

9—10 高雄青年會館

11 高雄郵便局

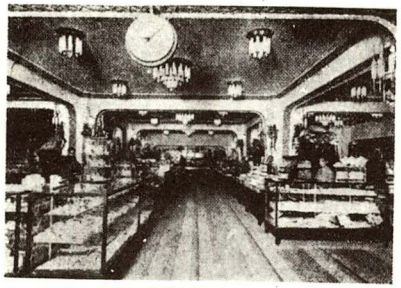
12 花蓮港郵便局



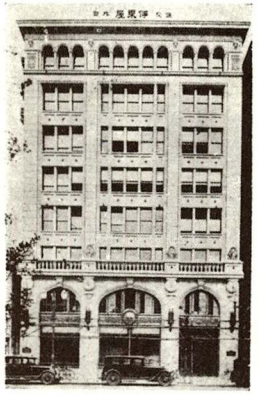
I 東京市立四谷第三小學校



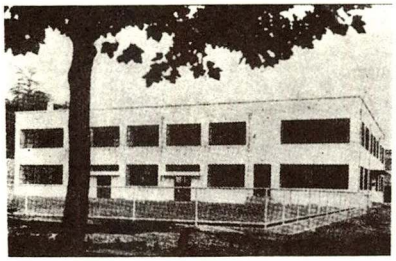
2 伊東屋(東京)一階賣場



3 伊東屋地階賣場



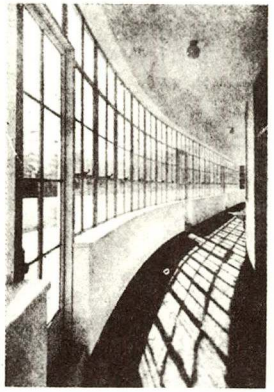
4 伊東屋・外觀詳細



5 電氣試驗所(東京)・全景



6 電氣試驗所・外觀



7 電氣試驗所・三階廊下



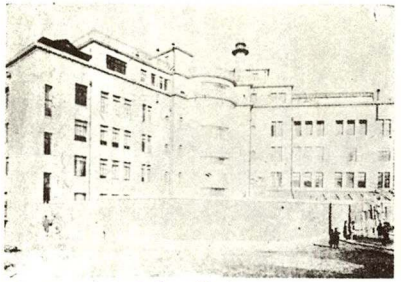
11 加賀ビルディング・外觀



8 京城ゴルフ倶樂部・外觀



9 三越京城支店・外觀



10 三越京城支店・背面

1 **東京市四谷第三小學校**
設計 東京市建築課

2—4 **伊 東 屋** (東京)
設計 岡田建築事務所
施工 木 田 組

5—7 **電氣試驗所**(東京)
設計 遞信省營繕課
施工 飛 島 組

8 **京城ゴルフ倶樂部**

9—10 **三 越 京 城 支 店**
設計 三越建築事務所
施工 多 田 工 務 店

11 **加賀ビルディング**

謹賀新年

和洋家具製造販賣
室內裝飾設計請負
一般塗工業務

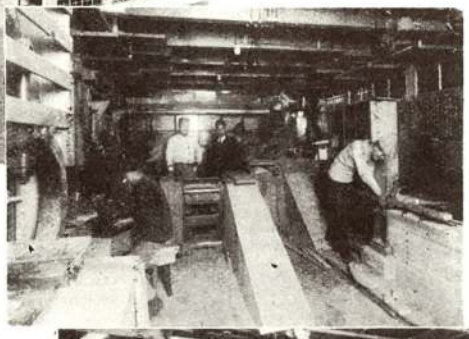
寺井洋家具部

寺井勇一

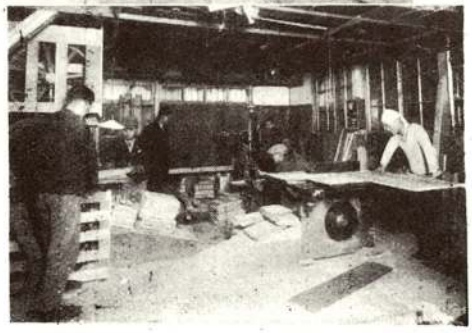
大阪市西區阿波座一番町一番地
電話新町二八八四番
振替大阪三四四三番



弊店工場外觀



機械工場 其一



機械工場 其二

工場概要

創立 大正八年壹月
工場延坪數 貳百拾有餘坪
職工數 參拾數名
機械 拾數台
所要馬力 八馬力

建築と社會第十四輯第一號

廣告目次

ア
有山組……二四
旭砂子株式會社……九三
安藤組大阪支店……二四
淺野スレート株式會社……三五
淺海商店……六〇〇
阿部鐵工所……五〇〇

イ
池山建築事務所……九
池田谷建築事務所……九
池田組……二〇
伊丹商店……二四
伊藤建築事務所……五四
岩元商店建材部……五九
石川商會建材部……六六
石川島織物所裝飾部……七一

ウ
上野建築事務所……九

エ
榮進社……四七

オ
オリエンタルメタル製造所……八八
オキナ商店……五九
大阪ピトロライト工事合資會社……三六
大阪瓦斯株式會社……七六
大阪製鎖所エレベーター部……二五
大阪窯業セメント株式會社……三三
大阪橋本組……二五
大阪瓦斯株式會社……四五〇
大林組……二二四
大倉土木株式會社大阪出張所……一一
大野製作所……八〇
大平工業所……九
小笠原建築事務所……九
小野木橫井共同建築事務所……四六
奥村重兵衛商店……二五
岡本工務店……九九
岡部建築事務所……九
置鹽建築事務所……一〇

カ
金岡養樹園……五
片岡、石本建築事務所……一〇
關西ペイント株式會社……六九
關西ステインドグラス製作所……二六
龜谷開作商店……九
葛野建築事務所……七
川島織物所裝飾部……一

キ
木下謹三商店……八七
桐田商會……五七

ク
クロースルーフキング製造所……九一
國枝工務店……一〇
熊谷熊次郎商店……六

ケ
建築金物商會……表紙四
久保田組……二六

コ
金剛商會……四五
鴻池組……二七
後藤商店……五四
駒井喜鐵工所……二七
宏島大理石工作所（阪口芳三郎）……二七
廣業社……四二

サ
笹岡家具裝飾店……四一
佐久間建材工業所……三〇
佐渡島西店建材部……三四
佐伯組……二七
三五製作所……三六
三杉社……三六
三機工業株式會社……表紙二
澤田合名會社……九四

シ
清水榮二建築事務所……一〇
清水組大阪支店……二八
品川白煉瓦株式會社大阪タイル部……六二
城口研究所大阪支店……八五
設樂建築事務所……一〇
島田硝子製造所……六八
島徳株式會社建材部……二
集成社塗料部……三九
照明學會……九五
須賀商會……五一

セ
清光社……六〇

ゼ
ゼスタンレーウオークス……七八

ソ
宗建築事務所……一〇

タ
田中源太郎商店……九八
田中昌司商店……七五
田中タイリング商會……七
田村商會……二
田村事務所……一七
田島工業株式會社……六五
高松商店……五
高安商店……七二
竹中工務店……二二八
淡海株式會社……四四

ダ
大和工業株式會社……九九
大元商會……九六
WCフラッシュバルブ製作所……五八

テ
テーワイ商會……九一
寺井洋家具店……七一

ト
朝永建築事務所……一〇
東亞瓦工所……六一
東洋陶器株式會社大阪出張所……七四

ナ
南端鑛業株式會社……八七
中川長藏店……二八
中村建築事務所……一一
中村グラニット商會……三四
ナンコク硝子株式會社……三三
內外土木建築材料合資會社……六六

ニ
新田ベニヤ製造所……一〇
日本洋瓦株式會社大阪出張所……五
日本木材工藝株式會社……二
日本ドアーチェック製作所……九
日本セメント防水劑製造所……七
日本ペイント製造株式會社……二
日本建築紙工株式會社大阪出張所……四
日本工劑株式會社……五
日本鋼材株式會社……八
日本銅製建具株式會社大阪支店……七
西原衛生工業所大阪支店……九

ノ
野澤幸三郎商店……二三
野村建築事務所……八六

ハ
橋本建築事務所……一一
汎建製所……一一
原科建築事務所……四
原商事株式會社……一一

フ
藤田商會……七
藤木工務店……二
藤井盛次製作所……八
古塚建築事務所……二九
ベニヤ工房……一一
ベニヤ工房……五
別府ステンド硝子製作所……八
別府ステンド硝子製作所……九
本間建築事務所……七

マ
眞水三橋建築事務所……一一
万年スレート株式會社……三
松村組……八
松本商店……二九

ミ
ミナト製作所……八
三井物産株式會社……三
三村芳太郎商店……三
宮島康夫商店……四
宮島康夫商店……九

ム
村上建築事務所……一一

モ
森本建築社……二九
森岡工業所……二

ヤ
山本東作商店鐵筋部……三八
山中商會……六
山泰商店……五
安井建築事務所……一
矢橋大理石商店……四

ユ
ユニオントレーデング……五

ヨ
米野商店……六
米山製作所……七
橫河工務所……九
橫河橋梁製作所……一
橫河橋梁製作所……四

ラ
ラバロイド商會……三七

レ
玲光社（木內眞太郎）……六四